

日本語研究のモノグラフ

日本語研究叢書は、ひつじ書房創業の発端となり、基礎を築いたシリーズである。ひつじ書房の創業の意志を反映している。日本語の文法研究を中心として、動詞の活用、モダリティ、テンス、アスペクトなど時代の先端的なテーマを扱った研究書を刊行してきた。(創刊した1990年当時の)中堅若手の研究をワンテーマでモノグラフの研究書として刊行しようというのが、出発のテーマ。日本には少なかった研究書を洋書の研究書のようにペーパーバックで刊行するという、体裁の上でも先駆的なものであった。刊行部数は研究書としては多めの1200部以上であるため、比較的安価な価格を設定している。言語研究のジャンルで日本語学と英語学の境界を崩し、言語研究を活性化した革命的なシリーズとして認知され、学術賞の受賞も多い。今後も新たなジャンルを切り開き、そのジャンルを定着させるような代表的な研究を刊行中。現在は第3期まで刊行中。

▶日本語研究叢書 第1期第2巻

鈴木泰著

A5判・424頁・978-4-89476-103-2
定価5250円(本体5000円)
発行1999.7

改訂版 古代日本語動詞のテンス・アスペクト 源氏物語の分析

古代語の動詞の研究は検証されない「通説」であったことを批判しつつ、実証的な論証から古代語の動詞の仕組みにせまる。源氏物語を題材にした分析は、同時に物語のテキストの性質にもせまる。文学研究者にも必読の書として評価の高い書。92年に発行された著書の大規模改訂版。索引付き。

▶日本語研究叢書 第1期第4巻

仁田義雄著

A5判・288頁・2版2刷
978-4-938669-02-7
定価3360円(本体3200円)
発行1991.6

日本語のモダリティと人称

文の成り立ち、文とはなにかというものを考えるときに必須であるモダリティ論の基礎的文献であり、必読の重要な書。文というものに興味を持つ言語研究者以外の人々にもすすめたイロングセラーの文法書。

▶日本語研究叢書 第1期第5巻

澤田治美著

A5判・334頁・6刷・978-4-938669-17-1
定価4620円(本体4400円)
発行1993.5

視点と主観性 日英語助動詞の分析

日本語と英語を「視点」や「主観性」をキーワードにして分析した、認知言語学的考察の書。扱われているテーマは、意味解釈の重層性をはじめとして、代名詞、助動詞、副詞、視点、描写の方向性など、多岐にわたっている。微妙な意味の違いの考察は、言語研究だけでなく、テキスト研究にも有益である。

第29回市河三喜賞受賞

▶日本語研究叢書 第2期第1巻

山梨正明著

A5判・320頁・6刷・978-4-938669-42-3
定価4410円(本体4200円)
発行1995.4

認知文法論

認知言語学の第一人者による文法論。カテゴリー化のプロセス、イメージスキーマとメンタルモデル、転義と文法化のプロセス、メタファーとメトニミー、視点とプロトタイプ、意味の慣用化とブリーチング等の問題を実証的に考察しながら、言葉とこころのメカニズムにかかわる言語研究の新しい方向を探究。認知科学の観点から、言葉と人間の認識のメカニズムの解明を目指す。

▶日本語研究叢書 第2期第2巻

鎌田修著

A5判・320頁・2刷・978-4-89476-118-6
定価3360円(本体3200円)
発行2000.1

日本語の引用

どの言語にもある「引用」という言語行為は、それがどのようなプロセスを経て、どのように表現されるのかまだ十分に明らかにされていない。本書はまず「引用」とは何なのか、という概論を述べ、それから日本語の「引用」の統語的特徴「視点」、「モダリティ」の観点から記述する。さらに、「引用」を通して生じる「場の二重性」に見られる社会言語学的現象を観察し、引用表現の類型化、その選択の記述、説明を計る。最後に、中間言語としての日本語に見られる伝達表現を観察し、日本語教育への意義を唱える。

▶日本語研究叢書 第2期第3巻

金水敏著

A5判・342頁・2刷・978-4-89476-265-7
定価5250円(本体5000円)
発行2006.2

日本語存在表現の歴史(日本学術振興会助成刊行物)

日本語の存在表現の中でとりわけ重要な「ある」「いる」「おる」の歴史的な研究。この3語は、中央の文献にも歴史を通して現れ、さらに方言としても幅広い地域に存在している。しかも、単に存在を表すだけではなく、所有関係や出来事持続なども表すという日本語の構文論にとって重要な語である。この3語を取り扱い、日本語存在表現の多様な問題を、歴史的なアプローチを通して解き明かしていく。

平成18年度新村出賞受賞

| | |
|--|--|
| ▶日本語研究叢書 第2期第4巻 | 文法と語形成 |
| 影山太郎 著 | 日本語における語形成と統語論・意味論が関わり合う種々の現象を観察し、そこから、生成文法における形態論の在り方を理論的に考察する。とりわけ、語彙的な語形成と統語的な語形成を包括するモジュール理論を提唱する。 |
| A5判・396頁・5刷・978-4-938669-19-5 定価5097円(本体4854円) 発行1993.10 | 第22回金田一京助博士記念賞受賞 |

| | |
|--|--|
| ▶日本語研究叢書 第2期第7巻 | アスペクト・テンス体系とテキスト 現代日本語の時間の表現 |
| 工藤真由美 著 | 日本語のアスペクト・テンス体系はどうなっているか。時間の問題はテキストの問題でもあり、語りの問題でもあることから、言語研究者ばかりでなく、原理的にテキストを研究する際にも有益。アスペクト・テンス論の古典と呼ぶべき最も基礎的文献。 |
| A5判・317頁・5刷・978-4-938669-59-1 定価4410円(本体4200円) 発行1995.11 | |

| | |
|--|---|
| ▶日本語研究叢書 第2期第8巻 | 日本語形態論 |
| 城田俊著 | 自立的品詞を、語尾形・語幹形・文形に分けその形態を厳密かつ詳細に記述。副詞・連体詞という品詞の設定の矛盾を明らかにしながら、格助詞の形態論上の位置を明確化する。単純、明解、等身大の日本語文法を提示。一般言語理論に基づく本格的日本語形態論。 |
| A5判・416頁・2刷・978-4-89476-159-9 定価4200円(本体4000円) 発行2002.4 重版予定 | |

| | |
|---|--|
| ▶日本語研究叢書 第3期第1巻 | 日本語のテキスト 関係・効果・様相 |
| 野村眞木夫 著 | センテンスやテキスト相互の関係性をシステム論的に追求する。文の連続とテキストはどう違うのかから、テキストを組織化する手段やテキストを創出するシステムにまで言及する。社会システム論や言語理論にも目配りしながら文章と談話を同等にとりあげ、バランスのよい議論を展開する。 |
| A5判・368頁・978-4-89476-129-2 定価5040円(本体4800円) 発行2000.11 | |

| | |
|---|--|
| ▶日本語研究叢書 第3期第2巻 | 日本語名詞句の意味論と語用論 指示的名詞句と非指示的名詞句 |
| 西山佑司 著 | 文中に登場する名詞句の意味解釈の問題を、とくに指示性・非指示性という観点から考察する。まず、先行研究の問題点を指摘した上で、「変項名詞句」という概念の導入が必要であることを論じる。この概念を用いて、「は」と「が」の区別に関する重要な側面を指摘する。そして、日本語のコピュラ文にたいする意味解釈、「変わる」「分かる」「知る」「ある」「いる」などを含む文にたいする意味分析を行い、名詞句と疑問文構造とのあいだの意味論的・語用論的関わりを論じる。 |
| A5判・452頁・2刷・978-4-89476-180-3 定価4935円(本体4700円) 発行2003.9 | |

日本語研究資料集

▶日本語研究資料集 第1期第7巻

金水敏・田窪行則 編

A5判・210頁・2刷・978-4-938669-09-6
定価2625円(本体2500円)
発行1992.10

指示詞

コソアド、指示詞についての代表的論文をあつめたものに、詳細な文献リストを付す。収録論文：1 コソアド研究の流れ〔一〕古田東朔／2 指示の場と指す語―「人代名詞」と「こそあど」― 佐久間鼎／3 コソアド抄―『文法小論集』より一部― 三上章／4 「場面」と「場」高橋太郎／5 コレ・ソレ・アレと this, that ―『英語基礎語彙の研究』より― 服部四郎／6 指示語「コ・ソ・ア」の機能について 阪田雪子／7 コ・ソ・ア―『日本文法研究』より― 久野暉／8 指示語の表現性 堀口和吉／9 (コ)・ソ・アについて 黒田成幸／10 日本語の指示詞 コソアの体系 吉本啓／11 談話管理理論からみた日本語の指示詞 金水敏 田窪行則 文献リストを2004年時点にアップデートして重版。

▶日本語研究資料集 第1期第8巻

須賀一好・早津恵美子 編

A5判・250頁・2刷・978-4-89476-134-6
定価2835円(本体2700円)
発行1995.8

動詞の自他

動詞の自他についての代表的論文をあつめたものに解説と詳細な文献リストを付す。収録論文：1 詞の自他の事(『詞の通路』より) 本居春庭／2 動詞の自他被使動の研究 松下大三郎／3 動詞の派生について―自他对立の型による― 西尾寅弥／4 自動化・他動化および両極化転形―自・他動詞の対応― 奥津敬一郎／5 『変形文法と日本語(下)』より 井上和子／6 使役―自動詞・他動詞との関わりにおいて― 青木伶子／7 自他違い―自動詞・他動詞の対応― 須賀一好／8 自動・他動・受身動詞について 野村剛史／9 状態変化主体の他動詞文 天野みどり／10 「他動性とプロトタイプ論」より ウェスリー・M・ヤコブセン／11 有对他動詞と無对他動詞の違いについて―意味的な特徴を中心に― 早津恵美子／12 「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」より 野田尚史

▶日本語研究資料集 第1期第13巻

斎藤倫明・石井正彦 編

A5判・354頁・978-4-938669-78-2
定価3255円(本体3100円)
発行1997.4

語構成

語構成に関する代表的論文15編をあつめ、詳細な文献リストと解説文「研究史的素描―語構成論において取り扱われてきた／ている／るべきこと―」を付す。収録論文：1 語構成序説 阪倉篤義／2 語構成の特質 斎賀秀夫／3 日英語の語形成 影山太郎／4 形態素論―語基の分類― 森岡健二／5 無意味形態素 宮島達夫／6 和語は造語力が弱いか 玉村文郎／7 漢語ノ組立ト云イカエノ研究 ワカバヤシマサオ／8 現代洋語の構成 宮地裕／9 複合名詞の生成文法 奥津敬一郎／10 あわせ名詞の意味記述をめぐる ゆもしようなん／11 動詞連用形の名詞化に関する一考察 西尾寅弥／12 複合動詞の構造 長嶋善郎／13 複合動詞・「～つく」と「～つける」 姫野昌子／14 複次結合語の構造 野村雅昭／15 臨時一語の構造 林四郎

| | |
|--|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第23巻 | Old English Constructions with Multiple Predicates 〈文部省助成刊行物〉 |
| 大門正幸著 | 古英語における述語を複数含む構文では、「述語1＋述語2」および「述語2＋述語1」いずれの語順も許される。本書はこの2種類の語順の選択がどのような要因によって決定されていたのかを様々な角度から考察したものである。ファイルメーカーによるデータベース(CD-ROM)を付す。 |
| A5判・200頁・978-4-89476-132-2 定価7770円(本体7400円) 発行2001.1 | |

| | |
|--|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第24巻 | Bound variables and coreferential pronouns Zero and overt pronouns in Japanese and English〈文部省助成刊行物〉 |
| 杉浦滋子著 | 代名詞を、形態的ではなく意味的に、指示物をもつ指示代名詞と先行詞によって束縛される束縛変項とに分類することにより、日本語と英語の有形代名詞とゼロ代名詞を分析することを試みた。 |
| A5判・212頁・978-4-89476-138-4 定価13650円(本体13000円) 発行2001.2 | |

| | |
|--|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第26巻 | Discourse Politeness in Japanese Conversation Some Implications for a Universal Theory of Politeness〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 宇佐美まゆみ著 | 日本語会話における「ディスコース・ポライトネス」を、条件を統制して収集された大量の自然会話データに基づいて分析し、ポライトネスの普遍理論への新しい独自の観点を提示したポライトネス理論についての実証的な研究書。(英文) |
| 菊判・348頁・2刷・978-4-89476-154-4 定価6888円(本体6560円) 発行2002.2 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第27巻 | 日本語文法の発想 |
| 森田良行著 | 「ここはどこ?」「まもなく名古屋駅です。」「人の噂も75日」など、普段なにげなく口にしたり、耳にする言語表現。そのあたりまえのように使っている日本語に、日本人ならではのものの見方や考え方が見え隠れしていることを「発見」できる日本語論。法律の条令文や役所からの公布文が味気なく感じられる理由も、翻訳調の文章がしっくりこない理由も、日本人の発想の本質を究明しながら個々に明らかにされていく。日本語らしい表現の文法が「表現者の視点」に裏打ちされていること、その日本語の本質的な有り様を、数々の実例を通して知ることができる、日本語学習入門者にとっても貴重な1冊。 |
| A5判・320頁・2刷・978-4-89476-147-6 定価3360円(本体3200円) 発行2002.1 | |

| | |
|---|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第28巻 | 文法化とイディオム化 |
| 秋元実治著 | 文法化研究は生成変形文法や認知言語学と並んで歴史言語学において主要なテーマになっており、英語史の分野にとどまらず、ますます発展する領域である。従来 of 文献学的テキストの厳密な解釈とマクロ的言語変化理論の構築を超える史的言語研究としての文法化に関する包括的研究。 |
| A5判・282頁・978-4-89476-175-9 定価3780円(本体3600円) 発行2002.11 | |

| | |
|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第30巻 | 語彙論的語構成論 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 斎藤倫明著 | 国語学的研究の流れを発展させた語彙論的視点による、現代日本語の語構成の研究。語構成要素から語が生まれるまでのプロセスを「単語化」の概念に基づいて考察する。『現代日本語の語構成論の研究―語における形と意味―』以降の10余年間に発表した論考をおさめた。「語構成原論」「語構成と多義」「『語』をめぐって」の3部からなる。 |
| A5判・304頁・978-4-89476-198-8 定価5460円(本体5200円) 発行2004.2 | |

| | |
|--|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第31巻 | 現代日本語の漢語動名詞の研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 小林英樹著 | 文中での振舞いも視野に入れながら、漢語動名詞の語構成を分析する。漢語の語構成について、野村雅昭氏の研究後の空白を埋める研究。 |
| A5判・369頁・978-4-89476-199-5 定価6300円(本体6000円) 発行2004.2 | |

| | |
|---|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第33巻 | 動詞九章 |
| 高橋太郎著 | 動詞の動詞らしさとは、という問いに対する蓄積された研究の一端。フィールドの広がりから動詞を明らかにする。アスペクト・テンス、ヴォイスなど9つの章を立て分析を進める。 |
| A5判・326頁・978-4-89476-213-8 定価4410円(本体4200円) 発行2003.11 | |

| | |
|---|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第34巻 | 対照言語学の新展開 |
| 佐藤滋・堀江薫・中村渉編 | I.日本語と英語の対照(認知言語学・機能言語学) 移動と変化の言語表現:認知類型論の視点から 小野尚之／COMEとクルの意味拡張における到達点の違い 菊地敦子／日本語の統語処理に関わる脳領域 佐々祐子・佐藤滋・川島隆太／非完結相「ている」の意味決定における瞬間性の役割 白井恭弘 II.日本語と英語の対照(生成言語学・形式意味論) 日英語の名詞修飾節の対照:パラメーターによる分析 川平芳夫／数量詞の形式と量化の領域:日英語の対照の観点から 小林昌博／日英語の寄生空所に関する一考察 高橋大厚／手話の構成性と手話動作の様相的記述 仁科弘之／焦点移動としてのかき混ぜと分裂文 山田誠／第二言語獲得における刺激貧困の問題 遊佐典昭／日本語複文テンスの構成的意味論:英語との対照の観点から 吉本啓 III.日本語と韓国語の対照 日韓語対照研究による敬語の文法化に関する一考察 上原聡／終結語尾「-스」(-ci)の意味と用法:情報のなわ張り理論の観点から 平香織／文法体系における動詞連用形の位置づけ:日本語と韓国語の対照研究 塚本秀樹／関西方言の否定形式交替現象に関する認知言語学的研究:韓国語との対照に基づいて 堀江薫・近藤絵美・姜奉植・守屋哲治／韓国語副詞句がアスペクト形式に与える生起制約と意味制約:日本語との対照を通じて 若生正和 IV.日本語とその他の言語の対照・類型論的研究 類型論とメンタル・ロジック:接続語の再考 大堀壽夫／カバンバンガン語と日本語の他動構文 北野浩章／水海道方言の無声化と標準語の無声化:最適性理論による分析 佐々木冠／名詞句のイベント解釈とコントロール ダニエラ・カルヤヌ／デフォルト格と汎用格:格組織の機能主義的類型論へ 中村渉／多言語における抽象関係概念のコード化:英語の‘with’とそれに対応するレッグボ語、日本語の比較 ハイコ・ナロック／人称代名詞におけるジェンダーの相互作用 アンドリュー・パーク／日・越両言語における多機能化の特徴について:「トコロ」+格助詞の接続助詞化と‘mo’i, ‘da’の連詞化の場合 村上雄太郎 |
| A5判・548頁・978-4-89476-217-6 定価14700円(本体14000円) 発行2004.7 在庫僅少 | |

| | |
|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第35巻 | 日本語のアスペクト・テンス・ムード体系 標準語研究を超えて |
| 工藤真由美編 | 東北から沖縄に至る諸方言が提示するアスペクト・テンス・ムードの様々な現象形態や相関性のありようを記述する。本研究において標準語の文法現象の問題は逆照射されている。諸方言のアスペクト調査から出発し、アスペクト・テンス・ムードの関わりあい、形容詞述語を含めた文法的カテゴリーの考察へと展開した調査研究(3期7年間)の成果を統合。 ★CD-ROM付 |
| A5判・360頁・978-4-89476-231-2 定価6510円(本体6200円) 発行2004.11 在庫僅少 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第36巻 | 現代日本語の疑問表現 疑いと確認要求〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 宮崎和人著 | 疑問文のなかにある話し手の認識や判断を取りだすを試みた、モダリティ研究の一環としての日本語の疑問文の研究。推量と疑問の接点、話し手の思考過程の反映としての〈疑いの文〉を認識的モダリティへ位置づけ、話し手の認識を表す文からの派生・移行、当為性判断の関与といった観点から〈確認要求文〉を分析し、否定疑問文の述語形態と機能の関係を記述する。 |
| A5判・236頁・978-4-89476-235-0 定価5460円(本体5200円) 発行2005.2 在庫僅少 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第37巻 | 事態概念の記号化に関する認知言語学的研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 谷口一美著 | 認知言語学的アプローチにより日英語の文法構文の分析を行う。前半において基本的な文法概念について認知言語学的定義づけを行い、後半において共時的・通時的側面および日英語の対照から分析を行う。 |
| A5判・364頁・978-4-89476-236-7 定価6510円(本体6200円) 発行2005.2 在庫僅少 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第40巻 | 複合動詞・派生動詞の意味と統語 |
| 由本陽子著 | モジュール形態論から見た日英語の動詞形成〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| A5判・368頁・978-4-89476-261-9 定価7140円(本体6800円) 発行2005.7 在庫僅少 | 日本語の複合動詞と、それに対応する英語の派生動詞の個々の語形成に注目し、その意味と統語的素性を詳しく考察する。先行研究では看過されてきた意味的な側面に焦点を当てた分析を提案し、さらに動詞概念の形成を日英間のみならず、形成される部門間で比較対照することにより「モジュール形態論」を意味解釈メカニズムの観点から支持すると同時に、形態論や概念意味論における重大な問題に対しても意義深い提案をしている。 平成17年度新村出賞受賞 |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第41巻</div> | <div><div></div>発話行為的引用論の試み〈広島修道大学学術選書28〉</div> |
| <div><div></div>中園篤典 著</div> | <div><div></div>現実の発話はず必ず具体的なコミュニケーションの中で発せられ、それが遂行する機能もその中で様々に変化する。したがって、発話行為（言語行為）論の有効性を示すには、コミュニケーションをどう扱うかが重要である。本書では現実の談話資料を直接分析する方法をとらず、引用に注目することによりコミュニケーションを論理的に扱うことを試みた。引用の構文は、元の発話のコミュニケーションを埋め込んだ複文の形式をとっており、この構文に見られる統語的な振る舞いから、元の発話場面における発話行為の遂行を観察できると思われる。「発話行為的引用論」は、引用の構文を通して発話の動的な側面を考察し、コミュニケーション研究への貢献を目指す。</div> |
| <div><div></div>A5判・272頁・978-4-89476-276-3</div> | |
| <div><div></div>定価5460円（本体5200円）</div> | |
| <div><div></div>発行2006.3</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第42巻</div> | <div><div></div>現代日本語文法 現象と理論のインタラクション</div> |
| <div><div></div>矢澤真人・橋本修編</div> | <div><div></div>現代日本語文法について、理論を現象が支え、現象を理論が統括する「現象と理論のインタラクション」を目指した論文集。北原保雄前筑波大学長の退任を記念して企画された。格やアスペクト、修飾など種々の現象について、現象提示の際には、従来の理論の予測の範囲内であるか、統一的な解釈にはどのような理論立てが必要であるか等を明示し、理論提示の際には、いかなる範囲で有効か、いかなる現象から例証されるか等を明示する、という方針のもとに論考が進められている。</div> |
| <div><div></div>A5判・349頁・978-4-89476-277-0</div> | |
| <div><div></div>定価8190円（本体7800円）</div> | |
| <div><div></div>発行2006.3</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第43巻</div> | <div><div></div>日本語の助詞と機能範疇〈南山大学学術叢書出版助成刊行物〉</div> |
| <div><div></div>青柳宏著</div> | <div><div></div>本書は、語彙を「詞」と「辞」、つまり、内容語（content word）と機能語（function word）に分けた場合、「辞＝機能語」に相当するものに焦点を当てたものである。生成文法理論では語彙を語彙範疇（lexical category）と機能範疇（functional category）に分けている。言語をその意味伝達機能から見れば、前者が圧倒的に重く、後者は軽い。しかし、一般言語理論の立場から、Borer（1980）や Fukui（1986）は、言語間の差異は機能範疇の差異に求められるべきだと主張した。本書はこれを継承、発展させたもので、いかに多くの日本語の現象が、この「辞」のはたらきによってもたらされているかを描き出すことが目的である。特に日本語を特徴づける「とりたて詞」を中心とした助詞や接辞がどのように仕組みで実現し、また解釈されるのかを、生成文法理論の立場から論じる。</div> |
| <div><div></div>A5判・216頁・978-4-89476-286-2</div> | |
| <div><div></div>定価6300円（本体6000円）</div> | |
| <div><div></div>発行2006.3　在庫僅少</div> | |

| | |
|---|---|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第45巻</div> | <div><div></div>九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究〈日本学術振興会助成刊行物〉</div> |
| <div><div></div>有元光彦 著</div> | <div><div></div>本書は、九州西部地域（長崎県・熊本県・鹿児島県）の諸方言（約70方言）を対象とし、動詞活用形の1つであるテ形（「～して（きた）」のような形式）に起こる特異な形態音韻現象を体系的に記述したものである。また、これを手がかりとして「方言差」「類似性」を説明するための独自の言語モデルを構築している。</div> |
| <div><div></div>A5判・300頁・978-4-89476-323-4</div> | |
| <div><div></div>定価12075円（本体11500円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第47巻</div> | <div><div></div>日本語助詞シカに関わる構文構造的な研究 文法史構造の一試論〈日本学術振興会助成刊行物〉</div> |
| <div><div></div>宮地朝子 著</div> | <div><div></div>「シカ」は否定述語と拘束関係を持つ否定呼応表現であり（例：太郎しかいない）、〈其他否定〉（〈其他〉を否定することによる反転的な限定）という特有の意味機能を持つ。本書は、日本語助詞シカおよびシカの作る「～シカ…ナイ構文」の成立を歴史・地理的動態から見ることにより、日本語の構文構造を追究しようとする構文レベルの文法史の一試論である。</div> |
| <div><div></div>A5判・232頁・978-4-89476-320-3</div> | |
| <div><div></div>定価7140円（本体6800円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第48巻</div> | <div><div></div>授与動詞の対照方言学的研究〈日本学術振興会助成刊行物〉</div> |
| <div><div></div>日高水穂 著</div> | <div><div></div>標準語の授与動詞「やる」と「くれる」は、「私が太郎に本をやった」「太郎が私に本をくれた」のように、相補的に使い分けられる。授与動詞のこの対立は、日本語の歴史的変遷の中でも不変のものではなく、全国的に一律のものでもない。本書では、現代日本語諸方言に見られる授与動詞の体系と変化に注目し、現地調査に基づく体系記述と動態調査の結果を、対照方言学的観点から考察する。</div> |
| <div><div></div>A5判・354頁・978-4-89476-321-0</div> | |
| <div><div></div>定価7770円（本体7400円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2</div> | |

| | |
|--|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第49巻</div> | <div><div></div>現代日本語の複合語形成論〈日本学術振興会助成刊行物〉</div> |
| <div><div></div>石井正彦 著</div> | <div><div></div>複合語形成論を、既成の複合語を対象とする「解釈的複合語形成論」、新造の複合語を対象とする「命名的複合語形成論」、臨時的複合語を対象とする「構文的複合語形成論」の3領域に区分し、それぞれを代表する「複合動詞」「複合名詞」「臨時一語」の形成を計量的に記述しつつモデル化・類型化した書。現代日本語の書きことばにおける複合語形成について、大量のデータを分析することで実証的に論じている。</div> |
| <div><div></div>A5判・498頁・2刷・978-4-89476-324-1</div> | |
| <div><div></div>定価8820円（本体8400円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第50巻</div> | <div><div></div>言語科学の真髄を求めて 中島平三教授還暦記念論文集</div> |
| <div><div></div>鈴木右文・水野佳三・高見健一編</div> | <div><div></div>本書は、学習院大学教授、中島平三氏の2006年8月の還暦を祝し、氏と交友の深い研究者や教え子たち36名が寄稿して編まれた記念論文集である。久野暉、Richard Kayne、Henk van Riemsdijk、Luigi Rizzi、北川千里、北川善久らの海外からの論考に加え、今井邦彦、外池滋生、澤田治美、長谷川信子、池内正幸らにより、英語、日本語、および他言語の統語的、意味的、語用論的諸現象が鋭く分析されている。また、音韻現象や言語習得、英語の歴史に関する論考も含まれ、中島氏の交友の広さを示すだけでなく、言語科学の真髄に迫ろうとする意欲的な1冊である。</div> |
| <div><div></div>A5判・568頁・978-4-89476-316-6</div> | |
| <div><div></div>定価13440円（本体12800円）</div> | |
| <div><div></div>発行2006.9</div> | |

| | |
|---|---|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第51巻</div> | <div><div></div>日本語随筆テキストの諸相〈日本学術振興会助成刊行物〉</div> |
| <div><div></div>高崎みどり・新屋映子・立川和美 著</div> | <div><div></div>随筆500編を対象に、文章論及びテキスト研究の方法を活用して量的・質的に分析した書。指示語に着目した文法論、文章特性に注目した語彙・文末・語法の研究、及び名詞文の機能と表現効果など、複数の観点から多角的に捉えている。日本語の随筆は、エッセイやコラムとは異なるものだが、従来その位置付けが曖昧にされてきた。そうした随筆の位置づけ、及びその特異性を明らかにすることを目指している。</div> |
| <div><div></div>A5判・266頁・978-4-89476-327-2</div> | |
| <div><div></div>定価7140円（本体6800円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2</div> | |

| | |
|---|---|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第52巻</div> | <div><div></div>発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション行為の研究（日本学術振興会助成刊行物）<small>切りぬける・交渉・談判・掛け合い</small></div> |
| <div><div></div>クレア マリイ 著</div> | <div><div></div>発話者がいかに個々の発話場面やその場面に現出する人間関係を「自分らしく」切り抜けるか、その行為を「ネゴシエーション行為」と名付け、新しい言語研究の視点・概念枠組みとして提案する。本書では特に、従来では研究の対象になりにくかったクイア言語や、いわゆる「男言葉」「オネエ言葉」などを再検討し、「男性・女性がこう話すべきだ」という社会的に規定される言説と、実践的な言語使用との間の隔たりを考察する。ジェンダー・セクシュアリティ、また、話し手を中心とした談話分析に新たな可能性を見出す研究書。</div> |
| <div><div></div>A5判・202頁・978-4-89476-325-8</div> | |
| <div><div></div>定価7140円（本体6800円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2　在庫僅少</div> | |

| | |
|---|---|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第53巻</div> | <div><div></div>主語と動詞の諸相 認知文法・類型論的視点から</div> |
| <div><div></div>二枝美津子 著</div> | <div><div></div>世界の言語は、多様であるにも関わらず名詞的なものと動詞的なものが存在する。人の思いを言語の形にして伝えていくとき、最低限この二つを用いて表現する。そのもつとも簡単な形が、主語と動詞が一つずつからなる自動詞構文である。The door opened.の主語は何であるかということから出発し、能格に注目し、主語と動詞の関係を根本から捉え直す。修士論文から現在に至る主語と動詞を巡る著者の研究の集大成。</div> |
| <div><div></div>A5判・218頁・978-4-89476-384-5</div> | |
| <div><div></div>定価5250円（本体5000円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.2</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第54巻</div> | <div><div></div>連体即連用? 日本語の基本構造と諸相</div> |
| <div><div></div>奥津敬一郎 著</div> | <div><div></div>a. ズボンに 大きい穴が あいた。 b. ズボンに 穴が 大きく あいた。 上の例のaでは「大きい」が「穴」を連体修飾しており、bでは、「大きい」は、いわゆる連用形をとっている。しかしaもbも「ズボンに穴があいた」こと、そしてその「穴」が「大きい」ことを意味しており、同義である。このような現象を「連体と連用の対応」と呼ぶことにする。しかし無条件に連体と連用は対応するわけではなく、一定の条件がある。本書は、日本語の種々な文構造にみられる連体と連用の対応を記述し、その対応の条件を探ろうとするものである。</div> |
| <div><div></div>A5判・282頁・978-4-89476-350-0</div> | |
| <div><div></div>定価5670円（本体5400円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.10</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第55巻</div> | <div><div></div>日本語の構造変化と文化化</div> |
| <div><div></div>青木博史編</div> | <div><div></div>現代語の言語研究の進展により、日本の古代語の文法においても研究の展開が生まれている。従来の国語学と日本語学の融合によってどんな研究が生まれてきているのだろうか？ 若手研究者による本論集によって、比較的静かであった古代語研究にも新しい世代による研究が育ちつつあることがわかるであろう。古代における文法体系がどのように変化してきたのか、文化化研究なども踏まえた最前線の研究。</div> |
| <div><div></div>A5判・288頁・978-4-89476-351-7</div> | |
| <div><div></div>定価7140円（本体6800円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.10</div> | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶ひつじ研究叢書（言語編）第56巻</div> | <div><div></div>日本語の主文現象 統語構造とモダリティ</div> |
| <div><div></div>長谷川信子編</div> | <div><div></div>日本語には、モダリティや取り立て詞現象など、興味深い主文現象が豊富に見られるにも拘わらず、これまで、理論的考察の中心的対象とはなってこなかった。しかし、今、統語理論は、主文の語用的機能の構造的具現化を視野に入れ、大きく転換しようとしている。今後、日本語の主文現象を軸に、理論的にも、記述的にも、新たな言語研究の波を起こすことが期待できる。本書は、日本語の最も日本語らしい現象から統語理論へ提言する。</div> |
| <div><div></div>A5判・379頁・978-4-89476-348-7</div> | |
| <div><div></div>定価7980円（本体7600円）</div> | |
| <div><div></div>発行2007.12</div> | |

| | |
|---|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第57巻 | 日本語会話における言語・非言語表現の動的構造に関する研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 坊農真弓著 | 会話場面では、言語表現のみならず、ジェスチャー、視線、身体の向きなどの非言語表現が重要な役割を担っている。本書では、従来から議論されてきた話し手が対象世界にどう対峙しているかを問題とした視点概念に加え、話し手が表現をどのように聞き手に伝達するかに焦点を当てた「相互行為的視点」の概念を提案する。この提案を通し、これからの言語研究において、どのように非言語表現を扱っていくべきかについて方法論的視点と理論的観点から整理する。 |
| A5判・204頁・978-4-89476-359-3 定価7560円(本体7200円) 発行2008.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第58巻 | ニュータウン言葉の形成過程に関する社会言語学的研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 朝日祥之著 | 本書は、都市計画のもとに全国各地で建設が進んでいるニュータウンを取り上げ、移住者が持ち込んだ方言間の接触によって生まれるニュータウン言葉の形成過程を、社会言語学の見地から考察したものである。神戸市にある西神ニュータウンをフィールドとし、2年半にわたる現地調査で収集したデータを用いながら、ニュータウン居住者による言語使用実態とニュータウンで使われている言葉の認知の在り方について、分析を行なった。分析の結果をもとに、ニュータウン言葉の形成過程を構築した。 |
| A5判・258頁・978-4-89476-361-6 定価9030円(本体8600円) 発行2008.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第59巻 | 韓日新聞社における「主張のストラテジー」の対照研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 李貞叟著 | 本書は、日本語と韓国語における主張のストラテジーの特徴を新聞の社説を資料として分析考察している。統語面では大変類似していると言われる日本語と韓国語だが、言語運用面においては独自の運用の方法があることがわかった。日本の文章構造論の理論を援用し、文章論の立場から日韓対照研究に挑んだ本研究は、マクロとミクロの両構造から、文章論は統語論の単なる延長ではなく、独自の原理が働く独自の領域であることを示唆している。 |
| A5判・224頁・978-4-89476-356-2 定価7560円(本体7200円) 発行2008.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第60巻 | ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 大矢俊明著 | ドイツ語における再帰代名詞は幅広い用法を持ち、項構造の交替現象と密接にリンクしている。本書はドイツ語における結果構文、中間構文、さらに心理動詞構文といった再帰構文にみられる特性を、英語およびオランダ語と比較することにより明らかにする。さらに、ドイツ語の言語事実を基盤として、英語における結果構文や移動様態動詞構文についても独自の分析を示し、複数の言語を比較する重要性を指摘する。 |
| A5判・256頁・978-4-89476-355-5 定価8400円(本体8000円) 発行2008.2 | 第7回日本独文学会日本語研究書部門受賞 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第61巻 | 狂言台本とその言語事象の研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 小林賢次著 | 狂言台本の言語の実態を古代語から近代語への変遷過程に位置づけるため、大蔵虎明本などの代表的な台本にとどまらず、和泉流雲形本・南大路家田蔵三宅派台本など、さまざまな台本を広く見渡して、その資料性を究明。後世の写本あるいは翻刻本の問題点をも指摘する。また、狂言台本に反映されている言語事象を出発点として、抄物やキリシタン文献などとも比較し、条件表現あるいは語彙・語法に関する史的考察を行っている。 |
| A5判・384頁・978-4-89476-354-8 定価10290円(本体9800円) 発行2008.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第62巻 | 結果構文研究の新視点 |
| 小野尚之編 | 序論 結果構文をめぐる問題 小野尚之／英語結果述語の意味分類と統語構造 影山太郎／結果述語のスケール構造と事象タイプ 小野尚之／結果構文における有界性制約を再考する 鈴木亨／ゲルマン諸語に見られる派生的結果構文に関する一考察 都築雅子／結果構文と類型論パラメータ 加賀信広／日本語結果述語は動作オプション表現である 加藤鉦三／Pattern Matching Analysis (PMA) を用いた日本語の結果構文の共述語分析 黒田航・李在鎬／文処理ストラテジーという視点から見た結果構文の類型論 中谷健太郎 |
| A5判・336頁・978-4-89476-346-3 定価6510円(本体6200円) 発行2007.9 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第63巻 | 日本語形容詞の文法 標準語研究を超えて |
| 工藤真由美編 | 『日本語のアスペクト・テンス・ムード体系―標準語研究を超えて―』の続編。科研の調査研究に基づく論考を所収。東北から奄美沖繩にいたる諸方言の総合的記述への第一歩として、形容詞および名詞述語の基礎的な記述を提示する。理論的な論考2本(第1部)と、8地区の調査結果(第2部)で構成。一般言語学の研究成果を視野に入れた日本語の諸方言研究の新たな展開。方言の豊かな言語事実は、標準語研究にとっても刺激的である。執筆者: 工藤真由美／かりまたしげひさ／木部暢子／佐藤里美／須山名保子／高江洲頼子／仲間恵子／村上智美／八亀裕美 |
| A5判・282頁・978-4-89476-367-8 定価6300円(本体6000円) 発行2007.11 | |

| | |
|--|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第64巻 | イメージ・スキーマに基づく格パターン構文 日本語の構文モデルとして |
| 伊藤健人著 | 「構文」という観点を持たなかった従来の日本語研究では、「動詞の多義性」「格助詞の交替現象」「意味役割と格表示」といった問題は個別に扱われてきた。これらを統一的に説明すべく、本書では「イメージ・スキーマに基づく格パターン構文」を提案する。さらに、日本語における「構文の形式」とは何か、「構文の意味」を動機付けているものは何か、という最も根本的な問題に対しても、記述的な研究成果を踏まえて論じる。 |
| A5判・256頁・978-4-89476-381-4 定価5880円(本体5600円) 発行2008.9 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第65巻 | 現代日本語のアスペクト論 形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論 |
| 須田義治著 | 本書はアスペクトの理論的かつ実証的な研究である。第I部では、アスペクト論を構成する、アスペクト、アスペクチュアリティ、語彙・文法的な系列などについて検討し、日本語のアスペクトを体系的に具体的に明らかにしている。第II部では、アスペクト論の理論的な前提となる形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論を、言語学の諸概念を批判的に検討しながら、構築する。また、構文論的なカテゴリーの例としてヴォイスとモダリティの体系についても論じている。 |
| A5判・404頁・978-4-89476-382-1 定価7140円(本体6800円) 発行2010.6 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第66巻 | 日本語の文章理解過程における予測の型と機能 |
| 石黒圭著 | 人は話を聞くとき、相手の話がどう進んでいくかを予測しながら聞く。そのことによって相手の話を理解しやすくなる。そのような人間が理解する仕組みを予測文法と呼ぶが、それはどのような機能なのかという点は、長年の課題であった。本書は、口頭表現ではなく文章の読解という点に焦点をあてて、その予測文法を大きく解き明かしていく。 |
| A5判・450頁・978-4-89476-398-2 定価8400円(本体8000円) 発行2008.3 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第67巻 | 古代日本語時間表現の形態論的研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 鈴木泰著 | 古代日本語のテンス・アスペクト的研究については1992年の前者『古代日本語動詞のテンス・アスペクト』刊行のころから、さまざまな研究者による論が公表されてきているが、古代語の事実についての評価、およびその事実がどのような体系をなすかに関して、必ずしも一致点が見出されてはいえない。そうした最近の研究動向を見極めつつ、前著以降の研究成果をもちむととも、形態論的なアプローチを徹底させることによってテンス・アスペクト的な意味的事実を確定し、スタンダードとなるような古代日本語の時間表現の体系をよりシステマティックなかたちで提示する。 |
| A5判・520頁・978-4-89476-400-2 定価6720円(本体6400円) 発行2009.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第68巻 | 現代日本語とりたて詞の研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 沼田善子著 | 本書は、日本語における「とりたて」の中核をなす、現代日本語の「とりたて詞」について、統語論的、意味論的、諸特徴を記述し、とりたて詞の明確な定義、その機能と内部の体系を明らかにすることを目指す。また本書では、いわば狭義とりたてから広義とりたてへの広がりの様相をもとらえることを目指し、とりたて詞周辺に広がる他の範疇に属する語群ととりたて詞の連続性と差異についても考察を行う。こうした作業により、日本語のとりたてに関わる語群の範囲、諸特徴、それらが相互に成す体系の研究に、一つの明確な方向性を示そうとするものである。 |
| A5判・280頁・978-4-89476-401-9 定価6510円(本体6200円) 発行2009.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第69巻 | 日本語における聞き手の話者移行適格場の認知メカニズム 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 榎本美香著 | 日本語での会話において、聞き手が円滑に話者移行を行うために行っている認知処理のプロセスを実証科学的に明らかにした著作である。日本語のような文の構造が語順によって決定されず、接続助詞などを後置することで文の主従関係が時間の中で決定される言語構造を用いて会話を行う場合、聞き手の発話末の認知を決定するという役割を終助詞などの日本語特有の言語的要素が果たすことを実証的に解明している。 |
| A5判・184頁・978-4-89476-402-6 定価7140円(本体6800円) 発行2009.2 | |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第70巻 | 言葉と認知のメカニズム 山梨正明教授還暦記念論文集 |
| 児玉一宏・小山哲春編 | 本書は、京都大学大学院教授、山梨正明氏が2008年5月に還暦を迎えられたことを祝し、京都大学において氏の指導を受けた教え子を中心とする43名が寄稿し、編集された記念論文集である。本書の特徴は、そのタイトルが示す通り、言葉の世界を認知のメカニズムによって解き明かそうとする壮大なテーマに向かい、言語学の関連分野をも視野に入れた学際的な視点からの論考によって構成されていることにある。認知文法、認知意味論、構文文法等、認知言語学のパラダイムを背景とする論考から語用論、談話分析、コミュニケーション論に至るまで、実に多彩な内容が、近年の言語研究の動向を踏まえて理論的、実証的に論じられている点で大変示唆的な1冊である。 |
| A5判・680頁・978-4-89476-415-6 定価17850円(本体17000円) 発行2008.9 | |

| | |
|--------------------------|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第71巻 | 「 ハル 」敬語考 京都語の社会言語史 |
| 辻加代子著 | 江戸時代後期から現代に至る京都語言語資料に基づき、近畿中央部とりわけ京都市で隆盛を極める「ハル」敬語の包括的記述を試みたモノグラフ。現代「ハル」敬語には話題の主を上げて待遇する尊敬語の枠組みを越え、話者や話相手と対する第三者として少し隔てることを指標する機能が女性話者を中心に顕著に認められる。話者の心的態度を反映した様々な用法の高頻度な活用もある。以上をそこに至る変化過程を明らかにしつつ実証的に示した本書は、標準語敬語研究に新たな視点を投じたものである。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第72巻 | 判定質問に対する返答 その形式と意味を結ぶ談話規則と推論 |
| 内田安伊子著 | 発話の意味は、形式からだけでは解釈することができない。その発話の置かれた文脈を頼りに、指示付与や省略復元などの談話規則および様々な推論を用いて解釈される。本書の分析対象は「判定質問に対する返答」である。当該発話の意味は、文脈への依存度が高く予測が容易であるがゆえに、これを伝える多様な形式の存在を許している。そして、各々の形式と意味を結ぶ談話規則と推論もまた多様である。それらを観察し整理することを通して、発話解釈における談話規則と推論の関わり方を考察する。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第73巻 | 現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究 |
| 杉村泰著 | 本書は日本語モダリティ論の立場から蓋然性を表す副詞「キツト」、「タブン」、「モシカスルト」、「サゾ」などの意味について論じたものである。初めに先行研究で示されてきた文末のモダリティ形式「ダロウ」、「ニチガイナイ」、「カモシレナイ」などの意味について再検討し、次にこれらとの共起を分析することにより、各副詞の意味の違いについて論じる。これにより副詞研究の面から日本語モダリティ論に新たな提言をする。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第74巻 | コロケーションの通時的研究 英語・日本語研究の新たな試み |
| 堀正広・浮網茂信・西村秀夫・小迫勝・前川喜久雄著 | 通時的視点からコロケーションの問題を扱う本邦初の研究書。コロケーションとは何か、コロケーションを通時的に見るとはどういうことか。英語史としてのコロケーション研究の新たな試み。目次：コロケーションと英語史(堀正広)、コロケーションと文法化(浮網茂信)、強意副詞veryの発達(西村秀夫)、談話標識のコロケーションー初期近代英語を中心に(浮網茂信)、『妖精の女王』における脚韻語のコロケーション(小迫勝)、18世紀から20世紀までのコロケーションの通時的研究(堀正広)、30年の時間幅において観察される語彙およびコロケーションの変化ー『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の予備的分析(前川喜久雄) |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第75巻 | 養蚕語彙の文化言語学的研究  新刊 |
| 新井小枝子著 | 日本語方言における養蚕語彙の記述的研究。養蚕語彙を、具体的な養蚕の生活や文化との関係に注目して論じている。消滅へと向かっている養蚕語彙の現状をふまえ、危機言語の記録・保存の性格をももつ。第1部目的と方法・第2部養蚕語彙の概観・第3部養蚕語彙の造語法と語彙体系・第4部養蚕語彙の比喩表現の四部構成。養蚕語彙にたちあられた人びとの認識のありようと、専門的な生業世界の方言形成への関与にせまる。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第76巻 | 格助詞「ガ」の通時的研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 山田昌裕著 | 本書では、これまで断片的に捉えられてきた格助詞「ガ」の発達拡大に関して、新しい知見を交えつつ総合的に捉え直すことによって、主語表示機能の発達史を中心に描写した。言語典型的観点や方言資料なども取り入れ、主語表示機能発達の一要因として、異種方言話者間の言語接触による主語表示システムの変化があったことを指摘した。本書の内容は、日本語文法史研究や他言語の研究・分析にも役立つものと言えるだろう。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第77巻 | 日本語指示詞の歴史的研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 岡崎友子著 | 現代・古代語の指示副詞を中心に指示・副詞的用法、歴史的变化を論じる。又指示代名詞まで含んだ指示体系全体からの考察も行い、指示代名詞・指示副詞がお互いに影響を与えながら体系的に変化したことを明らかとする。なお歴史の考察を主とするが現代語の分析にも力を注いだ。歴史的資料の例を記述するのみでなく、現代語の分析を通し構築した理論をもって古代語の意味・用法、変化の本質的構造を考究することが本書の目標である。 |

▶**第38回金田一京助博士記念賞受賞**▶

| | |
|--------------------------------------|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第78巻 | 日本語連体修飾節構造の研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 大島資生著 | 本書は、生成文法の分野でも従来注目されてきた日本語連体修飾節構造のうち、外の関係、中でも「内容補充の関係」を中心に新たな視点から論じるものである。特に、この構造を形成する名詞がもつ語彙的情報の役割、「という」の機能についての考察のほか、数多くの用例にもとづくケース・スタディを収める。さらに、連体修飾節の周辺に位置する動名詞節、補文構造を形成する「の」「こと」をも扱い、連体修飾節構造の広がりを示す。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第79巻 | メンタルスペース理論による日仏英時制研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 井元秀剛著 | 本書は、2005～2008年度の「基盤研究C」『メンタルスペース理論に基づく仏英日本語の時制対照研究』の研究成果を公開するものであり、メンタルスペース理論を用いて、現代のフランス語、英語、日本語という言語が個別に備えている時制体系を、統一的に、一般言語学的観点から記述する試みをおこなっており、一般的原理からの帰結として説明可能なことを示している。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第80巻 | 結果構文のタイポロジー |
| 小野尚之編 | 1(小野尚之)結果構文のタイポロジー序説、2(鷲尾龍一・斉木美知世)言語の種類と結果表現の類型—いくつかの残された問題、3(影山太郎)語彙情報と結果述語のタイポロジー、4(三原健一)スケール構造から見る結果構文、5(岩田彩志)2種類の結果表現と構文理論、6(宮腰幸一)日英語の周縁的結果構文—類型論的含意、7(井本亮)日本語結果構文における限定と強制、8(北原博雄)動詞の語彙概念構造と「に」句のスケール構造・統語構造に基づいた、着点構文と結果構文の平行性、9(上原聡・Kingarn Thepkanjana)タイ語における結果構文、10(望月圭子・申亜敏)中国語の結果複合動詞—日本語の結果複合動詞・英語の結果構文との比較から、11(Naoko Tomioka(富岡奈緒子)) Resultatives and the typology of causative predicate |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第81巻 | 疑問文と「ダ」 統語・音・意味と談話の関係を見据えて |
| 森川正博著 | 「ダ」が関わる疑問文(「あの人は誰ダ?」、「*あの人は誰ダカ?」、「私にはあの人 が 誰ダカ分からない)における文の容認性判断への解明は、積年の問題である。この問題に対し本書は、助動詞「ダ」に関する国文法や日本語学の知見を尊重しつつ、文末助詞としての「ダ」を提示する。そして、その「ダ」と文末助詞「カ」の特性を考察し、生成文法の統語分析にイントネーションの情報と談話の視点を加えた分析で、問題の解決を試みる。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第82巻 | 意志表現を中心とした日本語モダリティの通時的研究 |
| 土岐留美江著 | 古代語のモダリティ研究は、いわゆる推量系のモダリティを中心に研究が進められてきた。推量と意志とは多くの推量系のモダリティ形式において表裏の関係にあるにも関わらず、かえってそれ故に、意志系のモダリティに光があてられることはほとんどなかったといえよう。本書は意志系のモダリティ形式について、現代語にいたるまでの通時的な変遷の過程を明らかにすることを中心に、その成立の体系的考察をめざした書である。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第83巻 | 英語研究の次世代に向けて 秋元実治教授定年退職記念論文集 |
| 吉波弘・中澤和夫・武内信一・外池滋生・川端朋広・野村忠央・山本史歩子 編 | 2010年3月に定年を迎えた青山学院大学の秋元実治教授の、同僚・教え子・広く友人知人からの寄稿による記念論文集。秋元教授は永く研究者・教育者として活躍し、専門は多岐にわたる。現代英語のイディオム研究から、近年は通時的研究、特に文法化について優れた成果を発表してきている。その学問的多様性を反映して、本書は英語学研究の様々な分野や方法論を網羅し、次世代にとって一つの指標となることを目指した。 |
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第84巻 | 接尾辞「げ」と助動詞「そうだ」の通時的研究 |
| 漆谷広樹著 | 接尾辞「げ」は、類似した用法を持つ助動詞「そうだ」が発達した後も、消滅することなく現在も使用されている。その理由は「げ」の持つどのような性質によるものなのか。これまで「げ」については中古語の状況や現代語の状況についての研究が行われてきた。「げ」は他の多くの接辞とは異なり、中古から現代へと通時的に観察できる接辞である。そこで本書では、類似した用法を持つ「そうだ」と比較しながら通時的に観察し、それぞれの用法の変遷、また機能分担について考えた。 |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第85巻 | 複合辞からみた日本語文法の研究 |
| 田中寛著 | 日本語の論理的な表現形式としての複合辞は、中上級日本語教育の指導要目としても重要な位置を占める。本書は副詞節を中心とした接続成分と否定表現を軸にした文末成分の意味機能について考察を加えたもので、同時にヴォイス、モダリティ、とりたて助詞といった文法カテゴリーをも内包しながら、日本語文法を複合辞という視点から再構築しようという試みである。類義表現も多く収録し、巻末には詳細な複合辞文献目録を付す。 |
| A5判・632頁・978-4-89476-479-8 定価10290円(本体9800円) 発行2010.3 | |

| | |
|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第86巻 | 現代日本語における外来語の量的推移に関する研究 |
| 橋本和佳著 | 大正以降の新聞社説資料を中心に通時的語彙調査を行い、「外来語がどのように増加してきたか」という量的推移について考察する。また、計量的手法を用いて、外来語の増加過程が典型的な成長現象に見られる「S字カーブ」のパターンを描くことを明らかにし、そのモデルを提示する。巻末には外来語の語彙表を付す。 |
| A5判・380頁・978-4-89476-473-6 定価9450円(本体9000円) 発行2010.2 | |

| | | |
|---|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第87巻 | 中古語過去・完了表現の研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |  |
| 井島正博著 | 本書は、中古語の言語事実に即して文法理論そのものも作り変えるべきことを主張する。テンスについては、物語の現在の出来事を表わす場合、物語の世界に視点がある場合がφ(言い切り)、物語の外の表現の世界に視点を置いて描く場合がケリ、また物語の過去を描く場合がキであると考える。アスペクトについては、基準時が事態の開始部分にあればヌ、継続部分にあればリ・タリ、終了部分にあればツが用いられると考えるなど、これまでにない見解を提示する。従来の研究史および網羅的な研究文献目録も付す。 | |
| A5判・600頁・978-4-89476-498-9 定価6720円(本体6400円) 発行2011.2 新刊 | | |

| | |
|--|--|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第88巻 | 法コンテキストの言語理論 〈明治大学人文科学研究所叢書出版助成刊行物〉 |
| 堀田秀吾著 | 本書は、司法という特殊なコンテキストにおける言語使用に焦点を当て、社会言語学、語用論、理論言語学、心理言語学など様々な分野の知見を援用して言語分析を展開するものである。本書では、法言語学という分野の概観、裁判員裁判の評議における言語コミュニケーションや商標の分析、法言語学の実務への応用に向けての障害および法のクレオール化と呼ばれる現象に関する言語哲学的考察、そして法言語学のEFLへの応用まで幅広いトピックを扱う。 |
| A5判・268頁・978-4-89476-492-7 定価8715円(本体8300円) 発行2010.3 | |

| | |
|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第89巻 | 日本語形態の諸問題 鈴木泰教授東京大学退職記念論文集 |
| 須田淳一・新居田純野編 | 鈴木泰先生の東京大学ご退職記念として編まれた論文集。【執筆者】鈴木泰、松本泰丈、工藤浩、岡田袈裟男、早津恵美子、金田章宏、印省熙、黄美静、近藤雅恵、齋美智子、施淑恵、須田義治、スネジヤナ・ヤンコヴィッチ、高山道代、津留崎由紀子、林淳子、方美麗、松浦恵津子、山崎貞子、山本博子、楊金萍、新居田純野、須田淳一。 |
| A5判・366頁・978-4-89476-500-9 定価7140円(本体6800円) 発行2010.3 | |

| | | |
|--|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第90巻 | 語形成から見た日本語文法史 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |  |
| 青木博史著 | 本書は、日本語における派生・複合などの語形成に関する諸現象について、歴史的観点から考察したものである。主として中世室町期に基盤を置き、文法変化をダイナミックに捉えることを目的としている。語彙論から統語論・構文論へと拡がる理論的側面、文献資料の用例に方言データをも援用する実証的側面の両面を兼ね備えた、日本語文法史研究の新しい試みである。 | |
| A5判・316頁・978-4-89476-521-4 定価8610円(本体8200円) 発行2010.11 新刊 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第91巻 | コーパス分析に基づく認知言語学的構文研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |  |
| 李在鎬著 | 認知言語学の枠組みで、日本語の構文現象の解明を試みた理論的・実証的研究。理論面的特徴としては認知言語学・構文文法に基づく本格的な日本語研究であり、語彙と文法を統合した表現のスキーマから構文現象を定式化した。また方法論面においてはコーパスを使った用法基盤分析の実践を目指している。本書によって日本語研究における構文文法的アプローチの活発化と同時に、コーパス基盤の言語研究が活性化されることを期待する。 | |
| A5判・262頁・978-4-89476-531-3 定価7560円(本体7200円) 発行2011.2 新刊 | | |

| | | |
|---|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第92巻 | バントゥ諸語分岐史の研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |  |
| 湯川恭敏著 | アフリカ全体の3分の1強の地域に分布するバントゥ諸語が、1つの祖語からどのように分岐して、現在の地域で話されるようになったのか。本書は、著者が100を越えるバントゥ系言語の語彙と文法を調査した膨大なデータを元に、基礎語彙の比較から、言語間遠近関係を判定し、バントゥ諸語の分岐の歴史に関して説得力ある仮説を提示する。1995年刊行の前著と共に、バントゥ諸語の姿を明らかにするものである。 | |
| A5判・328頁・978-4-89476-532-0 定価9345円(本体8900円) 発行2011.2 新刊 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第93巻 | 現代日本語における進行中の変化の研究 「誤用」「気づかない変化」を中心に〈日本学術振興会助成刊行物〉 |  |
| 新野直哉著 | 本書は、“役不足”“なにげに”“全然”＋肯定”のような一般に「誤用」として知られる言語変化の事例や、“いやがうえにも”“返り討ち”“ていたらく”“万端”といった、実際には変化が相当進行しているがほとんど注目されてこなかった《気づかない変化》の事例など、現代日本語における様々な進行中の変化について、著者が約20年にわたり行ってきた研究の成果をまとめたものである。 | |
| A5判・416頁・978-4-89476-533-7 定価6720円(本体6400円) 発行2011.2 新刊 | | |

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第94巻 | 日本語情態修飾関係の研究 |  |
| 矢澤真人著 | 日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクトの意味への制限といった基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。 | |
| A5判・978-4-89476-544-3 近刊 | | |

| | | |
|---|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第95巻 | 形態論と統語論の相互作用 日本語と朝鮮語の対照言語学的研究〈日本学術振興会助成予定刊行物〉 |  |
| 塚本秀樹著 | 日本語と朝鮮語が形態統語上、非常によく似た言語であることは、広く知られている事実であるが、注意深く観察すれば、両言語間で違いがあるのを様々な箇所で見出すことができる。本書は、両言語の複合格助詞や複合動詞をはじめとする諸言語現象を取り上げて考察し、両言語間の相違を引き起こしている根本的な要因を解明するとともに、様々な箇所に現れるその相違を統一的に捉え、適切に説明できることを論証する意欲作である。 | |
| A5判・978-4-89476-570-2 定価8925円(本体8500円) 未刊 | | |

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第96巻 | 日本語文法体系新論 派生文法の原理と動詞体系史 |  |
| 清瀬義三郎則府著 | 派生文法とは著者の提唱したもので、用言の活用が無い文法のことである。日本語の膠着言語としての性質に着目、音素を単位に形態素分析すると、動詞の語幹に接尾辞が接続して新しい語幹を次々に派生し、意味を変えてゆく姿が見られる。まずこの原理を説く。次に現代語全般、文論をも含めた文法論を詳述する。最後に史的研究が来る。上代以降の大変化たる音便形の発生、連体形に取って代られた終止形の消滅、二段「活用」の一段化などは、起因を見事に解明している。 | |
| A5判・978-4-89476-563-4 未刊 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ▶ひつじ研究叢書(言語編)第97巻 | 日本語音韻史の研究 〈日本学術振興会助成予定刊行物〉 |  |
| 高山倫明著 | 日本語音韻史の研究で、定評のある著者のこれまでの研究の成果を集めた著書。清音濁音、四つ仮名、促音、アクセント、プロソディなど、これまでも日本語音韻史の中心的で伝統的に議論されてきたテーマである題材を扱いながら、従来の学説、通説に縛られず、日本語の音韻史を革新することを提案する卓越した研究書。日本語に限らず、言語史を研究する研究者すべての人に重要である。 | |
| A5判・978-4-89476-576-4 定価6300円(本体6000円) 未刊 | | |

| | |
|---|--|
| ブラジル日系・沖縄系移民社会における言語接触 | |
| 工藤真由美・森幸一・山東功・李吉鎔・中東靖恵 著 | |
| | |
| A5判・464頁・978-4-89476-423-1 <p>定価8400円（本体8000円）</p> 発行2009.6 | |
| | |

話者の視点がつくる日本語

| | |
|--|--|
| 森田良行 著 | |
| | |
| 四六判・248頁・978-4-89476-335-7 <p>定価2520円（本体2400円）</p> 発行2006.12 | |
| | |

言語研究の射程 湯川恭敏先生記念論集

| | |
|---|--|
| 加藤重広・吉田浩美 編 | |
| | |
| A5判・368頁・978-4-89476-298-5 <p>定価9240円（本体8800円）</p> 発行2006.6 | |
| | |

コミュニケーション、どうする? どうなる?

| | |
|---|--|
| 定延利之・林博司 編 | |
| | |
| 四六判・192頁・978-4-89476-319-7 <p>定価1995円（本体1900円）</p> 発行2010.1 | |
| | |

可能性としての文化情報リテラシー

| | |
|---|--|
| 岡田浩樹・定延利之 編 | |
| | |
| A5判・300頁・978-4-89476-499-6 <p>定価2520円（本体2400円）</p> 発行2010.3 | |
| | |

三尾砂著作集Ⅰ

| | |
|---|--|
| 三尾砂 著 | |
| | |
| A5判・334頁・978-4-89476-162-9 <p>定価2940円（本体2800円）</p> 発行2003.4 | |
| | |

三尾砂著作集Ⅱ

| | |
|---|--|
| 三尾砂 著 | |
| | |
| A5判・344頁・978-4-89476-163-6 <p>定価2940円（本体2800円）</p> 発行2003.7 | |
| | |

本書は2002～2006年度に実施された、大阪大学・21世紀COE「インターフェイスの人文学」を中心とする研究成果の一部であり、ブラジル日系・沖縄系移民社会における「日本語」の諸相について、言語接触の観点を重視した「複数の日本語」という視角から、考察を試みたものである。特に、沖縄系移民社会については、これまでほとんど調査研究がなされていなかった。第1部「言語の接触と混交」では、5年間に渡って調査研究に参加した5名が、調査研究によって浮かび上がった諸問題について検討を行っている。第2部「言語接触の実際」では、「ブラジル日系社会における談話」「ブラジル沖縄系移民社会における談話」の一部についてDVD-ROMで紹介している。

| | |
|--|--|
| 副詞的表現をめぐる 対照研究 | |
| 武内道子 著 | |
| | |
| A5判・264頁・978-4-89476-258-9 <p>定価4410円（本体4200円）</p> 発行2005.3　在庫僅少 | |
| | |

発話と文のモダリティ 対照研究の視点から

| | |
|--|--|
| 武内道子・佐藤裕美 編 | |
| | |
| A5判・274頁・978-4-89476-536-8 <p>定価6300円（本体6000円）</p> 発行2011.3　新刊 | |
| | |

英文鑑

| | |
|---|--|
| 杉本つとむ 著 | |
| | |
| A5判・698頁・978-4-938669-16-4 <p>定価12600円（本体12000円）</p> 発行1993.3 | |
| | |

都竹通年雄著作集2

| | |
|--|--|
| 都竹通年雄 著　松本泰文 解説 | |
| | |
| A5判・329頁・978-4-938669-72-0 <p>定価5040円（本体4800円）</p> 発行1996.10 | |
| | |

日本語とジェンダー

| | |
|---|--|
| 日本語ジェンダー学会 編 佐々木瑞枝 監修 | |
| | |
| A5判・218頁・978-4-89476-274-9 <p>定価2520円（本体2400円）</p> 発行2006.6 | |
| | |

戦時中の話しことば ラジオドラマ台本から

| | |
|---|--|
| 遠藤織枝・桜井隆・鈴木智映子・早川治子・安田敏朗 著 | |
| | |
| A5判・280頁・978-4-89476-222-0 <p>定価3990円（本体3800円）</p> 発行2004.9 | |
| | |

「～は～」のはなし

| | |
|---|--|
| 堀口和吉 著 | |
| | |
| A5判・212頁・978-4-938669-41-6 <p>定価3675円（本体3500円）</p> 発行1995.3 | |
| | |

11名の著者が対象言語（日本語・英語・ロシア語・フランス語・中国語）を定め、副詞的表現について論考する。各言語の中で語彙化、構造化あるいは使用に供される副詞的表現と目される形式を各自が任意の方法で分析している。神奈川大学「対照言語研究会」の第一論集。

12名の著者によるそれぞれ研究対象とする言語(日本語、英語、ロシア語、韓国語、スペイン語)におけるモダリティ、モーダルについての認知語用論、統語論、意味論の視点からの論考。神奈川大学共同研究奨励助成プロジェクト「モダリティ・プロジェクト」による論集。執筆者：相原昌彦、長谷川信子、岸本秀樹、松井智子、佐藤裕美、武内道子、寺崎英樹、堤正典、上田由紀子、内田聖二、Deirdre Wilson、山本多恵子、尹亨仁。

本書は、天保年間に、渋川六蔵・藤井三郎補訂にオランダ語訳本より作られた日本英語学史上の初の英文法書である。もとのものは失われたが、大月如電が昭和3年（1928）、油印本で限定100部復刻したものの貴重な複製。研究を付す。

本書は、天保年間に、渋川六蔵・藤井三郎補訂にオランダ語訳本より作られた日本英語学史上の初の英文法書である。もとのものは失われたが、大月如電が昭和3年（1928）、油印本で限定100部復刻したものの貴重な複製。研究を付す。

都竹の中心的なテーマであった（方言）文法の研究を集めて刊行した。*都竹通年雄著作集1は品切です。

偶然発見された戦時中から戦後にかけて放送されたシナリオ78本。戦中・戦後に活躍した小林勝氏のシナリオであった。名作のラジオドラマ化から、抗日運動に関わる兄を持つ弟が主人公のドラマ、そして戦後の石川達三の「望みなきに非ず」を脚色したものまで、実際にこの時期の茶の間に流れた放送のシナリオを当時の話しことば資料として扱う。昭和初期に話された会話資料がほとんど存在しない中で、貴重な資料と研究である。目次：資料解説 遠藤織枝・木村拓／第1章 戦時中の話しことばの概観―現代語と比較しながら―遠藤織枝／第2章 「天皇」に関する用語 遠藤織枝／第3章 人称詞の使われ方 遠藤織枝／第4章 戦時中ラジオドラマにみられる待遇表現 鈴木智映子／第5章 戦時期の外來語使用 桜井隆／第6章 ラジオドラマのなかの方言―「土」と「姫鱈」から―安田敏朗／第7章 「戦争キーワード」から見る戦時中のラジオドラマ 早川治子／第8章 台本の描く女性たち 遠藤織枝／第9章 ラジオドラマにえがかれる国際認識 安田敏朗／第10章 軍隊賛美のレトリック 桜井隆

ことば・空間・身体

| | |
|--|--|
| <p>コーパスに基づく言語研究 文法化を中心に</p> | |
| 秋元実治 他著 | 英、仏、中、日の各言語における文法化現象をコーパスに基づき解明を試みる。青山学院大学の秋元実治、尾形こづえ、遠藤光暁、近藤泰弘、およびスタンフォード大学のE. C. Traugottの論文を収録。 |
| A5判・176頁・978-4-89476-216-9 定価3360円（本体3200円） 発行2004.3 | |

今日から使える発話データベースCHILDES入門

| | |
|---|--|
| <p>Brian MacWhinney 監修 宮田Susanne 編</p> | |
| A5判・117頁・978-4-89476-226-8 定価2310円（本体2200円） 発行2004.10 | |

山田文法の現代的意義

| | |
|--|--|
| <p>斎藤倫明・大木一夫 編</p> | |
| A5判・320頁・978-4-89476-534-4 定価4620円（本体4400円） 発行2010.12　新刊 | |

ことばに向かう日本の学知

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>釘貫亨・宮地朝子 編</p> | |
| A5判・978-4-89476-559-7 未刊 | |

連用・連体を考える (仮)

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>前田直子 編</p> | |
| 四六判・978-4-89476-564-1 未刊 | |

言語機械の普遍幻想 西洋言語思想史における「言葉と事物」問題をめぐって 〈明治大学人文科学研究所叢書出版助成刊行物〉

| | |
|--|--|
| <p>浜口稔 著</p> | |
| A5判・272頁・978-4-89476-553-5 定価10290円（本体9800円） 発行2011.3　新刊 | |

時間・ことば・認識

| | |
|--|--|
| <p>長野泰彦 編</p> | |
| A5判・338頁・978-4-89476-117-9 定価4830円（本体4600円） 発行1999.11　在庫僅少 | |

| | |
|--|--|
| <p>篠原和子・片岡邦好 編</p> | |
| A5判・272頁・978-4-89476-273-2 定価7140円（本体6800円） 発行2008.3 | |

メタファー研究の最前線

| | |
|---|--|
| <p>楠見孝 編</p> | |
| A5判・568頁・2刷・978-4-89476-317-3 定価8400円（本体8000円） 発行2007.9 | |

対人行動の日韓対照研究 言語行動の基底にあるもの

| | |
|---|--|
| <p>尾崎喜光 編</p> | |
| A5判・288頁・978-4-89476-341-8 定価5250円（本体5000円） 発行2008.10 | |

国会会議録を使った日本語研究

| | |
|--|--|
| <p>松田謙次郎 編</p> | |
| A5判・288頁・978-4-89476-299-2 定価5250円（本体5000円） 発行2008.5 | |

日本語の対人関係把握と配慮言語行動

| | |
|---|--|
| <p>三宅和子 著</p> | |
| A5判・332頁・978-4-89476-472-9 定価3990円（本体3800円） 発行2011.1　新刊 | |

談話の分析を通して、日本語の対人関係の把握の仕方とその背景にある価値観や世界観との関連を考察する。言語コミュニティーにおける人々の「配慮」のとらえ方は言語表現の現れ方に影響を与える。近年メディアの言語生活への浸透が著しいが、日本語社会の言語行動規範にも変化が現れているだろうか。ポライトネスとも関連づけながら、対面のコミュニケーションとケータイメール・コミュニケーションの研究を通して究明する。

| <div><div></div>日本語のアクセント、英語のアクセント</div> | 🌐 未刊 |
|--|---|
| 杉藤美代子 著 | 日本語は高さアクセント、英語は強さアクセントと言われてきたが、本当にそうなのか、両者はいったいどこがどうちがうのか、筆者は、これらを調べるために研究を始めた。そして数十年、次々と生じる疑問点について、発想の及ぶ限りの実験等が続けてきた。その過程で、日本語(特に関西アクセント)と英語のアクセントには思いがけない類似点があることを見出した。また、英語話者と日本語話者では文中のアクセントの使い方がまったく違うこと等も見えてきた。この書は、アクセントに関する入門書であり、多くの疑問点への回答書でもあります。ぜひご一読下さい。 |

| <div><div></div>形式名詞がこれでわかる</div> | |
|---|--|
| 吉川武時 編 <div>代表 小林幸江・柏崎雅世</div> | 「もの、こと、ところ」などの形式名詞を含む文中表現、または複合述語の機能、用法がわかる本。本書の特徴は、外国人への日本語教育の現場の教師に配慮し、形式から内容へという一貫した説明を行っているところにある。各章末には各文法項目の機能、用法、例文を表に整理した。さらに理解確認問題もあり、これによって理解が深まる。解答例付。 |
| A5判・224頁・978-4-89476-191-9 <div>定価2940円(本体2800円)</div> <div>発行2003.8</div> | |

| <div><div></div>複合助詞がこれでわかる</div> | |
|---|--|
| 東京外国語大学留学生日本語教育センター グループ KANAME 編著 <div>代表 鈴木智美</div> | 『形式名詞がこれでわかる』に続く日本語文法の概説。中級日本語学習者にとって的確に使いこなすことの難しい機能語を、接続形式と意味、例文を揭示し、1つ1つ詳細に解説していく。解説項目：「について」「に関して」「に対して」「によって」「において」「にあって」「として」「にしたがって」「につれて」「に応じて」「に基づいて」「にあたって」「を通して」「を通じて」「にむけて」「にわたって」「に限って」「に限らず」「にかかわらず」「を問わず」 |
| A5判・244頁・978-4-89476-318-0 <div>定価2940円(本体2800円)</div> <div>発行2007.5</div> | |

| <div><div></div>ことばの宇宙への旅立ち</div> | 10代からの言語学 |
|---|---|
| 大津由紀雄 編 | 言語学の入り口となる本。たとえば、ことばに関する面白い事例を紹介したり、言語の不思議を研究する人々がどう考えて、どういうプロセスでことばのナゾを追い求めるのかを公開することで、10代半ばから後半くらいの思春期の若者たちをはじめとして、多くの人々が、ことばの仕組みに興味を目覚めさせる本。執筆者は、上野善道、窪蘭晴夫、今西典子、西村義樹、今井邦彦。 |
| 四六判・232頁・978-4-89476-393-7 <div>定価1575円(本体1500円)</div> <div>発行2008.2</div> | |

| <div><div></div>ことばの宇宙への旅立ち2</div> | 10代からの言語学 |
|--|---|
| 大津由紀雄 編 | 『ことばの宇宙への旅立ち』の続編。第2集のテーマは、ことばと脳(酒井邦嘉)、ことばと認知(池上嘉彦)、ことばとバリエーション(日比谷潤子)、ことばの獲得(大津由紀雄)など、さらに多岐に及ぶ。中高生から、学生、社会人まで、ことばに関わる知的な好奇心をいっそう大きくしてほしいとの願いを込めて刊行する。 |
| 四六判・176頁・978-4-89476-429-3 <div>定価1365円(本体1300円)</div> <div>発行2009.2</div> | |

| <div><div></div>ことばの宇宙への旅立ち3</div> | 10代からの言語学 |
|--|--|
| 大津由紀雄 編 | 『ことばの宇宙への旅立ち』の第3弾。目次：今井むつみ(どうして子どもはことばの意味を学習できるのか)、長嶋善郎(「後ろ姿」は日本語的なことば)、野矢茂樹(ことばと哲学)、滝浦真人(夫婦ゲンカの敬語と上手な友だちの作り方、の言語学)、岡ノ谷一夫(動物の鳴き声と言語の起源)、尾上圭介(「文法」で“芸”ですか)。 |
| 四六判・284頁・978-4-89476-476-7 <div>定価1680円(本体1600円)</div> <div>発行2010.3</div> | |

| <div><div></div>続・愉快な日本語講座</div> | (仮) |
|--|---|
| 添田建治郎 著 | 昨今、英語教育重視の風が吹き荒れているが、日本人は日々日本語で考え、表現している。日本語はそんな日本人の心を映し省みる大切な鏡である。著者は、大学で日本語学関連の授業を通じて、「かけがえのない言葉」である日本語の持つその特徴・働きを、学生と共に考えてきた。日本語に巡り会い、少しずつ理解を深め、再認識していく学生たちの様子を描いた、若い世代に語りかけ次世代に託す一書である。 |
| 四六判・978-4-89476-557-3 <div>近刊</div> | |

| <div><div></div>あいまいなのは日本語か、英語か?</div> | 日英語発想の違い |
|--|---|
| 今井邦彦 著 | 「英語圏の人の言うことは論理的で明白だが、日本人の発語は曖昧で不明瞭なことが多い」という一種の迷信を抱いている人の数は少なくない。本書はまさしくその逆を主張する。英語国民は、意図的に、実際に口に出す意味よりもたくさんの意味を相手に伝えようとする。つまり、自分の心を相手に読ませる部分を(日本人に比べて)多くする傾向がある。これが「英語らしい英語」の大きな特徴なのだ。著者は、数多くの事例に基づいて、この新説を説得的に披露展開する。 |
| 四六判・176頁・978-4-89476-526-9 <div>定価1764円(本体1680円)</div> <div>発行2011.2 新刊</div> | |

| <div><div></div>留学生の日本語は、未来の日本語</div> | 日本語の変化のダイナミズム |
|---|---|
| 金澤裕之 著 | 日本語学習者による誤用とされる表現は、単なる間違いばかりではない。誤用の中に、日本語の将来を予感するものがあるかもしれないと考え、言語変化の可能性を追求する。本書は、未来へ向かう日本語史研究と呼ぶことができることかもしれない。 |
| 四六判・304頁・978-4-89476-413-2 <div>定価2940円(本体2800円)</div> <div>発行2008.10</div> | |

| <div><div></div>裁判とことばのチカラ</div> | ことばでめぐる裁判員裁判 |
|--|---|
| 堀田秀吾 著 | 2009年より裁判員制度が始まった。本書は、これまで市民には全く馴染みのなかった「裁判」の世界を、「ことば」を手掛かりに、コーパス言語学や語用論などの言語学の理論だけでなく言語心理学や社会心理学などの理論を用いながら、さまざまな角度から分析していくものである。筆者が3年間にわたって研究してきた全国の裁判所で行われた一般非公開の模擬裁判員裁判の客観的分析データがたくさん盛り込まれているので、言語学や心理学に関心のある方はもちろん、裁判員制度に関心のある一般読者や法曹・法学者にも読んでいただける書である。 |
| 四六判・192頁・978-4-89476-448-4 <div>定価2100円(本体2000円)</div> <div>発行2009.5</div> | |

| <div><div></div>言語・脳・認知の科学と外国語習得</div> | |
|--|--|
| 東北大学言語認知総合科学 COE 論文集刊行委員会 編 | 東北大学におけるCOEプログラム「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」での研究教育活動の成果をまとめた論文集である。収録論文を「言語の多様性と普遍性」、「言語を学ぶ脳」、「言語のモデルと外国語習得」の3部構成として編纂した。第1部：連鎖推移と言語接触のインターフェイスー中央アジアの事例からー(井土慎二)、南アジア諸語における非顕在的動作主構文(パルデシ・プラシャント)、日中語の名詞修飾構文の機能類型論ーパラレルコーパスの分析に基づいてー(王路明)、コーパスデータに基づいた韓国語の「것이다(KES-ITA)」の用法(金廷珉)、終結語尾と終助詞に見る話し手の心的態度(平香織)、第2部：日本語短距離かき混ぜ文の脳内処理機構(金情浩)、脳内における日本語文理解モデル(横山悟)、バイリンガルの脳内言語処理(鄭媽媽)、言語・非言語コミュニケーションに関与する神経基盤(佐々祐子)、第3部：中国語を母語とする日本語学習者における格助詞「を」「に」の習得過程ー競合モデルを用いてー(蘇雅玲)多少の「も」の意味論と多義性(中村ちどり)、第二言語学習におけるアウトプットの役割(鈴木渉、板垣信哉)、言語認知処理における言語形態情報の影響(白晨、岩崎祥一) |
| A5判・216頁・978-4-89476-444-6 <div>定価4830円(本体4600円)</div> <div>発行2009.11</div> | |

| <div><div></div>サイコセラピー面接テキスト分析</div> | サリヴァンの面接トランスクリプトに基づいて |
|---|--|
| 加藤澄 著 中井久夫 序 | 本書は、アメリカの精神科医Harry Stack Sullivanの面接記録を、HallidayのSFL(Systemic Functional Linguistics 選択体系機能理論)に基づいて分析したものである。Sullivanの面接記録を言語学的手法を用いて分析したものとしては、世界初の大変貴重なものである。日本では広く受け入れられているとはいいがたいSFLの可能性を示すものでもある。 |
| A5判・344頁・978-4-89476-440-8 <div>定価4200円(本体4000円)</div> <div>発行2009.4</div> | |

| <div><div></div>清国人日本留学生の言語文化接触</div> | 相互誤解の日中教育文化交流 |
|---|---|
| 酒井順一郎 著 | 明治期、列強諸国に学ぶことに力を注ぐ日本。その最中、思いも寄らず清国から多数の留学生が来日してしまう。初の海外体験と近代教育を受ける清国人留学生、初の留学生教育を経験する嘉納治五郎と日本教育界、それぞれの戸惑い、苦悩、喜び、発見は一体何であったか。特に思い込みからくる相互誤解、留学生から突きつけられた日本語への疑問、日本社会から孤立していく留学生に手を差し伸べた日本人娼妓達等、ユニークな視点から教育文化交流を論じる注目 の書。 |
| A5判・300頁・978-4-89476-439-2 <div>定価4935円(本体4700円)</div> <div>発行2010.3</div> | |

| | |
|-----------|---|
| | 方言の発見 知られざる地域差を知る |
| 小林隆・篠崎晃一編 | 日本の方言にはまだまだ知られていない地域差がたくさんある。本書は、方言の地理的変異について、これまで十分取り組まれてこなかった分野を開拓し、方言に関心のある人たち、特に、これから方言研究に取り組みようとする若い人たちを、知られざる日本語方言の世界へと案内し、新たな研究へと誘う。イントネーションや感動詞、オノマトペ、あるいは、言語行動や談話展開などを対象に、今後の方言研究の萌芽となるような発見やアイデアを豊富に盛り込む。 執筆者：木部暢子、小林隆、友定賢治、澤村美幸、陣内正敬、篠崎晃一、西尾純二、久木田恵、沖裕子、半沢幹一（執筆順） |

| | |
|-----------------|---|
| | 認知言語学研究の方法 内省・コーパス・実験  新刊 |
| 辻幸夫監修 中本敬子・李在鎬編 | 認知言語学の代表的研究方法として、作例と内省による研究、コーパス研究、心理実験・調査を紹介した入門書。各研究方法の特色や、実際の研究の進め方を具体的に解説している。また、最先端の研究を例に、実際の研究がどのように行われたかを紹介している。卒論、修論で初めて認知言語学研究を行う学生の他、研究法の幅を広げたいと考える研究者のニーズにも応える内容である。執筆者：辻幸夫、中本敬子、李在鎬、黒田航、松本曜、加藤鉦三、玉岡賀津雄、大谷直輝、楠見孝 |

| | |
|------|---|
| | 脳からの言語研究入門 最新の知見から研究方法まで  新刊 |
| 横山悟著 | 近年、脳機能計測技術の発達により、人間の言葉・言語を使っているときの脳活動を画像化しようという研究が増えてきている。本書は、脳からの言語研究に興味を持つ学生及び研究者を対象に、脳機能計測を用いた言語研究の最新の知見概説と、実際に人文系の学生・研究者が脳からの言語研究を行う際に、具体的に何から始めればいいのか、何を準備してどうすればデータ解析結果が得られるのか、の説明までを網羅した入門書。 |

| | |
|------|--|
| | これからのコロケーション研究  未刊 |
| 堀正広編 | 英語教育・日本語教育・英語史・辞書学・文体等の各分野におけるコロケーション研究の第一人者が、これまでのコロケーション研究を概観・整理し、これからのコロケーション研究の可能性を様々な面から提示する。平成21年に行われた日本英語学会公開シンポジウム「これからのコロケーション研究」（堀正広、小屋多恵子、赤野一郎、田畑智司、渡辺秀樹）の発表者に加え、日本語については田野村忠温、コーパス利用の落とし穴に関しては大名力の各氏が執筆している。 |

日本近代語研究

▶日本近代語研究

近代語研究会編

A5判・360頁・978-4-938669-54-6
定価15750円（本体15000円）
発行1995.12

▶日本近代語研究

近代語研究会編

A5判・492頁・978-4-89476-432-3
定価37800円（本体36000円）
発行2009.10

日本近代語研究 2

執筆者 出雲朝子／金澤裕之／金子弘／佐藤貴裕／清水登／鈴木博／田中章夫／陳力衛／永田高志／蜂谷清人／飛田良文／宮田和子／村田菜穂子
（お詫び・佐藤先生の図版の部分に間違いがありました。訂正の図版を用意していますのでご請求下さい。）

日本近代語研究 5

近代日本語の歴史と構造を、音声、文法、語彙といったパースペクティブから分析するとともに、その際用いられる辞書、教科書、文学作品などの資料性に検討を加えた論文集。今回は、1982年7月に発足した近代語研究会の25周年記念論文集として刊行し、下記の論考を収録。
【収録論文】日本語辞書学の課題（飛田良文）／字音語の生態（田中章夫）／国定読本の語彙（島村直己）／訳語‘帰化’の成立（鄭英淑）／「ひく」の意味論—多義と認知の接点（松中完二）／助数詞「本」の近代までの用法拡張—認知意味論的解釈の再検討（王鼎）／いわゆる副助詞「きり」考（山西正子）／接尾語「～だらけ」「～まみれ」の動向—スポーツ紙のwebsiteから（神作晋一）／『金色夜叉』本文の助動詞の異同について（北澤尚・許哲）／大正期日本語教科書ベルリッツ著『日本語教科書』のことば（伊藤孝行）／丁福同譯釋『中等日本典譯釋』小考（坂本哲平）／明治期東京語における土族・知識層女性の命令表現の考察（陳慧玲）／明治時代語における自称詞の融合形—使用階層との関係を中心に（祁福鼎）／井上哲次郎の欧州留学中の日記と自筆ノートにみられる西洋人学者（真田治子）／前島来輔『漢字御廃止之議』の成立問題（阿久澤佳之）／日本におけるモリソンの『華英・英華字典』の利用と影響（陳力衛）／和刻半紙本『笑府』に関する二三のこと（荒尾禎秀）／契沖のアクセント表記法（川上泰）／式亭三馬の江戸語描写—作品と文章の作成過程（本田康雄）／草双紙の地の文における「準発話」—その認定と射程（小野正弘）／天保以降の人情本におけるダロウ・ノダロウ（鶴橋俊宏）／「捷解新語」の対称詞（永田高志）／通事ロドリゲスの故郷セルナンサーレを訪ねて—通事自身の言語を探る（豊島正之）／大蔵虎明本「武悪」の表現論的考察—武悪を訪ね、池へ案内さすの段（小林千草）

*日本近代語研究 1・3・4巻は品切です。

言語教育研究の挑戦

言語学と言語教育を横断するシリーズ。言語学的な視点を持った言語教育の研究書を刊行。これまで、言語教育研究は、教科書出版社が、余技で刊行するということが多く、教師のためのノウハウ本や実践報告の枠を超えることがなかなかできなかったというのが実情ではないだろうか。そのような現状を打破し、言語教育を研究として位置づけることを目標とする。従来の言語教育の書籍よりも、高価である。しかし、軽便・安価を旨とした深みのない書籍になってしまうことをさげ、500部でも研究書として世に問うことを選択した。この領域で研究書をきちんと刊行できることが重要であると信じる。日本語教育、英語教育などの優れた研究を刊行。言語教育研究者にとって、コモンセンスとなりうる重要なシリーズ。ハードカバーで、鮮やかなブルーのカバーの体裁。

*1・4・5・6・10巻は品切です。

| | |
|---|---|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 2 | 統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 田中寛 著 | 日本語とタイ語のはじめての体系的な対照研究。著者の長年の日本語教育と外国語教育の実践から、多くの用例をもとに、日本語とタイ語の文法構造を明らかにする。豊富な用例はタイ語の参照文典としても必携。東南アジア言語研究者、日本語教育関係者にとって待望の成果である。巻末に詳細な文献目録、学習文献目録、米国・英国ロンドン大学英国博士論文目録を付す。 |
| A5判・734頁・978-4-89476-205-3 定価19950円(本体19000円) 発行2004.2 在庫僅少 | |
| ▶シリーズ言語学と言語教育 3 | 日本語と韓国語の受身文の対照研究 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 許明子 著 | 日本語と韓国語の受身文の特徴を、従来の研究を踏まえつつ日常の言語生活を対象にした実践的アプローチにより考察する。韓国人日本語学習者にとって受身文の習得が難しい理由はなにかを考え教育現場への応用をはかる。 |
| A5判・280頁・978-4-89476-206-0 定価6300円(本体6000円) 発行2004.2 在庫僅少 | |

| | |
|---|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 7 | 引用表現の習得研究 記号論的アプローチと機能的統語論に基づいて |
| 杉浦まそみ 著 | コミュニケーションにおいて重要な言語行為である「引用」は様々な側面から明らかにされつつある。しかし、第二言語としての日本語における引用表現の習得過程はまだ十分に解明されていない。本書では、引用表現とは引用句に表される事象と、発言するという事象の2つの事象の統語的統合であるという観点に立ち、2つの事象がどのように捉えられ言語化され統合されていくか、自然習得者を対象に観察し、習得仮説を提示する。さらに、その仮説が教室習得者においても有効か、教室インストラクションによってどう影響を受けるか実証的に検討し、日本語教育への示唆を考える。 |
| A5判・316頁・978-4-89476-334-0 定価7770円(本体7400円) 発行2007.10 | |

| | |
|--|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 8 | 母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 清田淳子 著 | 日常生活に必要な日本語は比較的短期間で習得できるものの、教科学習のための日本語習得は時間がかかるため、学習に困難を抱えてしまう「言語少数派の子どもたち(本書では、日本語を母語としない子どもたちをこう称す)」は少なくない。本書では、「母語を活用した内容重視のアプローチ」を提案。長期にわたる支援活動を通じて得た研究成果から、急務となっている言語少数派の子どもたちに対する教科学習支援の新たな方法の構築を目指す。 |
| A5判・264頁・978-4-89476-328-9 定価8715円(本体8300円) 発行2007.2 | |

| | |
|--|---|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 9 | 日本人と外国人のビジネス・コミュニケーションに関する実証研究 |
| 近藤彩 著 | 日本経済の国際化や日本で就労する外国人が増加する中で、日本人と外国人のビジネスコミュニケーションの実態を明らかにすることが急務となっている。本書は、これまでほとんどあつかわれてこなかった日本語でのビジネス場面の研究を行っている。日本人と外国人が日本語を媒介語としてビジネスをするとき、どのような問題が起こっているのかを解明する実証的研究。 |
| A5判・224頁・978-4-89476-300-5 定価7140円(本体6800円) 発行2007.9 | |

▶シリーズ言語学と言語教育 11

村田久美子・原田哲男 編著

A5判・268頁・978-4-89476-363-0
定価3990円(本体3800円)
発行2008.3

▶シリーズ言語学と言語教育 12

金賢信 著

A5判・402頁・978-4-89476-360-9
定価9240円(本体8800円)
発行2008.2

▶シリーズ言語学と言語教育 13

加藤由香里 著

A5判・248頁・978-4-89476-358-6
定価9030円(本体8600円)
発行2008.2

▶シリーズ言語学と言語教育 14

金孝卿 著

A5判・184頁・978-4-89476-362-3
定価6510円(本体6200円)
発行2008.2

▶シリーズ言語学と言語教育 15

横山紀子 著

A5判・208頁・978-4-89476-357-9
定価7035円(本体6700円)
発行2008.2

▶シリーズ言語学と言語教育 16

森山新 著

A5判・324頁・978-4-89476-383-8
定価5880円(本体5600円)
発行2008.10

コミュニケーション能力育成再考

ヘンリー・ウィドウソンと日本の応用言語学・言語教育

本書ではヘンリー・ウィドウソン氏の長年に亘る応用言語学・言語教育への貢献を、日本というコンテクストの中で論じる。10名の執筆者が自らの専門分野と氏の理論を関連付けつつ、日本の言語教育の実践と結びつけようと試みるもので、特にコミュニケーション能力育成とその可能性に焦点を当て、ウィドウソン氏の理論、主張と、読者の橋渡しの役目も果たしながら、日本の言語教育・応用言語学の発展に貢献しようとするものである。

異文化間コミュニケーションからみた韓国高等学校の日本語教育

〈日本学術振興会助成刊行物〉

韓国は世界で日本語学習者数の最も多い国としてよく知られているが、かつて植民地期に国語として強要された日本語をどのような経緯で受け入れ、またどのような過程を経て現在に至ったのかについては、あまり知られていない。本書は韓国の社会的動向を背景として、高等学校における日本語教育の歴史を総合的にとりあげ、その問題点を明らかにした。特に、高校の日本語教科書の内容分析を通し、脱植民地後の支配イデオロギーが教科書の内容にどのように反映され、変遷してきたかを考察する。

日本語eラーニング教材設計モデルの基礎的研究

〈日本学術振興会助成刊行物〉

近年のネットワーク技術の向上を背景に、様々な学習者のニーズに対応した日本語eラーニング教材開発の重要性が増しつつある。本研究では、学習目標に関わる抽象的なレベルから、eラーニングとして実現される学習活動までを「日本語教材設計モデル」として提案した。このモデルでは教授設計理論に基づき、学習目標の設定から、実施、評価までを1つのシステムとしてとらえ、個々の学習者に応じた教授の最適化を実現する条件を整理している。

第二言語としての日本語教室における「ピア内省」活動の研究

〈日本学術振興会助成刊行物〉

「ピア内省」活動とは、日本語使用の体験が終わった後、その体験について学習者仲間(peer)と対話することによって、協働的に双方の内省促進を図る教室活動である。本書では、まず、学習者の内省の質の向上をどのように評価すれば良いかに関して具体的な観点を示した。次に、学習者の言語学習に対する内省力をつける上で、他者との協働的な対話活動が、彼らの内なる自己との対話をどのように促進しうるかを示し、通常は一人作業になりがちな内省活動に「ピア内省」を組み込んだ具体的な活動デザインを提案した。

非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究

〈日本学術振興会助成刊行物〉

非母語話者日本語教師を対象とした再教育研修において、聴解技能に焦点を当てて、その成果を検証する。言語学習は言語知識の獲得のみならず、学習ストラテジーの習得であるという視点から、筆者は、聴解ストラテジーを積極的に導入した聴解指導を行い、彼ら自身の聴解学習経験を通して、教師としての言語指導観を内省し、変容させていく過程を調査した。結果、自身の聴解技能の伸長が教師としての聴解指導観に影響を与えたことを聴解指導教案等の分析から明らかにする。

認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得

日本語教育に生かすために

本書は日本語の研究者であり教師でもある著者が、最近注目を集める認知言語学の観点を生かして日本語の格助詞の意味構造を明らかにしたのち、様々な実験的手法や先行研究を駆使してその妥当性を示している。さらにコーパスなどのデータを用い、第二言語としての日本語の習得過程を解明し、意味構造と言語習得との関係について述べ、その成果をもとに日本語などの外国語教育に対して具体的提言を行ったものである。

| | |
|--|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 17 | 第二言語の音韻習得と音声言語理解に関する言語的・社会的要因 |
| 山本富美子 著 | |
| A5判・288頁・978-4-89476-419-4 定価6825円(本体6500円) 発行2009.5 | 日本語の音声言語理解について中国北方方言話者と上海語話者、非中国語系話者を比較調査した。その結果、母語に破裂音の有声・無声の対立を持たない北方方言話者は、日本語の音声言語で生起頻度の高い破裂音の習得が困難なため、音声言語の意味理解が劣ることを明らかにした。しかし、初期段階での音声・音韻教育は、アカデミックな音声言語理解が中心となる上級段階で、北方方言話者にも集団規模で効果をもたらし、第一言語の音韻体系や個人差にも優る大きな要因として作用することを実証した。 |

| | |
|--|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 18 | 日本語学習者の「から」にみる伝達能力の発達 |
| 木山三佳 著 | |
| A5判・192頁・978-4-89476-418-7 定価7140円(本体6800円) 発行2009.3 | 教室環境にある学習者を対象に、統語的規則を理解している状態から場面にふさわしい言語使用ができる状態になる段階に焦点をおき、場面に応じて「から」を使い分けられるようになるプロセスを分析した。構造的特徴と機能的特徴を「から」の用法の分析の基準にすると、書きことばはより統語論的モードの特徴をもつ用法へ、話しことばはより語用論的モードの特徴をもつ用法へ、と使用領域が拡大していることがわかった。 |

| | |
|--|---|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 19 | 日本語教育学研究への展望 柏崎雅世教授退職記念論集 |
| 藤森弘子・花蘭悟・楠本徹也・宮城徹・鈴木智美 編 | |
| A5判・532頁・978-4-89476-441-5 定価7560円(本体7200円) 発行2009.3 | 本書は、2009年3月にご退職を迎えた東京外国語大学教授柏崎雅世氏と、東京外国語大学留学生日本語教育センターにゆかりのある研究者や大学院の教え子たちが寄稿し、27本の論文によって編まれた論文集。第1章 音声・語彙・文字、第2章 文法、第3章 会話分析、第4章 国内外の教育実践報告・留学生施策についてなど、幅広く日本語教育に関わる論文が集められている。執筆者：姫野昌子、金愛子、柳澤絵美、韓金柱、鈴木綾乃、黄慧、田山のり子、善如寺俊幸、楊紅、王景傑、梓沢直代、清水淳、張麗、鈴木智美、花蘭悟、池田智子、郭碧蘭、金銀美、宮武かおり、藤森弘子、測上真由美、和田沙江香、菅長理恵、工藤嘉名子、坂本恵、宮城徹、岡田昭人、中島久朱、伊東祐郎、小林幸江（論文掲載順） |

| | |
|--|---|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 20 | 日本語教育からの音声研究 |
| 土岐哲 著 | |
| A5判・280頁・978-4-89476-488-0 定価6090円(本体5800円) 発行2010.3 | 本書は、幾多の日本語学習者との接触により触発され、自発性の高い自然な日本語音声とはどんなものかに焦点を当てることで生まれた研究である。音声教育の史的概観、一般音声学的視点の重要性、縮約現象の諸相、リズムの規則性、アクセントの下げとイントネーションの下げ、海外（南洋群島、台湾）に残存する日本語の音声等の他、現代社会に於ける音声教育観等、音声教育を考える上での主要な項目を内容として展開する。 |

| | |
|--|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 21 | 海外短期英語研修と第2言語習得 |
| 吉村紀子・中山峰治 著 | |
| A5判・152頁・978-4-89476-493-4 定価4095円(本体3900円) 発行2010.4 | 本書は、日本の文系大学生と理系大学院生のためにアメリカの大学で実施する2種類の“手作り”の海外短期英語研修プログラムの成果をまとめた研究書である。2部構成で、前半は研修の特色・内容・英語力の向上、後半は日本語を母語とする英語学習者の統語・形態・音韻の問題点、について英語教育と第2言語習得理論の視点から議論を展開する。語学研修の実践で得た知見を言語習得の研究に生かす試みとして興味深い内容である。 |

| | |
|---|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 22 | 児童の英語音声知覚メカニズム L2学習過程において 新刊 |
| 西尾由里 著 | |
| A5判・304頁・978-4-89476-524-5 定価9135円(本体8700円) 発行2011.2 新刊 | なぜ日本人はMacdonaldを「マクドナルド」と発音し、「マクドーナルド」と発音できないのか。本書は、英語母語話者がMacdonaldをMac.don.aldのように音節に分ける一方、日本人はMac(u).do.na.l(u).d(o). というように、日本語的にモーラ単位で知覚していることが、発音の大きな要因であることを明らかにした。さらに、小学生のどの時期にどのくらいの量を学習すると英語母語話者のように音節で聞き取れるようになるかを解明した。研究者・学生・小中高大学教授および早期英語教育に興味のある親に必読の一書である。 |

| | |
|---|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 23 | 学習者オートノミー 日本語教育と外国語教育の未来のために 新刊 |
| 青木直子・中田賀之 編 | |
| A5判・288頁・978-4-89476-539-9 定価5040円(本体4800円) 発行2011.3 新刊 | 時代の変化に対応した新しい形の言語学習を可能にするものとして、外国語教育や日本語教育の関係者の間で、学習者オートノミーへの関心が高まっている。本書は、学習者オートノミーの研究と実践のエッセンスを紹介することを目的として編まれた論文集で、アンリ・オレック、デビッド・リトル、フィル・ベンソンら学習者オートノミー研究の第一人者が執筆者に名を連ねている。学習者オートノミーに関して日本語で読める初めての本格的な書。英語版：Mapping the Terrain of Learner Autonomy: Learning environments, learning communities and identities. 2009. Tampere, Finland: Tampere University Press. |

| | |
|---|--|
| ▶シリーズ言語学と言語教育 24 | 日本語教育のためのプログラム評価 新刊 |
| 札幌寛子 著 | |
| A5判・224頁・978-4-89476-558-0 定価6930円(本体6600円) 発行2011.5 新刊 | 社会的使命を担う日本語教育活動では、プログラム評価はその責任の一端であるとの思いで取り組んだ実践的な研究。プログラム評価の歴史的 発展経緯や理論的な背景、過去の外国語教育での評価事例を踏まえ、日本語教育プログラムを想定した評価像を描き出す。また、評価を専門としない者 でも実践できる「12 ステップ」など具体的な方策を紹介。このステップに則って行なった日本語教育プログラムの評価事例を検証し、今後の評価の在り方を論ずる。 |

| | |
|--|---|
| | Referent Markings in L2 Narratives Effects of Task Complexity, Learners' L1 and Proficiency Level 近刊 |
| 中浜優子 著 | |
| 菊判・978-4-89476-535-1 定価12600円(本体12000円) 近刊 | 日本語学習者が如何に形式と意味のマッピングをしながら、結束性のあるナラティブを産出するのかを、指示対象の言及という観点から考察。近年、第二言語習得研究で注目されている“タスク”に着目し、タスクの種類とナラティブ談話構成との関係について、学習者の母語・言語習熟度という視点から解明を試みた点が意義深い。教育学的示唆にも富んでおり、研究者はもとより、語学教育者にとっても有用性が高く、教育現場にも還元できる研究書。 |

| | |
|---|--|
| | Parsing Strategies of Japanese Low-proficiency EFL Learners |
| 安間一雄 著 | |
| 菊判・200頁・978-4-89476-437-8 定価9345円(本体8900円) 発行2009.2 | 英語を外国語として学ぶ際、いわゆる能力の低い学習者には何が障害となっているのか？ 複数の多変量解析の手法を組み合わせる文法性判断テストの結果を分析したところ、短文を正確に読み取れる範囲に系統的な能力差があることがわかった。また、途中打ち切りの解釈を誘発する文構造ほどその傾向は顕著であった。この結果は近年のワーキングメモリー研究とも整合し、個人の特性に応じた教育・学習方法を考える上で示唆を与えるものである。 |

| | |
|--|--|
| | 「議論」のデザイン メッセージとメディアをつなぐカリキュラム |
| 牧野由香里 著 | |
| A5判・488頁・978-4-89476-385-2 定価8400円(本体8000円) 発行2008.9 | 議論という活動は、どのように学びを促すことが可能なのか。教育することが可能なのだろうか。本書は、誰も答えようとしなかったこの難問に対してもっとも全面的に徹底的に議論した研究である。教育工学という土壌の中で、果敢に実際の処方箋を提案している。裁判員制度も2009年から始まった中、もっとも重要な臨床的議論学といえよう。 |

| | |
|--|---|
| ▶大学の授業をデザインする | 日本語表現能力を育む授業のアイデア |
| 大島弥生・大場理恵子・岩田夏穂 編 | |
| A5判・266頁・978-4-89476-386-9 定価3990円(本体3800円) 発行2009.4 | 近年、大学では、留学生のみならず日本語母語話者の学生にも、日本語を読み、書き、聞き、話す技能を養成する授業が広まり、手法の模索が続いている。本書では、「正しい言語知識を教える」というスタイルを脱し、表現産出のプロセスを重視して授業をデザインした各種の実践をまとめた。とくに、参加者が学びあう協働的アプローチ、ことばの学習をキャリア教育などの多様な目的と結びつける統合的アプローチにもとづいた授業デザインを紹介している。 |

| | |
|--|--|
| | 児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査 |
| 工藤真由美 著 | |
| A5判・216頁・978-4-89476-112-4 定価4095円(本体3900円) 発行1999.5 | 外国人児童生徒が、小中学校で教育を受けるにあたってはじめに学習すべき基本的な語彙は何か。計画的な学習に不可欠な基本語彙の設定を目指して行われた調査の報告書。児童生徒の日本語学習環境整備のための、まずは出発点となる基礎資料である。 |

| | |
|---|---|
| | 中国人学生の綴った戦時中日本語日記 |
| 遠藤織枝・黄慶法 編 | |
| A5判・392頁・978-4-89476-380-7 定価5040円(本体4800円) 発行2007.10 | 2002年中国福建省廈門市の図書館で見発された日本語の日記は、昭和14年に中国人・李徳明(仮名)によって書かれたものであった。日記の日本語とその背景を調査・分析することで当時の日本語教育を探る。また、存命していた李本人へのインタビューから、日本による侵略、国共内戦、文革と激動の時代を生きた1人の中国人の姿が浮き彫りにされる。 |

| <p>成長する教師のための日本語教育ガイドブック (上)</p> | |
|---|--|
| 川口義一・横溝紳一郎 著 | 多岐にわたる日本語教育分野の研究を概観し、そのポイントをわかりやすくまとめた初めてのガイドブック。これからの日本語教師がより高い実践能力を獲得するために必要な知識を多数紹介するとともに、教室活動におけるスキルとノウハウの共有をめざしている。本文は対話形式で進められており、楽しみながら日本語教育のこれまでとこれからを知ることができる。【目次】序。「教える」って何だろう？ 1.日本語教師について考えよう／A.ピルーフスと教育哲学 B.日本語教師の資質について C.教師の自己成長の方法 2.日本語の授業に臨む前に／A.教科書分析 B.教案作成 C.授業観察 3.日本語の授業の実際／A.スピーキングの指導 B.リスニングの指導 C.ライティングの指導 D.リーディングの指導 E.4技能の統合 |
| A5判・301頁・5刷・978-4-89476-251-0 定価2940円(本体2800円) 発行2005.5 | |

| <p>成長する教師のための日本語教育ガイドブック (下)</p> | |
|---|---|
| 川口義一・横溝紳一郎 著 | 【目次】1.日本語の授業の実際／A.発音指導 B.導入と文法説明 2.日本語を教えるための教材／教具／教育機器って何だろう？ 3.教室内のインタラククション／A.学習者のバラエティ B.ティーチャー・トーク／指示／問いかけ C.教師のフィードバック D.クラスルーム運営 4.日本語の授業の後で／A.授業直後のフィードバック・セッションでの話し方・聞き方 B.報告書の書き方 5.日本語教師についてもう一度考えよう |
| A5判・335頁・4刷・978-4-89476-252-7 定価2940円(本体2800円) 発行2005.5 | |

| <p>アカデミック・ジャパニーズの挑戦</p> | |
|--|--|
| 門倉正美・筒井洋一・三宅和子 編 | アカデミック・ジャパニーズ(大学で学ぶために必要な日本語力)という近年の大学日本語教育のコンセプトは、現代社会におけることばの必要のあり方として、留学生への日本語教育の領域を越える豊かな可能性をもっている。本書では、その可能性を「市民の日本語」へと展開していくための問題提起を行うとともに、具体的な教育実践(カリキュラムと教授法)を提案する。単に、日本語教育関係者だけにアピールするものを目指すのではなく、国語教育、英語教育、スタディ・スキルズ教育といった関連領域に関心のある読者、さらにはグローバル社会を生きる市民として必要な日本語力のあり方について考えている人にも意義のある内容を目指す。 |
| A5判・207頁・978-4-89476-275-6 定価2520円(本体2400円) 発行2006.6 | |

| <p>外国人の定住と日本語教育 <small>[増補版]</small></p> | |
|---|--|
| 田尻英三・田中宏・吉野正・山西優二・山田泉 著 | 2003年の日本語教育学会春季大会のシンポジウムを出発点とし、日本語教育と外国人の定住に関わる問題を取りあげた論考集。在日外国人の教育問題や定住権利、多文化主義における子どもの言語の発達など、論点は多岐にわたる。外国人の定住についてかわるジャンルの専門家による、現実にかき起している問題を解決するための提案の数々。2007年現在の新たな情況、文献、及び、Webサイトを加え、増補版とした。 |
| 四六判・212頁・978-4-89476-375-3 定価2100円(本体2000円) 発行2007.10 | |

| <p>日本語教育政策ウォッチ2008 定住化する外国人施策をめぐる</p> | |
|--|--|
| 田尻英三 編 | 2006年に関係省庁の13の課長クラスが集まって外国人労働者問題関係省庁連絡会議が作られ、『『生活者としての外国人』に関する総合的対応策』が発表された。これ以降、日本に定住化しつつある外国人に対する国家レベルでの施策が次々と発表され、大きく事態が動きだしている。しかし、関係部署が多方面にわたるため、その全貌が見えにくい状況である。本書は、それらの施策を日本語教育政策の面から捉え、今後これらの政策がどのように進んでいくかを見極めようとするもの。そのため、関係各部署の施策を精査するだけでなく、これまでの日本語教育政策の流れや国際交流基金・日本経団連の動きも併せて追う。現在進行しつつある日本語教育政策の全体を見通せる唯一の本。 |
| A5判・160頁・978-4-89476-408-8 定価1680円(本体1600円) 発行2009.2 | |

| <p>言語政策を問う! <small></small></p> | |
|---|--|
| 田尻英三・大津由紀雄 編 | 外国人受け入れにおける日本語習得、小学校の英語教育、PISA型読解力と国語力との関連等々、日本の将来に関わる重要な言語政策上の問題が噴出している。このような時こそ研究者として発言すべきだという編者の呼びかけのもとに1冊の本ができた。これは、言語政策・言語教育政策の世界における異種格闘技戦のベストマッチと言えるものだ。研究領域を超えた執筆者の熱い提言を読んでほしい。執筆者：大津由紀雄、西原鈴子、田尻英三、ましこ・ひでのり、安田敏朗、山田泉、甲斐雄一郎、吉田研作、安里和晃 |
| A5判・224頁・978-4-89476-528-3 定価2100円(本体2000円) 発行2010.11 新刊 | |

| <p>移動労働者とその家族のための言語政策 生活者のための日本語教育</p> | |
|--|---|
| 春原憲一郎 編 | 少子高齢化による労働力不足を補うため、外国人労働者の受け入れが進められつつある。これまで日本語教育は、もっとも先鋭的な現場のひとつとしてこの問題に対峙してきた。本書は、2007年3月に行われたシンポジウムでの研究発表および討論をもとに、ドイツ・韓国・オーストラリアにおける移民に対する言語政策を参照しつつ、現在、そしてこれから日本で生活する外国人のための言語政策・日本語教育のあり方を模索するものである。シンポジウム後に行った座談会では、「多文化主義」「多言語主義」とは何かを根本から問い直す。執筆者：足立祐子、松岡洋子、塩原良和、井上洋、野山広、春原憲一郎 |
| A5判・180頁・978-4-89476-387-6 定価1680円(本体1600円) 発行2009.2 | |

| <p>多文化社会オーストラリアの言語教育政策</p> | |
|--|---|
| 松田陽子 著 | 本書では、多文化主義を標榜するオーストラリアにおける国家レベルの3つの言語政策とニューサウスウェールズ州の先住民言語政策について、言語教育に関する政策を中心に、社会・文化・心理の面から分析している。策定プロセスでは、決定機関のトップダウンの力だけでなく、コミュニティからのボトムアップの力やそれらをつなぐ媒介力の作用を考察し、政策の結果としては、初等・中等学校での多言語教育の推進によって教育現場に意図されなかった影響が及んでいる状況などを明らかにしている。 |
| A5判・320頁・978-4-89476-421-7 定価4410円(本体4200円) 発行2009.4 | |

| <p>マイノリティの名前はどのように扱われているのか</p> | |
|--|--|
| 日本の公立学校におけるニューカマーの場合 | |
| リリアン テルミ ハタノ 著 | 日本の公立学校でブラジル人・ペルー人の子どもたちの名前はどうか扱われ、日本での暮らしは彼・彼女たちの「命名」にどんな影響を与えているのか。在日韓国・朝鮮人を苦惱させてきた問題がニューカマーにも生じている。在日外国人支援の市民活動に長年参加してきたブラジル人研究者によるフィールド調査報告を中心にまとめた本書は、外国籍・異文化背景の子どもたちを取り巻く諸問題の解決を目指す。名前をキーワードに、日本の公教育と日本社会の現状をあぶりだし、今後進むべき道を提案する。 |
| A5判・276頁・978-4-89476-422-4 定価4410円(本体4200円) 発行2009.4 | |

| <p>社会参加をめざす日本語教育 社会に関わる、つながる、働きかける(仮) <small></small></p> | |
|---|--|
| 佐藤慎司・熊谷由理 編 | 本書は、日本語教育の現状における様々な問題点を乗り越えるために日本語教室で行った実践を「社会参加」をキーワードとして分析、考察したものである。カタカナ、ブログ、ポッドキャストプロジェクトの3つの実践から構成されており、様々な視点から実践を分析しその可能性と問題点を考えた。このような学際的な協働思考の試みを一冊の本にすることで、「社会参加」を目指す日本語教育の新たなビジョンを読者に提供する。 |
| A5判・978-4-89476-538-2 未刊 | |

| <p>プロフィシェンシーと日本語教育</p> | |
|--|--|
| 鎌田修・山内博之・堤良一 編 | 近年とみに注目を浴びている「プロフィシェンシー」という新しい概念とその研究の可能性を様々な角度から論じた論文集である。語学における「堪能度」「熟達度」あるいは、「実力」とも訳されるこの概念が会話、談話(ポライトネス)、読解、作文、言語活動、教室活動、言語研究、第二言語の習得研究、日本語教員養成、さらに、多文化共生という広範なテーマにおいて、どのような意味を持ち、また、どのように教育・研究において実践されるかを、第一線で活躍するそれぞれの方面の専門家が熱く論じた意欲作。 |
| A5判・260頁・978-4-89476-424-8 定価5880円(本体5600円) 発行2009.5 | |

| <p>OPIの考え方に基づいた日本語教授法 話す能力を高めるために</p> | |
|---|---|
| 山内博之 著 | 「月刊日本語」(アルク)での連載に補足・改稿を加えたもの。言語運用能力のテスト方法であるOPI(Oral Proficiency Interview)を言語教育の教授法として生かし、授業評価を実践するツールとするためのスキルと理論を展開。言語教育に新たな視点を見いだす。 |
| A5判・200頁・2刷・978-4-89476-253-4 定価2310円(本体2200円) 発行2005.6 | |

| <p>プロフィシェンシーから見た日本語教育文法</p> | |
|--|--|
| 山内博之 著 | いわゆる日本語学的な文法についてではなく、日本語教育の現場で活かすための文法について述べる。学習者の言語能力からの視点、つまり、プロフィシェンシーからの視点で文法を眺めるというのが、本書の考え方である。具体的には、(1)文法の難易度を考えること、(2)言語活動から文法を眺めること、(3)理解のための文法と使用のための文法を区別すること、の3点を主張し、日本語教育の現場で活かすための文法について考えていく。 |
| A5判・200頁・978-4-89476-388-3 定価2310円(本体2200円) 発行2009.4 | |

| | |
|---|---|
| | |
| 日本語教育文法研究のための多様なアプローチ <small>(仮)</small> | 未刊 |
| 森篤嗣・庵功雄 編 | 日本語文法研究によって示された体系を、実際にどう使いこなすべきかを示す「日本語教育文法」はこれからの分野である。この分野に多くの参入を促すべく、本書は日本語教育文法のための方法（コーパス調査はもちろん、日本語教科書調査、語彙表調査、アンケート調査、言語使用調査、授業実験、統計分析など）を用いたケーススタディと、その解説を取録している。日本語教育文法を志す研究者や院生に向け、具体的な方法を提示した一冊である。 |

| | |
|--|---|
| | |
| 対人関係構築のためのコミュニケーション入門 <small>日本語教師のために</small> | |
| 徳井厚子・榎本智子著 | 本書は、コミュニケーション全体の中で「自己」「対人関係」コミュニケーションという根本的な2つの局面に焦点をあててコミュニケーションを考える際に基本的なことをすべて解説。コミュニケーションに関わる職業、たとえば日本語教師の方に有益、一般常識ともいえるものであり、実生活にも役に立つ内容となっている。理論を概説するだけでなく、ワークショップ向きの具体的な実践課題も付す。 |
| A5判・200頁・978-4-89476-281-7 定価1890円(本体1800円) 発行2006.4 | |

| | |
|---|---|
| | |
| 目指せ、日本語教師力アップ! <small>OPIでいきいき授業</small> | |
| 嶋田和子著 | 日本語教師に必要な「教師力」ってなんだろう？ 長年日本語教育、教師養成に携わってきた著者が、さまざまな経験、そしてOPIとの出会いを通してたどり着いた理論とノウハウを惜しみなく公開します。日本語教師という職業の無限の可能性を感じられる1冊。イーストウエスト日本語学校が独自に開発したCan-do方式による「会話レベル表(各国語版)」付き。 |
| A5判・288頁・978-4-89476-389-0 定価2520円(本体2400円) 発行2008.10 | |

| | |
|--|---|
| | |
| ロールプレイ玉手箱 | 新刊 |
| 嶋田和子・西部由佳・酒井祥子著 | 学習者はどんな場面で、どんな状況で日本語を使ってコミュニケーションをしているのだろうか？本書は「接触場面を学習者とともに洗い出し、ロールプレイを作ること」から始まりました。タスクを★の数でレベル別に分け、スパイラルにあげていくコツを提示。授業展開例や実践した現場教師の声も豊富に取り入れています。『目指せ、日本語教師力アップ!ーOPIでいきいき授業』(ひつじ書房)を実践するための必読書。 ★音声CD付 |
| B5判・208頁・978-4-89476-497-2 定価2760円(本体2600円) 発行2010.10 新刊 | |

| | |
|--|--|
| | |
| マルチリンガル教育への招待 <small>言語資源としての外国人・日本人年少者</small> | 新刊 |
| 中島和子編著 | 将来のマルチリンガルな日本の可能性を踏まえて、年少者の言語教育、特にマイノリティー言語を母語とする外国人児童生徒の日本語教育、母語・継承語教育がどうあるべきか、カナダ、アメリカ、日本の実践例を踏まえて、カミンズ提唱の2言語共有説に関する実証的研究(中島・生田・桶谷2006)を中心に、現場教師、大学(院)生、ボランティアのために具体的に書き下ろしたもの。生活言語・学習言語の評価に関する情報も含む。共同執筆者：生田裕子、桶谷仁美 |
| A5判・428頁・978-4-89476-446-0 定価3360円(本体3200円) 発行2010.12 新刊 | |

| | |
|---|---|
| | |
| オーストラリアの日本語教育と日本の対オーストラリア日本語普及 <small>その「政策」の戦間期における動向</small> | |
| 嶋津拓著 | 戦前オーストラリアでは日本語教育ブームがあった。今まで語られなかったオーストラリアでの日本語教育の歴史を明らかにする。重要でありながら、従来はあまり取り扱われなかった地域ごとの日本語教育研究の先駆けとも呼ぶべき新しい研究。 |
| A5判・364頁・978-4-89476-221-3 定価3780円(本体3600円) 発行2004.7 | |

| | |
|--|--|
| | |
| 言語政策として「日本語の普及」はどうあったか <small>国際文化交流の周縁</small> | |
| 嶋津拓著 | 近年、日本語教育の政策に関する研究が進められるようになった。たとえば日本国内での日本語教育に関する日本政府やその関連機関・地方自治体の政策、あるいは海外諸国で行われる日本語教育に関する当該国政府・教育行政機関の政策などである。しかし、日本の海外に対する「日本語普及」については、戦前戦中期のそれについては研究が蓄積されているものの、戦後期における「日本語の普及」については、まとまった研究が蓄積されていない。本書は重要でありながら研究があまり蓄積されてこなかった、この分野の政策研究で初の基礎的な参考書となるものである。 |
| 四六判・332頁・978-4-89476-486-6 定価2520円(本体2400円) 発行2010.4 | |

| | |
|--|---|
| | |
| ことばと文化をめぐって <small>外から見た日本語発見記</small> | |
| 中田清一・秋元美晴編 | 日本語を母語としない人が、外から日本語を見たとき、文化がことばにどのように反映されているのか、特に日本の文化が色濃く現れると考えられることわざや慣用表現、授受表現などについて、外国人の目からみた考察を紹介する。また逆に、日本語を母語とする人が外国語を見た場合、どのように見えるのか、日本語と英語の慣用表現やフレーズなどの比較対照を行いながら、ことばと文化の関係性や日本語の特性について明らかにする。なお本書は、2004年11月に恵泉女学園大学で行われたシンポジウム「日本のことばとこころー外からの視座」に基づいている。 |
| A5判・160頁・978-4-89476-289-3 定価1890円(本体1800円) 発行2006.3 | |

| | |
|---|--|
| | |
| ピア・ラーニング入門 <small>創造的な学びのデザインのために</small> | |
| 池田玲子・館岡洋子著 | ピアとは仲間、同僚 (peer) という意味の言葉。ピア・ラーニングとは、近年、いろいろなところで耳にするようになってい「協働」の理念に基づく学習である。本書では、まず、理論編として、地域や学校などさまざまな分野で 具現化された協働の形を紹介したうえで、日本語教育における協働のありかたをさぐる。実践編として、ピア・レスポンスおよびピア・リーディングの具体的な学習活動の例について紹介、解説し、その意義について検討する。 |
| A5判・168頁・2刷・978-4-89476-288-6 定価2520円(本体2400円) 発行2007.5 | |

| | |
|---|---|
| | |
| 多民族社会の言語政治学 <small>英語をモノにしたシンガポール人のゆらぐアイデンティティ</small> | |
| 奥村みさ・郭俊海・江田優子ペギー著 | 最近、日本では早期英語教育が叫ばれる一方で、シンガポールが英語中心のバイリンガル教育先進国であることはほとんど知られていない。英語教育はシンガポールを、独立わずか40年で日本に次ぐアジア第2位のGDPを誇る地位へと押し上げた。しかし、この華やかな経済的成功の影でバイリンガル政策による文化的アイデンティティの葛藤も顕在化してきた。本書は、シンガポールを事例として、多民族社会の中での言語と文化的アイデンティティの問題を追求する。言語とアイデンティティの問題を考える際の基的なテキスト。また将来の日本における英語教育と文化的アイデンティティの行方を探る際にも参考書として格好な1冊である。 |
| A5判・180頁・978-4-89476-284-8 定価2310円(本体2200円) 発行2006.11 | |

| | |
|--|---|
| | |
| 文化間移動をする子どもたちの学び <small>教育コミュニティの創造に向けて</small> | |
| 齋藤ひろみ・佐藤郡衛編 | いわゆるニューカマーと呼ばれる子どもたちへの教育は、当初の学校適応・日本語指導を経て、新たな取り組みが始まっている。学校現場における教科学習を保障するための授業実践や母語・母文化教育、地域における親子の日本語教室、教育行政と学校による高校入試制度の見直しなどである。これらの実践や支援活動の経過と成果を分析し、文化間を移動する子どもたちの教育の課題を再設定するとともに、その解決に向けて教育実践の方向性と枠組みを探る。 |
| A5判・304頁・978-4-89476-343-2 定価2940円(本体2800円) 発行2009.3 | |

| | |
|--|---|
| | |
| 新訂版 聞いておぼえる関西(大阪)弁入門 | |
| 真田信治監修 岡本牧子・氏原庸子著 | 関西(大阪)弁を聞いて理解するための聴解教材。初中級程度の日本語文法をマスターした日本語学習者を対象にしているが、関西(大阪)弁に興味のある日本人にも役に立つ。20のUNITで構成され、各UNITは4コマ漫画、聴解問題、文法ノートからなる。文法ノートでは共通語との違いについて、形、使い方などの面から詳しく解説。また、コラムで関西弁の特徴などにも触れている。1998年にアルクより出版され、好評を博したものの新訂版で、旧版で別売だった音声カセットテープをCDにして付している。 ★音声CD付 |
| B5判・168頁・2刷・978-4-89476-296-1 定価2940円(本体2800円) 発行2006.12 | |

| | |
|---|--|
| | |
| 池上嘉彦・守屋三千代編著 | |
| A5判・236頁・978-4-89476-431-6 定価2625円(本体2500円) 発行2009.12 | |
| 自然な日本語を教えるために <small>認知言語学をふまえて</small> | |
| 本書は〈自然な日本語〉〈日本語らしい日本語〉とは何かという問題に取り組む姿勢で、認知言語学を踏まえ、外国語と対照しながら、どのような場合にそれが創出されるか、その点に関する学習者の理解を深めるにはどう説明すればよいかを、具体例とともに考えるものである。目次：〈認知言語学〉から〈日本語らしい日本語〉へ向けて(池上嘉彦)、認知言語学の日本語教育への応用と有効性(守屋三千代)、日本語教育の場に現れた認知言語学の世界(守屋三千代)、日本語話者は〈見え〉のままに話す(近藤安月子・姫野伴子・新村朋美・守屋三千代)、日本語話者は共同で話す(近藤安月子・姫野伴子・新村朋美・守屋三千代)、英語・中国語・韓国語から考える(守屋三千代・本多啓・徐一平・生越直樹)、日本語教育・日本語教科書を考える(近藤安月子・姫野伴子) | |

| | |
|--|--|
| | |
| 日本語教育スタンダード試案 語彙 | |
| 山内博之編 金庭久美子・田尻由美子・橋本直幸・山内博之著 | 語彙という分野に限定して日本語教育スタンダードの作成を試みたものである。『『日本語教育版分類語彙表』作成の試み』と『日本語教育的『単語』解析の試み』の2章から成る。前者では、日本語能力試験出題基準の語彙表に掲載されている約8000の語を、「食」「家族」「政治」「法律」「医療」などといった約100種類の話題に分類し、話題からの語の検索を可能にした。また、後者では、主に機能語の単位認定に関する提案を行なった。 |
| A5判・120頁・978-4-89476-414-9 定価1050円(本体1000円) 発行2008.5 | |

| | |
|--|---|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第7巻 | 読むことを教える |
| 阿部洋子・木谷直之・築島史恵 著 | 私たちは、ふだん文章を理解するのに、言語知識だけでなく一般的知識を使ったり、読む目的によって読み方を変えたりと、さまざまな工夫をしながら読んでいる。この教材では、まず、こうした読みの過程を理論的に概観する。そして、この過程をふまえた指導法を具体例で紹介し、初級から中級レベルまで、いずれの段階の学習者でも読む目的に応じて多様な読み方ができるようになる活動や、それを取り入れた授業の進め方について考えていく。 |
| B5判・88頁・3刷・978-4-89476-307-4 定価735円(本体700円) 発行2006.6 | |

| | |
|--|---|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第8巻 | 書くことを教える |
| 金孝卿・松浦とも子・築島史恵 著 | 授業の中に「書く」活動を取り入れることは時間的な制約から難しい場合が多い。しかし、従来行われてきた文型練習の一環としての作業や、与えられたテーマについて書く作文だけでなく、学習者がより積極的に「書く」活動を検討し、「書くこと」を見直してほしい。「書く」学習に忘れられがちなコミュニケーションの一環としての言語活動を取り入れ、意味のある文や文章を書く機会を増やす必要性とその具体的な活動例を扱う。 |
| B5判・136頁・978-4-89476-308-1 定価945円(本体900円) 発行2010.9 | |

| | |
|--|--|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第9巻 | 初級を教える |
| 阿部洋子・中村雅子 著 | 初級クラスがいつも同じ教え方になっていないだろうか。自分なりに工夫しているつもりでも、文法の説明ばかり、あるいは楽しい活動を増やすことばかり考えてはいないだろうか。この教材では、初級の学習者に身につけさせたい能力とは何かを考え、その能力を育てる授業実践のために、目標の設定、学習項目の分析、授業の組み立てなど、ポイントを1つ1つ丁寧に見直していき、各自の教育現場への応用を具体的に考える。 |
| B5判・88頁・2刷・978-4-89476-309-8 定価735円(本体700円) 発行2007.3 | |

| | | |
|---|---|---|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第10巻 | 中・上級を教える |  |
| 藤長かおる・久保田美子・木谷直之 著 | 中級レベル、上級レベルとはどのようなレベルなのか。この教材では、多様化する学習者のニーズを考慮して中級・上級レベルではどのような能力を育成すれば良いのかを考える。その上で、複数の技能を組み合わせて現実的な運用に結びつける方法を検討する。さらに国内外のさまざまな教授環境のもとで、どのようなリソース(人・もの・場所)が実際に活用できるのかという点を重視し、具体的な教室活動の作り方や授業全体の流れを実際例とともに考える。 | |
| B5判・202頁・978-4-89476-310-4 定価1365円(本体1300円) 発行2011.3 新刊 | | |

| | | |
|--|--|--|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第11巻 | 日本事情・日本文化を教える | |
| 坪山由美子・築島史恵 著 | 日本語教育において、日本事情や日本文化を扱うことは必要だと思っけていても、時間が無い、機会が無い、情報がないという現場も多いだろう。しかし、「何を教えるか」より「どう教えるか」「どう取り上げるか」を大切にすることで、時間や環境が充分整わなくても、日本事情や日本文化を取り上げることができる。この教材では、そのために、言語と文化を結びつける効果的なリソースを検討し、学習者と共に発見し考えながら、楽しんで教えることができる方法を提案する。 | |
| B5判・108頁・978-4-89476-311-1 定価945円(本体900円) 発行2010.4 | | |

| | | |
|---|--|---|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第12巻 | 学習を評価する |  |
| 横山紀子・押尾和美・大隅敦子 著 | 評価は、教師と学習者が学習成果を共有し、今後の方向性を考える上で重要な役割を持つ。また、学習の動機にも大きな影響を及ぼす。この教材では、到達度評価に焦点を絞り、知識だけでなく、技能や運用を評価する方法について具体的に考える。また、学習の「結果」に加えて学習の「過程」を評価する方法についても紹介する。 | |
| B5判・978-4-89476-312-8 定価1155円(本体1100円) 近刊 | | |

| | | |
|--|--|--|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第13巻 | 教え方を改善する | |
| 阿部洋子・八田直美・古川嘉子 著 | 教師なら誰もが「学習者の日本語力が思うように伸びない」「もっと上手に教えられるようになりたい」などの問題に出会うだろう。この教材では、教師が自分自身の授業の進め方や指導技術を見直し、工夫することが、解決の第一歩だと考える。教案の分析や授業観察など具体的な解決方法の実例を学びながら、ふだん気づかない自分の教え方の特徴を確認し、そこから改善したい点とその改善方法を考え出し、実行に移す能力を身につけることを目標とする。 | |
| B5判・106頁・978-4-89476-313-5 定価945円(本体900円) 発行2010.9 | | |

| | | |
|--|--|--|
| ▶国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第14巻 | 教材開発 | |
| 島田徳子・柴原智代 著 | ある架空の教材開発プロジェクトメンバーの一員として、作成過程で直面する問題を解決しながら、教材開発を進める上で必要な基礎知識と方法論を学ぶ。教材開発過程を、「分析」「設計」「開発」「評価」「改訂」といった段階に分け、それぞれの段階で必要な知識と方法論を紹介する。教材を作りたいと思っている人の情熱とアイデアを形にするための1冊! | |
| B5判・120頁・978-4-89476-314-2 定価840円(本体800円) 発行2008.5 | | |

ひつじ意味論講座

言語研究の中心的課題へ

| | |
|--|---|
| ▶ひつじ意味論講座1 | ひつじ意味論講座 第1巻 語・文と文法カテゴリーの意味  |
| 澤田治美 編 | 1. 語の意味をめぐって(国広哲弥) 2. 多義性とカテゴリー構造(松本曜) 3. 文の意味と真偽性(阿部泰明) 4. 否定の諸相(今仁生美) 5. 日本語のテンスとアスペクトの意味の体系性(須田義治) 6. ヴォイスの意味(鷲尾龍一) 7. 意味役割(菅井三実) 8. 動詞の意味と統語構造(影山太郎) 9. 形容詞の意味(久島茂) 10. 名詞句の意味(西山佑司) 11. 代名詞の意味(神崎高明) 12. 不定冠詞の役割(樋口昌幸) |
| A5判・268頁・978-4-89476-501-6 定価3360円(本体3200円) 発行2010.12 新刊 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ意味論講座2 | ひつじ意味論講座 第2巻 構文と意味  |
| 澤田治美 編 | 1. 認知のダイナミズムと構文現象(山梨正明) 2. 構文の意味とは何か(大堀壽夫・遠藤智子) 3. 二重目的語構文と格交替(加賀信広) 4. 使役構文をめぐって(高見健一) 5. 結果構文の意味論(小野尚之) 6. 条件構文をめぐって(藤井聖子) 7. 尺度性と比較構文をめぐって(澤田治) 8. 場所句倒置構文をめぐって(奥野忠徳) 9. 壁塗り交替(岸本秀樹) 10. 中間構文の意味論の本質(吉村公宏) 11. 数量詞遊離構文とアスペクト制約(三原健一) |
| A5判・978-4-89476-502-3 定価3360円(本体3200円) 未刊 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ意味論講座3 | ひつじ意味論講座 第3巻 モダリティⅠ:理論と方法  |
| 澤田治美 編 | 1. モダリティの定義をめぐって(ハイコ・ナロック) 2. 論理学におけるモダリティ(飯田隆) 3. モダリティの類型論(堀江薫) 4. メンタル・スペース理論とモダリティ(坂原茂) 5. 日本語モダリティの分類(仁田義雄) 6. 英語モダリティの分類(澤田治美) 7. 文の意味的階層構造と叙述の類型(益岡隆志) 8. 現代日本語のモダリティをめぐって(田野村忠温) 9. 日本語モダリティの史的変遷(近藤泰弘) 10. 古代語のモダリティ(高山善行) 11. ムードの意味(安藤真雄) 12. スペイン語におけるムードとモダリティ(和佐敦子) |
| A5判・978-4-89476-503-0 定価3360円(本体3200円) 未刊 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ意味論講座4 | ひつじ意味論講座 第4巻 モダリティⅡ:事例研究  |
| 澤田治美 編 | 1. 英語法動詞のモダリティ(柏本吉章) 2. 否定・疑問とモダリティ(安達太郎) 3. 未来性とモダリティ(吉良文孝) 4. 英語モダリティと動機づけ(長友俊一郎) 5. 副詞とモダリティ(杉村泰) 6. 終助詞とモダリティ(半藤英明) 7. 「のだ」の意味とモダリティ(野田春美) 8. 「だろう」とモダリティ(宮崎和人) 9. 日英語の認識的・証拠的モダリティと因果性(澤田治美) 10. 認識的モダリティとの意味的関連性からみた日英語の束縛的モダリティ(黒滝真理子) 11. モダリティの比較対照研究(井上優) 12. 日本語教育から「日本語のモダリティ」を考える(守屋三千代) |
| A5判・978-4-89476-504-7 定価3360円(本体3200円) 未刊 | |

| | |
|---|---|
| ▶ひつじ意味論講座5 | ひつじ意味論講座 第5巻 主観性と主体性  |
| 澤田治美 編 | 1. Subject—主語・主観をめぐる哲学的断片(大庭健) 2. 主観性と仮想性(澤田治美) 3. 日本語と主観性・主体性(池上嘉彦) 4. 主観性における言語の対照と類型(上原聡) 5. 文法化と主観化(秋元実治) 6. 日本語における文法化と主観化(青木博史) 7. 共同注意と間主観性(本多啓) 8. 英語形容詞の主観性(八木克正) 9. 日本語のダイクシス表現と視点、主観性(澤田淳) 10. 日英語思考動詞の主観性—「思う」と複合動詞「思い+V」形式について(小野正樹) 11. 日英語の主観性を表す副詞について(森本順子) 12. 敬語と言語主体—敬意・主観性・モダリティ(滝浦真人) |
| A5判・978-4-89476-505-4 定価3360円(本体3200円) 近刊 | |

▶ひつじ意味論講座 6

澤田治美編

A5判・978-4-89476-506-1
定価3360円(本体3200円)
未刊

ひつじ意味論講座 第6巻 意味とコンテクスト

🌑 未刊

1. 直示とコンテクスト(渡辺伸治) 2. 言語行為と発話のコンテクスト(久保進) 3. コンテクストと前提(加藤重広) 4. 意味と含み(清塚邦彦) 5. 関連性理論とコンテクスト(東森勲) 6. 論理的意味論におけるコンテクスト(野本和幸) 7. モダリティとコンテクスト(澤田治美) 8. メタファー理解研究の基礎(中本敬子) 9. とりたてとコンテクスト(野田尚史) 10. 指示表現と結束性(庵功雄) 11. 感動詞とコンテクスト(富樫純一) 12. しぐさと会話のコンテクスト(伝康晴)

▶ひつじ意味論講座 7

澤田治美編

A5判・978-4-89476-507-8
定価3360円(本体3200円)
未刊

ひつじ意味論講座 第7巻 意味の社会性

🌑 未刊

1. 社会システムと意味(山口節郎) 2. 記号論と社会学(巨明志) 3. 意味分析の拡大に向けて(児玉徳美) 4. 呼称・人称と社会(堀井令以知) 5. 言語とジェンダー(クレア・マリイ) 6. 翻訳の社会的意味(影浦峽) 7. 精神分析と言語(北山修) 8. 医療コミュニケーションをめぐって(吉岡泰夫) 9. 司法の場における言語使用(堀田秀吾) 10. 異文化コミュニケーションにおける言語摩擦(リアン テルミ ハタノ) 11. 家庭内コミュニケーション(高本條治) 12. 「断り」の意味論と国語教育(森山卓郎)

仁田義雄日本語文法著作選

▶仁田義雄日本語文法著作選 第1巻

仁田義雄著

A5判・324頁・978-4-89476-450-7
定価5460円(本体5200円)
発行2009.3

日本語の文法カテゴリをめぐって

仁田義雄日本語文法著作選全4巻の中で、最初の刊行。1980年代から日本語文法研究をリードしてきた仁田義雄のこれまでの文法研究を集めた軌跡ともいえる著作集。格、ヴォイス、アスペクトなど日本語研究にとって重要な文法カテゴリについて論じる。第1部 文法カテゴリ、第1章日本語の文法カテゴリ、第2部 格、第2章 日本語の格の表現形式、第3章 日本語の格を求めて、第4章 ヲ格の対象性、第5章 格のゆらぎ、第3部 ヴォイス、第3部1 相互構文、第6章 相互構文を作る「Vシアウ」をめぐって、第3部2 受身、第7章 持ち主の受身をめぐって、第8章 内容の受身、第9章 自発的受身、第10章 ヴォイス的表現と自己制御性、第4部 アスペクト、第11章 アスペクト形式とその解釈のために、第12章 日本語のアクションスアルト

▶仁田義雄日本語文法著作選 第2巻

仁田義雄著

A5判・312頁・978-4-89476-451-4
定価5040円(本体4800円)
発行2009.10

日本語のモダリティとその周辺

第1部 モダリティとは、第1章 モダリティを求めて、第2章 日本語におけるモダリティのタイプをめぐって、第2部 複合形式や動詞の表すモダリティの意味、第3章 若干の複合用言についての二三の考察、第4章 可能性・蓋然性を表す擬似ムード、第5章 動詞と命令のタイプ、第3部 事態めあてのモダリティを中心に、第6章 事態めあてのモダリティの体系化への覚え書、第7章 認識のモダリティとその周辺、第8章 判断から発話・伝達へー伝聞・婉曲の表現を中心に、第4部 複文・テキストとモダリティ、第9章 条件表現の叙述世界とモダリティ、第10章 語り物の中のモダリティ、第5部 文および文類型を中心に、第11章 日本語文の表現類型ー主格の人称制限と文末構造のあり方の観点において、第12章 問いかけと疑いの表明、第13章 言語活動の単位としての文、第14章 未展開文をめぐって

▶仁田義雄日本語文法著作選 第3巻

仁田義雄著

A5判・354頁・978-4-89476-452-1
定価5040円(本体4800円)
発行2010.5

語彙論的統語論の観点から

第1部 文法と語彙・意味との相関を考える、第1章 語彙と文法、第2章 語彙的(な)意味と文法的(な)意味、第2部 語彙論的統語論の姿勢から、第3章 係助詞・副助詞と格表示ー〈い〉を中心にして、第4章 動詞の格支配、第5章 対称動詞と半対称動詞と非対称動詞ー格成分形成規則のために、第6章 多義性を有する用言についての二三の考察ーLexico-Syntaxの姿勢において、第7章 類義語「取り返す」と「取り戻す」の文法ーLexico-Syntaxの観点から、第3部 動詞の語彙論的統語論、第8章 再帰動詞・再帰用法ーLexico-Syntaxの姿勢から、第9章 動詞とアスペクトー語彙論的統語論の観点から、第10章 動詞の文法的側面の相互交渉、第4部 動詞と格支配と格体制、第11章 動詞の格支配と名詞の意味特性ー「水を沸かす」と「湯を沸かす」と「風呂を沸かす」を中心に、第12章 格体制からした動詞のタイプ

▶仁田義雄日本語文法著作選 第4巻

仁田義雄著

A5判・392頁・978-4-89476-453-8
定価5040円(本体4800円)
発行2010.10 新刊

日本語文法の記述的研究を求めて

🌑 新刊

第1部 文法と文法分析・文法記述をめぐって、第1章 文法をめぐって、第2章 構造と体系による文法記述の試みのためにー文の構造分析と〈動作主〉格の表現形式を中心に、第3章 日本語構文論のためにーその対象と方法、第4章 文法研究での用例利用について考える、第5章 形容詞の装定用法ー「多イ」をめぐって、第2部 文の意味・統語構造について、第6章 文の意味的構造についての覚え書、第7章 文の構造、第8章 日本語文の意味ー統語構造への一つのモデル、第3部 単語と主語について考える、第9章 単語と単語の類別、第10章 日本語の主語をめぐって、第4部 複文考察への鉄入れ、第11章 条件節とその周辺、第12章 シテ形接続をめぐって、第13章 シテ節の「ハ」による取り立て、第5部 文を越える領域へ、第14章 「文の文法」から「文を越える文法」へー「後日大阪へ行ッた」の有する連文機能をめぐって、第15章 文のつながりと文章解析、第6部 学説史をも考慮に入れながら、第16章 日本語文法における形容詞、第17章 係り結びについて

多分野を横断する言語研究

社会言語科学会の5周年を記念して企画され、スタートした講座。社会言語科学という分野は、学際的であり、横断的な性質を持っている。様々な学問において言語は重要なテーマとなっているにもかかわらず、これまで共有するフィールドがなかった、あるいは研究の交流がほとんどなかったと言ってよいだろう。研究の世界では、社会言語科学会を先導役として相互的に研究が行われはじめている。日本語学、日本語教育、英語学、英語教育、心理学、教育学、文化人類学、社会学、エスノメソドロジー、情報処理、インターフェース研究、認知科学、談話分析、方言研究などなどの広い分野にわたる研究の成果を学際的、網羅的、先端的な研究を紹介、共有化するために作られた講座。学部生の卒業論文の指導などにも有益。

▶講座社会言語科学 1

井出祥子・平賀正子編

A5判・292頁・2刷・978-4-89476-245-9
定価3360円(本体3200円)
発行2005.10

講座社会言語科学 第1巻 異文化とコミュニケーション

グローバル化が進む現代において、多文化社会を維持しつつ共生へと導くにはどうすればいいのか？ 本巻では、新しい異文化コミュニケーション学の構築を提言し、共生の道を探る。異文化コミュニケーションに関する多様なトピックを言語研究に基づいて実証的に研究した14論文を収録。執筆者：異文化コミュニケーション学 井出祥子／通訳における異文化コミュニケーション学 鳥飼玖美子／ビジネスにおける異文化間コミュニケーション 近藤彰／日英語バイリンガルの子供たちの言語習得 岩田祐子／ジェンダーシステム 林礼子／ロボットとヒトは理解しあえるか 小嶋秀樹／空間認知とコミュニケーション 井上京子／ジェスチャーにおける認知と文化 喜多壮太郎 ジェームス エセグベイ／*骨をこわす vs. break the bone 藤井洋子／親族名称と呼称から見る人間関係 薛鳴／スモールトークとあいさつ 井出里咲子／何を「心地よい」と感じるか 重光由加／何をうそと感じるか 西村史子／ニューヨーク・タイムズ紙に見る日本 ジェーン H. ヒル

▶講座社会言語科学 2

橋元良明編

A5判・280頁・978-4-89476-246-6
定価3360円(本体3200円)
発行2005.5

講座社会言語科学 第2巻 メディア

本巻では、「社会言語科学」を広い意味での「コミュニケーション」として捉え、狭義の言語、あるいは文体等の問題だけでなく、ノンバーバル・コミュニケーションや対人関係まで含めた広義のコミュニケーションについての論考を集めた。言語は関係を紡ぐ媒体、「貨幣」であり、「社会言語科学」は、結局のところ、人間関係の構造を明らかにする学問に他ならないからである。執筆者：インターネットと英語帝国主義 西垣通／漢字コード問題 笹原宏之／情報化と若者の言語行動 井上史雄／メール文体とそれを支えるもの 佐竹秀雄／携帯メールのコミュニケーション内容と若者の孤独恐怖 中村功／エモティコンの世界 中丸茂／メディアと表現様式の変化 原田悦子／携帯電話と若者の対人関係 三宅和子／インターネット・パラドックスの真偽 橋元良明／つながるイメージ-共同体 遠藤薫／個人的フィーリングを表現する非言語コミュニケーションのインタラクティブな可視化 土佐尚子／携帯の将来 野島久雄／情報ネットワークと日本社会 木村忠正

▶講座社会言語科学 3

大坊郁夫・永瀬治郎編

A5判・192頁・978-4-89476-247-3
定価3360円(本体3200円)
発行2009.2

講座社会言語科学 第3巻 関係とコミュニケーション

言語・非言語を含むコミュニケーションについて、社会的な場を不可欠な前提として展開する研究。社会言語学・心理学・社会心理学の研究手法に基づく8つの論文を収録。執筆者：対人コミュニケーション研究への科学的アプローチ 大坊郁夫・磯友輝子／ポライトネス 岡本真一郎／説得、真実と欺瞞 瀧本誓／相互コミュニケーションにおける同調傾向 中村敏枝・長岡千賀／発言権の構造 高梨克也・森本郁代／ダイナミックな対人関係 小川一美・吉田俊和／集団とコミュニケーション 永瀬治郎／文化を映すメッセージ 長谷川典子

▶講座社会言語科学 4

西原鈴子・西郡仁朗編

A5判・280頁・978-4-89476-248-0
定価3360円(本体3200円)
発行2008.9

講座社会言語科学 第4巻 教育・学習

執筆者：応用言語学—ことばを学習する側の視点から 西原鈴子／これからの英語教育—コミュニケーション能力の視点から 阿知波真知子／これからの国語教育 吉岡泰夫・朝日祥之／これからの日本語教育 石井恵理子／第二言語習得論の現在 畑佐由紀子／カテゴリー的知覚の「壁」と日本語教育メディア 西郡仁朗／眼の働きと読解 鈴木美加／相互作用と学習—ディスコース・ポライトネス理論の観点から 宇佐美まゆみ／教師の資質・成長過程と、その支援方法 横溝紳一郎／言語能力の評価 根岸雅史／言語政策と言語計画と国語政策 柳澤好昭／バイリンガル教育と社会 ダニエル・ロング

▶講座社会言語科学 5

片桐恭弘・片岡邦好編

A5判・272頁・978-4-89476-249-7
定価3360円(本体3200円)
発行2005.3

講座社会言語科学 第5巻 社会・行動システム

本巻では、「社会」と「行動」を「(こころ-)行動-(ことば-)社会」という双方向の連鎖のなかで、「こころ」と「ことば」に対して表裏一体の関係をなす対象と捉える。本書は「社会」と「行動」に関するさまざまな切り口が異なる問題意識を喚起するため、読者の興味・関心に応じて、どこから読み始めても良い。その結果、異なるセクションの中に、共通する問題意識をはらむ章があることに気づかれるだろう。執筆者：言語イデオロギーとディスコース研究 松木啓子／言語におけるジェンダー・イデオロギー 阿部圭子／社会と指標の言語 小山亘／ことばとパワー 佐藤彰／パワーと言語変異 高野照司／供述の背後にある体験への接近 森直久／言語病理学における談話分析の応用と将来 渡辺義和／患者中心の医療への転換 佐伯晴子・野呂幾久子／ことばの進化 正高信男／生物言語学が証すLANGUAGE 増田博邦／語句の配置と行為の連鎖 西阪仰／コミュニケーション行動における規範と共有 片桐恭弘／活動空間の言語的描写と探索について 片岡邦好／発話と身振りの協調に見られる談話における時空的隣接/連続性 古山宣洋

▶講座社会言語科学 6

伝康晴・田中ゆかり編

A5判・244頁・978-4-89476-250-3
定価3360円(本体3200円)
発行2006.8

講座社会言語科学 第6巻 方法

執筆者：インタビューによる言語調査法 日高水穂／対話プロセスとしてのインタビュー 山田富秋／方言研究法—構造から変異へ 小林隆／「新規登場事象」をとらえたい—探索的調査法による多人数調査 田中ゆかり／仮説検証的研究—言語的集団間バイアスを実際例として 岡隆／会話を対象とする仮説検証型実験の手法 榎本美香／自然な場面を設定してことばを収集する方法 白勢彩子／フィールドにおける会話データの収録と分析 木村大治／幼児の発話資料の収録方法とその意義 白井純子／会話データの構築法—収録と書き起こし 小磯花絵／会話分析の方法と論理—談話データの「質的」分析における妥当性と信頼性 串田秀也／談話データの定量的分析—タグの設計と集計 伝康晴

シリーズ文と発話

ソシユールの言語学を超えて文を問い直す

| |
|--|
| <p>▶シリーズ 文と発話 第1巻</p> <p>串田秀也・定延利之・伝康晴編</p> |
| <p>A5判・320頁・978-4-89476-255-8 定価3360円（本体3200円） 発行2005.10</p> |

| |
|---|
| <p>▶シリーズ 文と発話 第2巻</p> <p>串田秀也・定延利之・伝康晴編</p> |
| <p>A5判・290頁・978-4-89476-256-5 定価3360円（本体3200円） 発行2008.9</p> |

| |
|--|
| <p>▶シリーズ 文と発話 第3巻</p> <p>串田秀也・定延利之・伝康晴編</p> |
| <p>A5判・288頁・978-4-89476-257-2 定価3360（本体3200円） 発行2007.5</p> |

従来の言語学を核とする言語研究の中では単語や文というのが、疑問の余地のない前提となっていた。ソシユールを始めとする近代的な言語学、チョムスキーなどの生成文法でも、文というものは前提となっていたといってよい。それに対し、実際の発話の現場の中では、簡単に前提化するのは困難であるということが言える。抽象度のレベルの違いということだけではなく、視点が異なっているというべきであろう。実際の発話は、文が完結しないことも少なくないし、話し始めてから言い終わるまでの間に、方向が変わってしまうということもしばしばだ。そんな現象に正面から取り組み、根本から文と発話を捉えかえそうというのが本シリーズ。これまでの文というものの捉え方を根本から考えることで、言語研究自体をも革新したいというのが密かな野望。言語を捉え返すことにより、社会学、認知科学、情報処理、哲学、文学研究などにも新鮮な衝撃を与えるものとなる。新しい研究方法に取り組んでいる優れた研究者を結集し、本シリーズは刊行。21世紀の言語研究の基礎となるシリーズ。

| |
|--|
| <p>活動としての文と発話</p> <p>文は話し手の意図を伝達する道具であり、文の構造は伝達に適した形に組み立てられるという考えは根強い。しかし、文法的な適格文は伝達にとってしばば冗長であるし、実際の発話には伝達とは別の理由で存在すると思われる言語要素が含まれている。文や発話がさまざまな社会的活動の有用な道具であることは疑い得ないが、それらの活動を伝達概念によって集約することは実際の言語使用を見誤らせる可能性がある。文や発話が伝達のための道具であるという前提を疑ったときにどんな現象が視野に入るか、また逆に伝達という活動にとって文や発話の構造がいかなる働きをするのか、これらのことを考えた論文を取録する。執筆者：林誠「文」内におけるインターアクションー日本語助詞の相互行為上の役割をめぐって／串田秀也 参加の道具としての文ーオーヴァーラップ発話の再生と継続／西阪仰 複数の発話順番にまたがる文の構築ープラクティスとしての文法II／北野浩章 自然談話に見られる逸脱的な文の構築ー試行的提示のための形式「…と言うか」「…ですか」など／細馬宏通 修復をとらえなおすー参照枠の修復における発話とジェスチャーの個体内・個体間相互作用／ポリー・ザトラウスキー 情報処理、相互作用、談話構造からみた倒置と非言語行動との関係／定延利之・中川明子 非流ちょう性への言語学的アプローチー発音の延伸、とぎれを中心に／富樫純一 驚きを伝えるということー感動詞「あっ」と「わっ」の分析を通して／林博司・水口志乃扶・小川曉夫 項の「文的」解釈と「発話的」解釈ー呼びかけ詞の対照言語学的考察</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>「単位」としての文と発話</p> <p>従来の文研究においては、文は完結性を持った単位として扱われる。文の内部の構造は、文が位置づけられた談話文脈や会話文脈に言及しなくても解明できると考えられている。しかし、一部の文の内部構造はこのような前提のもとでは解明できない。また、話しことばや会話において自然に作り出され聞き取られている単位は、従来の文概念を基準にした場合「文末満」であるものから「文以上」であるものまで多様な広がりを持っている。これらの現象を理解しようとするとき、従来の文概念はどこまで有効なのか、文に代わるどのような単位を設定することができるのか、これらのことを考えた論文を取録する。執筆者：沖裕子 談話は文によって構成されるかー談話実現単位における同時結束の観点から／小磯花絵 対話における文（発話）とは何なのかー独話との比較を通じて／白川博之 言いさしについて／高木智世 幼児の発話構築とターン・テイキング／森本郁代会話における「文」の共同構築一文から発話、そして会話へ／森山卓郎 相手発話のエコー的取り込みー「か」「ね」「ねえ」を中心に／金田純平 述語直前は特別な位置であるー無助詞から見た項と述語の連続・断続について／岩崎志真子 会話における発話単位の構築と聞き手の関わり</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>時間の中の文と発話</p> <p>従来の文研究においては、文が時間の流れの中で産出されるという視点が弱い（文頭発話時と文末発話時の時間差がないかのように分析される）。実際には、書き言葉であれモノログであれ会話であれ、文は時間の経過の中で産出される。文頭発話時の「意図」や「計画」が文末発話時までに不変であるという保証はないし、会話においてはそのあいだに聞き手からのさまざまな反応が介在しうる。文や発話が、時間の流れの中で産出されることによって一音一音、一語一語開示されていく「進行性」を持つことを直視した場合、従来の文研究にはどのような限界があるか、従来の文研究で捉えきれないどんな現象が視野に入るか、これらのことを考えた論文を取録する。執筆者：野田尚史 時間の経過から生まれる破格文／丸山岳彦 デスネ考／高梨克也・丸山岳彦 自発的な話し言葉に見られる挿入構造と線状化問題／伝康晴 発話冒頭付近での語句の繰り返しの機能／岩崎勝一・大野剛「即時文」・「否即時文」一言語学の方法論と既成概念／高梨克也 進行中の文に対する聞き手の漸進的文予測のメカニズムの解明／榎本美香 発話末要素の認知と相互作用上の位置づけ／坊農真弓・片桐恭弘 対面会話における発話と視線のモニター機能と調整機能</p> |
|--|

言語学翻訳叢書

| |
|--|
| <p>▶言語学翻訳叢書 3</p> <p>ダイアン・ブレイクモア 著 武内道子・山崎英一 訳</p> |
| <p>A5判・310頁・978-4-938669-23-2 定価3159円（本体3009円） 発行1994.2　在庫僅少</p> |

| |
|--|
| <p>▶言語学翻訳叢書 5</p> <p>ダニエル・ヴァンダーヴェーケン 著 久保進 監訳</p> |
| <p>A5判・330頁・978-4-938669-85-0 定価5250円（本体5000円） 発行1997.11</p> |

| |
|--|
| <p>▶言語学翻訳叢書 8</p> <p>M.A.K. ハリディ　ルカイヤ・ハサン 著 安藤貞雄 他 訳</p> |
| <p>A5判・487頁・978-4-938669-90-4 定価6300円（本体6000円） 発行1997.11</p> |

| |
|--|
| <p>▶言語学翻訳叢書 9</p> <p>アンドレ・マルティネ 著 神山孝夫 訳</p> |
| <p>A5判・384頁・978-4-89476-195-7 定価3990円（本体3800円） 発行2003.4　在庫僅少</p> |

| |
|---|
| <p>▶言語学翻訳叢書 10</p> <p>ジェフ・ヴァーシューレン 著 東森勲 監訳 五十嵐海理・春木茂宏・大村吉弘・塩田英子・飯田由幸 訳</p> |
| <p>A5判・440頁・978-4-89476-491-0 定価3675円（本体3500円） 発行2010.6</p> |

| |
|--|
| <p>▶言語学翻訳叢書 11</p> <p>ヘレン・フィッツジェラルド 著 村田泰美 監訳 重光由加・大谷麻美・大塚容子 訳</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>A5判・362頁・978-4-89476-480-4 定価2940円（本体2800円） 発行2010.9</p> |
|---|

ひとは発話をどう理解するか 関連性理論入門

文化人類学者スベルベルと言語学者ウィルソンによって開発された、人間の認知上の一般原理に基づく伝達理論としての関連性理論の正確にして克明な入門書。発話解釈が言語知識を広げて、言語的意味だけではなく、話し手の伝達しようと意図した意味にたどり着くプロセスを体系的に説明。とりわけ、言語形式の意味がコンテキストといかに関相互作用するか、すなわち、発話解釈にいかなる制約を課すかということを追求している。さらに、アイロニーやメタファーなど文彩的発話も日常の会話を律している原理でいかに統一的に説明されるかを例証。原著：Diane Blakemore, *Understanding Utterances: An Introduction to Pragmatics*. 1992. Oxford: Blackwell

意味と発話行為

言語哲学者サールとも共同研究を行っているヴァンダーヴェーケンによる発話行為理論の決定版。今回の訳者とも共同の研究を行っており、翻訳に成果が生かされている。原書は、Foundations of Illocutionary Logic (『発話内論理の基礎』1985, Cambridge) を発展させた、可能な自然言語のための一般成功・真理条件形式意味論の書。原著：Daniel Vanderveken, *Meaning and Speech Acts*, Volume 1. 1990 Cambridge University Press.

テキストはどのように構成されるか 言語の結束性

ことばは次々とつながっていくことで文章や談話になっていく。文の研究から文章の研究へ向かいつつある今後の言語研究にとって必須な結束性 (cohesion) の基本的文献。原著：M.A.K. Halliday and Ruquia Hasan, *Cobesion in English*. 1976.

| |
|--|
| <p>「印欧人」のことば誌 比較言語学概説</p> <p>20世紀を代表する大言語学者マルティネによる印欧語比較言語学概説書。言語学と、歴史学・考古学・文化人類学・宗教学の成果を有機的に関連させ、最新の成果が著者独特のタッチで綴られる。後半では著者が長年温めた印欧祖語についての大胆な構想が展開される。原著：André Martinet. <i>Des steppes aux océans: L'indo-européen et les 'Indo-Européens</i>., 1986, Payot; 1994², Payot & Rivages.</p> |
|--|

認知と社会の語用論 統合的アプローチを求めて

本書は、Jef Verschueren1999 *Understanding Pragmatics* の全訳。氏はベルギー人、アントワープ大学教授、国際語用論学会事務局長で、ヨーロッパにおける語用論研究の中心人物。従来の語用論入門書とは異なり、本書は「語用論的視点が全ての言語現象（音から会話まで）に必ず関わっているもので、その新しい語用論的視点とはどういうものかを統合的に説明しようとしたもの」である。語用論の教科書としてだけでなく、哲学・心理学など関連領域読者にも役立つものである。

文化と会話スタイル

多文化社会・オーストラリアに見る異文化間コミュニケーション

オーストラリアは多文化主義を政策として採用しながらも英語を国の土台ととらえ、移民の英語教育を保証している。本書は移民たちが英語母語話者を交えて問題解決をはかるとき、母語の文化的価値観や談話構造、ターン・テイキング、主張の仕方といった会話のスタイルがどのように英語母語話者や他の文化出身者との意思疎通を阻んだり、誤解を与えたのかを実際の会話データから分析した。英語教育、日本語教育、多文化教育でのコミュニケーションの在り方を考えるための必読書。原著：Helen Fitzgerald, *How Different Are We?: Spoken Discourse in Intercultural Communication*. 2002. Clevedon: Multilingual Matters

▶言語学翻訳叢書 12

エレン・ウィナー 著
津田塾大学言語文化研究所
読解研究グループ 訳

A5判・264頁・978-4-89476-537-5
定価3360円(本体3200円)
発行2011.2 新刊

ことばの裏に隠れているもの 子どもがメタファー・アイロニーに目覚めるとき



新刊

本書は、アメリカの心理学者でボストンカレッジ教授、Ellen Winnerによる *The Point of Words: Children's Understanding of Metaphor and Irony* (1988) の全訳。子どものメタファー・アイロニーの習得過程、それらの習得がなぜ遅いかの解明への試みである。認知言語学などのメタファー研究、発達心理学の「心の理論」、語用論などのメタファー、アイロニー研究をユニークな視点で結びつけており、初等教育における日本語・英語の指導、障害児の文字通りでない言語理解が目される今こそ、研究者、学生、自閉症・アスペルガー症候群の子どもの教育者、子を持つ親に読んでほしい一冊である。

いかにして言語は変わるか アントワーン・メイエ文法化論集

アントワーン・メイエ 著
松本明子 編訳

A5判・148頁・978-4-89476-291-6
定価2940円(本体2800円)
発行2007.5

歴史言語学で、ひとつの潮流となっている文法化。その文法化研究の祖といわれるのが、フランスの言語学者アントワーン・メイエである。本書は、文法化理論を学ぶときには、必ず引用されるようなメイエの論文を邦訳した初めてのものである。目次：1.「文法形態の発達」2.「接続詞の更新」3.「いかにして単語は意味を変えるか」4.「動詞avoirの発達」5.「Êtreとavoir — Il est vacheおよびJ'ai très faimの文型について」

HOLDS

▶HOLDS NO.1

久保美織 著

A5判上製・254頁・978-4-938669-35-5
定価12600円(本体12000円)
発行1994.11
A5判並製・254頁・978-4-938669-36-2
定価4200円(本体4000円)
発行1994.11

Japanese Syntactic Structure and Their Constructional Meanings

MITで取得した学位論文にわずかに誤植を訂正した公刊。日本語の基本句構造を考える上で必読の研究書。「は」と「が」、状態・動作動詞の構造的相違とそれに伴う格の表出、使役構文、そして従属節、名詞句の構造に至るまで、多彩な分析が展開されている。生成文法の観点から意味と構造の関係に取り込んだ力作。

▶HOLDS NO.2

吉田恵以子 著

A5判上製・194頁・978-4-938669-49-2
定価12600円(本体12000円)
発行1995.5
A5判並製・194頁・978-4-938669-48-5
定価4078円(本体3884円)
発行1995.5

Syntax and Semantics of Wh-quantifier Interactions

コーネル大学で取得した学位論文の大幅な改訂版。

▶HOLDS NO.3

William Tsuyoshi McClure 著

A5判・373頁・978-4-938669-60-7
定価4200円(本体4000円)
発行1995.11

Syntactic Projections of Semantics of Aspect

コーネル大学へ提出された学位論文の公刊。

▶HOLDS NO.4

鈴木猛 著

A5判・368頁・978-4-89476-106-3
定価4620円(本体4400円)
発行1999.2

A Theory of Lexical Functors Light Heads in the Lexicon and the Syntax

Hale & Keyser (1993, 1994) と Dechaine (1996) によるl-syntaxモデルを前進させるもの。lexiconとsyntaxの関係の包括的な理論を提示するものである(英語)。

▶HOLDS NO.5

小泉政利 著

A5判・368頁・978-4-89476-111-7
定価3675円(本体3500円)
発行1999.4

Phrase Structure in Minimalist Syntax

1995年にMITに提出・受理された学位論文を、整え直したものである。Minimalist Programの枠組みで書かれている(英語)。

▶HOLDS NO.6

佐野哲也 著

菊判・168頁・978-4-89476-153-7
定価2100円(本体2000円)
発行2002.3 在庫僅少

ROOTS in Language Acquisition

1995年にUCLAに提出・受理された学位論文に誤植などのわずかな訂正を加えたもの。日本語の動詞屈折の獲得を西欧語と比較し、否定形・連用形・「て」形の1-2歳児の獲得データに生成文法における理論的な説明を与えている。

▶HOLDS NO.7

平川眞規子 著

菊判・356頁・978-4-89476-182-7
定価6720円(本体6400円)
発行2003.2

Unaccusativity in Second Language Japanese and English

〈日本学術振興会助成刊行物〉

(日英語における非対格性に関する第二言語知識) 日英語における自動詞構文の第二言語習得の過程を生成文法の枠組みから探究し、それに関わる生得的資質や母語の及ぼす影響などを検討した。言語産出データや文法性判断テストなどの結果を用いて綿密な分析を行い、学習者は自動詞を二分する知識をもつが、特に非対格自動詞の習得が困難であること、それは言語間の異なる統語構造に要因があることを明らかにする。

英文学術出版の困難を超える

あえて英語で言語研究を刊行するシリーズ。ジャンルは英語学ではなく、日本語や英語、その他の言語をも対象とする。日本の言語研究は世界第一線のものといってよいだろうが、言語の壁のため世界的に広まることが少ない。また、残念なことに日本国内では、日本人が英語で書いた研究書に対する市場は極度に小さいというのが現状である。自分の著書を英語で出版したいという研究者が多いのに比して、英語の研究書は購入されない。学術出版としては危機的な状況である。読者層が存立することが学術出版の存在基盤であるはず。

本シリーズは、様々な危機を乗り越え、英語の学術書を継続的に出版することを目標としている。打開策として、優れた内容を厳選して刊行すること、海外でも流通を可能にすること、英語の研究書の編集水準を上げることをはっきりしたい。様々な困難を打開するためにも本シリーズをご支援下さることを切に希望する。せめて、日本の大学図書館の100館に収書されなければ、挑戦することは困難である。実際の数字はwebcatで検索すれば、歴然である。ぜひ先生方の図書館に入れていただきたい。

海外書店で取り扱い店をつくっています。オーストラリアではInTextブックストア (www.language.int.com) で、北米ではFujisan.comで購入できるようになりました。

▶Hituzi Linguistics in English 1

加野まきみ 著

菊判・280頁・978-4-89476-268-8
定価8400円(本体8000円)
発行2006.2

Lexical Borrowing and its Impact on English (日本学術振興会助成刊行物)

英語に借用された日本語・ドイツ語が、どのようにして英語の語彙体系の中に取り込まれていくのか、また、語彙を借用することによって本来の語彙体系はどのような影響を受けるのかというメカニズムを考察。各言語からの借用語数の増減を追うことに終始することなく、借用される語彙と借用する語彙体系両方のダイナミックな変化をコーパスを用いて解き明かす。

▶Hituzi Linguistics in English 2

東泉裕子 著

菊判・296頁・978-4-89476-269-5
定価13440円(本体12800円)
発行2006.2

From a Subordinate Clause to an Independent Clause

A History of English *because*-clause and Japanese *kara*-clause (日本学術振興会助成刊行物)

最近、注目されている文法化 (grammaticalization) の理論に基づき、日英語の理由節を通時的、共時的に分析し、節接続の傾向 (非従属節から接続節へ) と意味の主観化を検討する。

▶Hituzi Linguistics in English 3

野村忠央 著

菊判・416頁・978-4-89476-267-1
定価15750円(本体15000円)
発行2006.2

ModalP and Subjective Present (日本学術振興会助成刊行物)

法助動詞を主要部とするModalP (法助動詞句) の指定を提案し、それが英語統語論において経験的に最低限必要な統語範疇であることを示す。前半は法助動詞句仮説の提案、法助動詞とnotとの作用域、不定詞節の構造などを扱い、後半は仮定法現在に関わる諸問題 (仮定法現在節の構造、補文標識、代用のshould、時制、VP削除、「have・be+not」語順など) を広く論ずる。

▶Hituzi Linguistics in English 4

永田高志 著

菊判・360頁・978-4-89476-271-8
定価14700円(本体14000円)
発行2006.4

A Historical Study of Referent Honorifics in Japanese

日本語の敬語を概観すると、最も大きな変化は絶対敬語から相対敬語への移行であるとするのが一般的な意見であるが、これまでその過程、時期については明らかにされてこなかった。本書は、その過程を明らかにしたものである。日本語の敬語をどの言語にも存在する待遇表現の一面と捉え、日本語の複雑な待遇表現を、社会言語学の視点から、海外の日本文学研究者や言語学者に紹介するために、和泉書院から出版した『第三者待遇表現史の研究』を英訳し、さらに日本語の敬語について概説を加筆したものである。

This book examines the history of honorific expression in the Japanese language, focusing on referent-oriented honorifics. This is the first Japanese book to investigate the shift of honorifics from the viewpoint of sociolinguistics. This book targeted the following people as potential readers of the book: scholars interested in Japanese literature and linguists who are interested in honorifics or polite expression in general.

▶Hituzi Linguistics in English 5

坂本勉 編

菊判・404頁・978-4-89476-329-6
定価12600円(本体12000円)
発行2007.2

Communicating Skills of Intention (日本学術振興会助成刊行物)

人間社会の円滑な進展の基盤となる「意図伝達スキル」に関しては、言語学、精神医学、福祉工学など、多岐にわたる研究分野の知見を統合する学際的な解明が望まれる。本書は2006年2月に開催された国際シンポジウム「意図の伝達スキル (Communicating Skills of Intention)」にて発表された26本の研究論文集。人間の「脳」に基盤を置くさまざまな認知活動を統括する「メタ認知」という概念に基づいた意図伝達スキルの解明に加え、コミュニケーション障害のリハビリの可能性も示唆されている。

A PARAMETORIC APPROACH TO CASE ALTERNATION PHENOMENA IN JAPANESE

森川正博 著

A5判・253頁・978-4-938669-21-8
定価6116円(本体5825円)
発行1993.12

GB理論に基づき、日本語の格の問題を取り扱った研究。新しい知見にとむ、ワシントン大学の学位論文の大幅な改訂版(英語)。

Studies in Endangered Languages

Papers from the International Symposium on Endangered Languages, Tokyo, November, 18–20, 1995

松村一登 編

A5判・266頁・978-4-938669-97-3
定価5250円(本体5000円)
発行1998.5

1995年11月に東京大学で開催された、ICHEL (危機言語クリアリングハウス) 主催の「危機言語」国際シンポジウムにおける報告をまとめた論文集。危機言語、少数言語に関する12論文を収録(英語)。A collection of papers by the participants of the International Symposium on Endangered Languages, November 1995, organized by ICHL (International Clearing House for Endangered Languages) at the University of Tokyo. Contributors: Willem F.H. Adelaar (Netherlands), E. Annamalai (India), Knut Bergsland (Norway), David Bradley (Australia), Matthias Brenzinger (Germany), Michael Krauss (USA), Vida Yu. Mikhalchenko (Russia), Osami Okuda (Japan), Suwilai Premisrat (Thailand), Harumi Sawai (Japan), Stephen A. Wurm (Australia), Akira Y. Yamamoto (USA).

The Pragmatics of Negation Its Functions in Narrative

山田政道 著

A5判・448頁・978-4-89476-189-6
定価5040円(本体4800円)
発行2003.3

著者自身がインタビューした談話資料による否定研究。語用論・談話分析の視点から否定の機能を分析、従来の統語論・意味論的否定研究を補完。

The Dative and Related Phenomena

松村一登・林徹 編

A5判・310頁・978-4-938669-82-9
定価5250円(本体5000円)
発行1997.6

The Dative and Related Phenomenais a collection of papers dealing with syntactic phenomena in various languages which in one way or other are associated with the DATIVE. The linguistic forms and constructions under discussion are the “applicative” in Tembo (Bantu) and Australian Aboriginal languages, the “genitive” in Turkish, the “adessive” in Estonian, the “dative” in Telugu and German, and and the “indirect object” in French. The collection also includes two papers (B. Comrie, T. Ooe) which are not directly related to the general topic.

The Syntax of FOCUS and WH-Questions in Japanese

A Cross-Linguistic Perspective (日本学術振興会助成刊行物)

柳田優子 著

A5判・200頁・978-4-89476-239-8
定価11550円(本体11000円)
発行2005.2

日本語の古代語における語順の制約について指摘した最も早い論考。
目次：1. Introduction 2. Focus Projection 3. Clitic Q-Movement 4. Case/ Focus Particles and Clause Structure Change: Evidence From Early Old Japanese 5. Focus Movement and Semantic Interpretation

Corpus Studies on Japanese Kanji

玉岡賀津雄 編

菊判・112頁・978-4-89476-270-1
定価3570円(本体3400円)
発行2005.12

ドイツの計量言語学の学術誌 *Glottometrics* の特集号「漢字のコーパス研究」(第10号)である。近年、漢字をめぐるコーパスやデータベースが充実し、使用頻度を利用した解析が可能となった。本書は、漢字をめぐる特徴の紹介と解析、軽動詞付加を決めるアスペクトなど分析研究を掲載した。また、新たな連想語などのコーパスやデータベースの構築、日本の計量国語学の創始者である水谷静夫先生の研究成果も掲載した。

| | |
|-----------------------------------|--|
| ▶Hituzi Linguistics in English 6 | A Pragmatic Approach to the Generation and Gender Gap in Japanese Politeness Strategies 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 鈴木利彦 著 | 現代日本語ポライトネスにおける世代間・性別間のストラテジーの違いを、従来の敬語使用の分析を含めて語用論的な観点から考察。本書では、Leechの <i>Politeness Principle</i> (1983) を改訂・発展させた理論の枠組み (2001, 2003) を用い、「言語／命題に関する尺度＝丁寧さ」と「状況における適切さに関する尺度＝適切さ」の2つの尺度を使って論じている。発展研究の章では、音声データの分析を通じて、文字に置き換えられた言葉と音韻要素を含む音声データの印象の違いについて考察している。 ★CD-ROM付 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 7 | Japanese Women's Listening Behavior in Face-to-face Conversation The Use of Reactive Tokens and Nods 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 宮崎幸江 著 | 日本語の「聞き手の行動」には日本語特有の行動パターンがある。本書は、対面会話におけるリアクティブトークン (あいづち他) と非言語行動 (うなずき) に注目した。女性の「聞き手の行動」を、社会言語学的手法に基づき非言語行動を含めて分析し、複数のコンテクスト (スタイル、年齢、親疎) におけるバリエーションの一般化を試みた初めての書。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 8 | An Enterprise in the Cognitive Science of Language A Festschrift for Yukio Otsu |
| 佐野哲也・遠藤美香・磯部美和・大滝宏一・杉崎鉦司・鈴木猛 編 | 本書は、慶應義塾大学教授、大津由紀雄氏の2008年2月の還暦を祝し、氏と交友の深い研究者や教え子たち49名が寄稿して編まれた記念論文集である。各論文の内容は統語論・形態論・音韻論・第一言語獲得・第二言語獲得・言語処理など多岐にわたり、Stephen Crain, Nina Hyams, Thomas Roeper, William Snyderら海外からの寄稿も含まれる。どの論文も、氏が追求してきた「言語の研究を通してヒトのこころの認知機構を解明する」という目標に挑む意欲作であり、言語の認知科学の魅力にあふれた1冊となっている。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 9 | Syntactic Structure and Silence |
| 時崎久夫 著 | 生成文法で近年注目される統語論と音韻論のインターフェイスを、構成素境界の音韻境界への写像とその削除として考察。音韻変化の生起を説明し、韻律構成素・厳密階層仮説を解体、簡潔な韻律理論を提示する。日英語・その他の言語を例に、発話速度から構成素の長さ、統語移動、情報の新旧、認知、話題・焦点、談話構造、文生成・文解析まで、広範囲にわたる現象を解き明かす。統語論・音韻論のみならず、機能主義、認知言語学、語用論、言語心理学、言語工学に関心のある方すべてに読んでいただきたい、言語の本質に迫る一冊。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 10 | The Development of the Nominal Plural Forms in Early Middle English 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 堀田隆一 著 | 名詞の複数を表すs語尾の本格的な研究。英語の複数形sは、英語史の中で極めて基本的なトピックでもあるにもかかわらず、その詳細な発展過程を探る研究書・論文は1911年以来、世界的にはほとんどない。Lexical Diffusionの理論や史的コーパスを用いた本書は、新しい英語史・言語史を提案するものである。 日本中世英語英文学会松浪奨励賞(佳作)受賞 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 11 | Chunking and Instruction The Place of Sounds, Lexis, and Grammar in Language Teaching 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 中森誉之著 | 認知科学理論と言語習得理論に基づき、実証的な研究を踏まえた日本人英語学習者にとって効果的な指導理論を構築する研究書。英語教育の書籍の多くは、啓蒙的実用的なものが多い。実用的であることはもちろん悪いことではないが、根本的な理論的な研究が世に出ているとはいえないのが現状である。本書は、英語教育研究書出版としても画期的なものである。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 12 | Detecting and Sharing Perspectives Using Causals in Japanese 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 宇野良子 著 | 認知言語学のアプローチによる因果関係を表す複文の研究。因果関係というカテゴリーの揺らぎや時制の分析から、発話主体が因果関係とどのように動的に関わるかこそが日本語のカラ文における意味の広がり背後にある、ということを示した。発話主体の文成立への関わりということから、平叙文全体の認知的基盤を論じ、伝統的な日本語研究における「陳述」の概念の再評価にもつながるテーマ。 |

| | |
|---|---|
| ▶Hituzi Linguistics in English 13 | Discourse Representation of Temporal Relations in the So-Called Head-Internal Relatives 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 石川邦芳 著 | これまで関係節の一種として扱われてきた主要部内在型関係節 (Head-Internal Relatives) 構文を、日本語の例に基づいて談話意味論・語用論の新視点から分析した。補文の述部と主節の述部との双方が表すアスペクトによるインターバルの整合性が構文全体の意味を決定することを解明する。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 14 | Features and Roles of Filled Pauses in Speech Communication A Corpus-based study of spontaneous speech 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 渡辺美知子 著 | 日常発話には「アノー」「エート」などのフィラーをはじめとする言いよどみ現象が観察される。実際には頻繁に使われているにもかかわらず、統語的な働きや辞書的な意味を持たないために言語学の分野では最近まで研究対象とされてこなかった。本書では『日本語話し言葉コーパス』を用いてフィラーの分布を統語的、社会言語学的に分析している。結果的に南不二男による節の分類を再評価することにもなっている。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 15 | Japanese Loanword Phonology The Nature of Inputs and the Loanword Sublexicon 〈南山大学学術叢書出版助成刊行物〉 |
| 六川雅彦 著 | 日本語のLoanword Phonologyに関する初めての研究書。昨今様々な言語でLoanword Phonologyに関する書籍、論文が発表されているが、日本語に関する書籍はなかった。日本語における新語の大半が借用語 (特に英語から) であり、また、他の語彙層に比べて適応される制約が少ない様々な音韻的現象が見られることから、今後ますます盛んになると考えられる分野の先駆けとなる書であり、この分野の研究を志す人たちにとって入門的ともなる有意義な研究書である。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 16 | Derivational Linearization at the Syntax-Prosody Interface |
| 塩原佳世乃 著 | 本書は、生成文法理論研究を初めとする言語学において現在最も注目されているトピックの1つである linearization (語順決定) の問題を、統語部門と音韻部門のインターフェイスの在りように関係付けて、経験的、理論的側面から包括的に捉える試みである。特に左から右への累加的な構造構築 (Phillips1996, 2001等) を採用し、音韻部門へのスペルアウトの単位が統語的構成素と音韻的構成素の対応関係によって定まるような、派生的な統語部門から音韻部門への写像のモデルを提案している。 2010年度市河三喜賞受賞 |
| LANGUAGE IN PAPUA NEW GUINEA | |
| Toru Okamura 編 | 英文。バブア・ニューギニア人自身によるバブア・ニューギニア語の研究が主要な部分をしめる研究。ピジンクレオールというくくりで、言語接触について語られることが多いが、実際にトクピジンとはどういうものなのか。その現場からの言語研究。バブア・ニューギニアにおける言語現象についての研究を含む。 |
| ▶Hituzi Linguistics in English 17 | Analytic Dictionary of Abkhaz 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| 柳沢民雄 著 | 本書は、アブハジア人のインフォーマントより収集した一次資料に基づいて編纂したアブハズ語・英語・ロシア語辞典である。標準アブハズ語を記述し、総語彙数は機能語も含めて5000語以上収録している。特に動詞形態論は詳細に記載されており、用例も多数収録されている。様々な分野の研究者のためのアブハズ語の基本的レファレンスである。 |
| B5判・642頁・978-4-89476-460-6 定価29400円 (本体28000円) 発行2010.2 | ▶Hituzi Linguistics in English 18 |

▶Hituzi Linguistics Workshop Series 1

Current Topics in English and Japanese

中村捷編

東北大学で、1994年夏に開かれたセミナーの内容をまとめた論集。英語学の中堅層から、当時、MITで学位論文を執筆中の執筆者をも含む、最新の研究成果。Contributor: Nobuko Hasegawa, Yoshiaki Kaneko, Fusa Katada, Akira Kikuchi, Masatoshi Koizumi, Ken-ichi Mihara, Masaru Nakamura, Hiromu Sakai, Tatsuya Suzuki, Yuji Takano, Koichi Takezawa, Naoto Tomisawa, Hiroyuki Ura, Akira Watanabe

A5判・369頁・978-4-938669-34-8
定価4200円(本体4000円)
発行1994.10

▶Hituzi Linguistics Workshop Series 2

日英語の右方移動構文 その構造と機能

高見健一編

日本語や英語の文において、基本語順から語句が右方に移動する現象が存在する。生成文法や機能的統語論、談話分析の枠組でこの右方移動現象をどうとらえるのか。日英語のさまざまなタイプの右方移動構文を取り上げ、その構造と機能を明らかにする。日本英語学会11回大会でのワークショップをもとに編集。執筆者：中島平三、田子内健介、鈴木右文、平田一郎、桑原和生、奥野忠徳、高見健一、藤井洋子、Seiji Naito

A5判・225頁・978-4-938669-56-0
定価4305円(本体4100円)
発行1995.11

▶Hituzi Linguistics Workshop Series 3

「も」の言語学

つくば言語文化フォーラム編

日本語の「も」と類似した言語現象について様々な言語の研究者による共同討議をふまえた論文集。執筆者：沼田善子(現代日本語)、森野崇(古代日本語)、レー・バン・クー(ベトナム語)、フランス・ドルヌ(フランス語)、ダニエラ・カルヤヌ(ルーマニア語)、アンドレイ・ペケシュ(スロヴェニア語)

A5判・319頁・978-4-938669-57-7
定価4410円(本体4200円)
発行1995.11

▶Hituzi Linguistics Workshop Series 4

Minimalism and Linguistic Theory

原口庄輔・船城道雄編

ミニマリスト理論に関する95年次の論考を集めたもの。Contributors: Howard Lasnik, Jun Abe, Yoshio Endo, Robyne Tiedeman, Shigeo Tonoike

A5判・135頁・978-4-938669-58-4
定価3364円(本体3204円)
発行1995.11

▶Hituzi Linguistics Workshop Series 5

「た」の言語学

つくば言語文化フォーラム編

日本語の「た」と類似した言語現象について、様々な言語の研究者の共同討議をふまえた論考。執筆者：「た」の言語学について(青木三郎) ロシア語の『体』の研究史(三谷恵子) 中国語の了について(楊凱榮) 現代日本語の「タ」(井上優) 古典日本語の完了形をめぐる研究動向(橋本修) 韓国語の「タ」(安平鎬) ベトナム語の完了形(レー・バン・クー)

A5判・310頁・978-4-89476-145-2
定価3990円(本体3800円)
発行2001.10

ひつじ書房は、主に言語学と言語教育の大学生向け教科書を刊行しており、その他、日本文学に関するものなども刊行している。定評ある〈ここからはじまる〉シリーズの他、〈学びのエクササイズ〉シリーズと〈ベーシック〉シリーズを刊行中。〈学びのエクササイズ〉シリーズは、半期制と教養課程解体後の大学のカリキュラムに対応し、学問の階段を登っていくというスタンスではなく、大学生が学部時代に学ぶひとつのテーマとしての学びを起すこと(学びそのものを学ぼうという姿勢を持てるようにすること)を意図した。120ページを基準とし、半期の授業で充分終了できる分量に抑えるとともに、面白いテーマを選び、そのテーマに自然と興味を持てるように考慮。21世紀の学生に対応しようと試みているということとともに、そのジャンルの内容を概観するには非常に便利なものでもある。〈ベーシック〉シリーズは、学問の階段を登っていく際の最初の第一歩をねらっている。簡便でありつつ、そのテーマであれば、この1冊で最低限の基礎、骨組みを理解できるように配慮。これだけ学べば、最低限の基礎的な知識が得られるように工夫をこらした。新しい時代の概説書である。

〈テキストレベルのめやす〉

| | 日本語 | 英語 | 言語一般・言語教育 | 表現法・スタディスキル |
|-------|---|---|--|--|
| より専門的 | ガイドブック文章・談話 ガイドブック方言研究 ガイドブック方言調査 ガイドブック日本語文法史 日本語の音 これからの語彙論* | 問題を通して学ぶ 生成文法 入門 生成言語理論 変化する英語 | 言語学 | Writing for Academic Purposes アカデミックプレゼンテーション 入門 |
| | 日本語要説 日本語の文法 | Linguistics Meaning and the English Verb ファンダメンタル英語学演習 | | これから研究を書くひとのためのガイドブック |
| | ベーシック現代の日本語学 ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・談話 | ファンダメンタル英語学 ファンダメンタル英文法 ファンダメンタル英語史 ファンダメンタル音声学 ベーシック英語史 ベーシック生成文法 ベーシック新しい英語学概論* | ベーシック日本語教育 ベーシックコーパス言語学* ここからはじまる日本語教育 ことばのエクササイズ 探検! ことばの世界 | ピアで学ぶ大学生の日本語表現 広げる知の世界 |
| より入門的 | 学びのエクササイズ 日本語文法 | | ことばに魅せられて 学びのエクササイズ ことばの科学 学びのエクササイズ 認知言語学 | 日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング |

*がついているものは近刊書籍

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ここからはじまる日本語学 |
|---|---|
| 伊坂淳一 著 | 現代人が間違え易い、あるいは移り変わりつつある現在の生きた言葉づかいを出発点に、日本語を考えるとはどういうことなのかということ日本語のしくみを考えていく。日本語のしくみを教養として学ぶことができるように十二分に配慮して執筆された新しいテキスト。半期制に対応。 |
| A5判・182頁・15刷・978-4-938669-73-7 定価1680円 (本体1600円) 発行1997.1 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ベーシック現代の日本語学 |
|---|---|
| 日野資成 著 | 日本語学をこれから学ぼうとする学部的大学生を対象とした日本語学への入門の教科書。言語学的観点から日本語をわかりやすく、楽しく解説した。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学など多岐にわたり、学生の興味を引く新しい内容を導入した。各章の終わりに、キーワード・推薦図書・練習問題を設け、復習の便宜を図るとともに、さらなる学習ができるよう配慮した。練習問題の解答も、わかりやすく丁寧に解説した。 |
| A5判・242頁・2刷・978-4-89476-438-5 定価1785円 (本体1700円) 発行2009.4 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | 改訂版 日本語要説 |
|---|---|
| 仁田義雄 他著 | 1993年の初版刊行以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみを広いフィールドから知る教科書。執筆者：仁田義雄（現代語の文法・文法論）、鈴木泰（古代語の文法・文法史）、村木新次郎（現代語の語彙・語彙論）、小林賢次（古代語の語彙・語彙史）、土岐哲（現代語の音声・音韻論）、林史典（古代語の音韻・音韻史／文字・表記）、真田信治（社会言語学・方言学）、畠弘巳（文章・談話）、山梨正明（認知言語学）、田中穂積（言語情報処理）、工藤浩（日本語学史） |
| A5判・348頁・3刷・978-4-89476-468-2 定価1995円 (本体1900円) 発行2009.5 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | 学びのエクササイズ 日本語文法 |
|---|--|
| 天野みどり 著 | 普段、話をしたり、きいたりという中でふと?を感じるようなことばのトピックを取り出して、日本語の仕組みに気付くことへ導く。英語は論理的で日本語は非論理的なのだろうか。身近な気付きから、少し深いところへ学生を招待する教科書。言語系の学生ばかりではなく、人文系にとどまらず、さまざまなジャンルの学生にも、ことばの面白さに興味を持ってもらい、日本語を考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。 |
| A5判・160頁・978-4-89476-394-4 定価1260円 (本体1200円) 発行2008.3 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ここからはじまる日本語文法 |
|---|---|
| 森山卓郎 著 | 文法の新しい局面を迎えている時代に即した日本語の文法のテキスト。日常的なことばから、文法を考えていく。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときにも便利。 |
| A5判・264頁・8刷・978-4-89476-174-2 定価1890円 (本体1800円) 発行2000.3 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | 日本語の文法 |
|---|--|
| 高橋太郎・金子尚一・金田章宏・齋美智子・鈴木泰・須田淳一・松本泰丈 著 | 包括的な日本語文法のテキスト。教材として高く評価されているのみならず、参加している著者の文法理論がコンパクトに凝縮されて、わかりやすく内容の濃いものとなっている。私家版の段階から書評にのるなど好評を博しており、中国や韓国などではすでに何種か翻訳が出版されている。ていねいな記述と、さまざまなジャンルから引用された魅力的な用例によって、日本語文法の全体像を学ぶことが出来る。 |
| A5判・320頁・4刷・978-4-89476-244-2 定価2520円 (本体2400円) 発行2005.4 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | 日本語の音 テキスト版 |
|---|--|
| 城田俊 著 | 本書は、日本語の共通語のオトを、単音、音節、音素、弁別要素の水準において、論理の飛躍なく、一步一步精密に記述したものである。 |
| A5判・280頁・3刷・978-4-89476-158-2 定価2205円 (本体2100円) 発行1995.10 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ここからはじまる文章・談話 |
|---|---|
| 高崎みどり・立川和美 編 | もっとも新しい文章・談話についてのテキストブック。【目次】新しいコミュニケーションツールのことばについての分析―ケータイメールを中心としてPCメール・チャット・ブログなどを材料に／広告のことばの分析―ネット広告と雑誌広告を材料に―／日常会話の分析―小学校教員の談話データを材料に／目的をもった会話の分析―相談談話をモデルとして／小説の文体分析―色々な作品を材料に／新しい形態の文章の文体分析―『電車男』を材料に／新聞記事の分析―社会面の記事二種を材料に／随筆の分析―『文藝春秋』巻頭随筆を材料として／古典文学作品の分析―『枕草子』第一段「はるはあけぼの」を材料に／狂言の分析―「附子」を材料に／ほか |
| A5判・276頁・978-4-89476-345-6 定価2100円 (本体2000円) 発行2008.4 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ガイドブック文章・談話 |
|---|---|
| 高崎みどり・立川和美 編 | 文章・談話について、短時間にその概要を知りたい人から本格的に学びたい人まで、必携のガイドブック。上代から近代までの「文章史・言語生活史」のほか、「比喩」や「接続」などの重要項目を文章・談話の中でとらえるためのヒントを示した。また、さまざまな基礎的な用語を体系的に詳しく説明し、今まできちんととりあげられることが少なかった両分野の研究史については、国内だけでなく海外におけるもっとも新しい研究までを網羅的にとりあげている。さらにコーパス検索など情報処理に関する章も設けてある。執筆者：伊藤理英・高崎みどり・立川和美・星野祐子 |
| A5判・382頁・978-4-89476-370-8 定価2625円 (本体2500円) 発行2010.6 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学・言語学)</div> | これからの語彙論  |
|---|--|
| 斎藤倫明・石井正彦 編 | 編者らによる語彙論の基礎とこれまでの成果の概説をふまえ、フェミニズム、認知言語学、日本語教育、民俗学、情報学などの立場からの語彙研究を紹介していく新しい概説書。語彙研究の今後の可能性を展望する。執筆者：小野正弘、影浦峽、笹原宏之、佐竹久仁子、佐竹秀雄、定延利之、鈴木智美、高崎みどり、田野村忠温、町博光、屋名池誠、由本陽子、横山詔一 |
| A5判・978-4-89476-283-1 近刊 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ガイドブック方言研究 |
|---|--|
| 小林隆・篠崎晃一 編 | 最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。 |
| A5判・248頁・4刷・978-4-89476-183-4 定価1890円 (本体1800円) 発行2003.2 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ガイドブック方言調査 |
|---|---|
| 小林隆・篠崎晃一 編 | 読者が調査の流れに沿って内容を理解できるように、計画の立案から実施、終了に至る各段階に応じて解説。方言調査のための具体的な技法をマニュアル化したはじめての手引き書。録音の仕方からお礼状の書き方まで。この1冊あればどんな初心者でも調査ができる。 |
| A5判・224頁・978-4-89476-280-0 定価1890円 (本体1800円) 発行2007.11 | |

| <div><div></div>▶テキスト (日本語学)</div> | ガイドブック日本語文法史 |
|---|--|
| 高山善行・青木博史 編 | 日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説した教科書。「ヴォイス」「アスペクト・テンス」「モダリティ」「係り結び」「とりたて」「待遇表現」「談話・テキスト」「文法史と方言」など、15章で構成されている。付録では、「資料概説」「用例調査法」「文献ガイド」がある。この一冊で、文法史の要点を理解することができる。日本語学だけでなく、言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広い分野の読者のニーズに応える。執筆者：青木博史・小柳智一・近藤要司・高山善行・西田隆政・福田嘉一郎・吉井健・米田達郎 |
| A5判・216頁・978-4-89476-489-7 定価1995円 (本体1900円) 発行2010.4 | |

| <div><div></div>▶テキスト (英語学)</div> | 改訂版 ファンダメンタル英語学  |
|--|---|
| 中島平三 著 | 英語学の入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。「英語学研究のエッセンスをなるべく時流に流されない形でしかもコンパクトに提供」という方針を継承しつつ、その後の研究で明らかにされた新たな分析法や説明法を積極的に取り入れる。英語学の中核をなす統語論、形態論、音韻論、意味論の基礎を平明、簡潔、丁寧に提示。章末には、要点や認知科学的な意義などを広い観点からまとめる。 |
| A5判・978-4-89476-575-7 近刊 | |

| ▶テキスト (英語学) | ベーシック新しい英語学概論 (仮) | 🕒 未刊 |
|-------------|--|-------------------|
| 平賀正子 著 | 異文化コミュニケーションという観点から、今や世界の共通語として認識されるに至った英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。世界英語の諸相、英語コミュニケーションの特徴、音韻・語彙・文法の仕組みについて、母語英語、国際共通語の両面から、わかりやすく楽しく解説した。各章末のキーワード・推薦図書・練習問題、事例へのメディア・リンクなどを通して、さらなる学習ができるよう配慮した。 | |

| ▶テキスト (英語学) | ファンダメンタル英語学演習 | 🐘 新刊 |
|-------------|---|-------------------|
| 中島平三 著 | 本書では、おもに英語の構文交替と動詞の意味の関係を題材にして、英語やことばを研究する際の問題発見とその解決の方法を学ぶ。語彙の意味論を背景に、なるべく専門的な用語や表示を「前景化」せずに議論を進めていく。能動・受動文の交替、与格交替、場所句交替、自他動詞交替などを取り上げ、多くの学生がこれらの構文を学んだ時に抱いたであろう疑問や不思議をテーマに、問題の所在を見つけ答えを探るための考え方を学んでいく。 | |

| ▶テキスト (英語学) | ファンダメンタル英文法 | |
|--|---|--|
| 瀬田幸人 著 | 本書は、この例文はこういう意味だ、というような形で事例を網羅的に収集することを意図したものではなく、様々な事例の背後にあると思われる規則性について考えてもらうことを意図したものである。覚える英文法ではなくて、考える英文法を目指した文法書。 | |
| A5判・180頁・7刷・978-4-938669-86-7 定価1680円 (本体1600円) 発行1997.6 | | |

| ▶テキスト (英語学・言語学) | ベーシック生成文法 | |
|---|---|--|
| 岸本秀樹 著 | 意外なほどに身近な英語と日本語の言語現象を通して、普段気がつかないことばの仕組みへ招待し、生成文法の考え方を学ぶ。言語系の学生ばかりではなく、また、人文系にとどまらず、さまざまなジャンルの学生にも、生成文法の考え方や面白さに興味を持ってもらい、文法について考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。 | |
| A5判・160頁・978-4-89476-426-2 定価1680円 (本体1600円) 発行2009.3 | | |

| ▶テキスト (英語学・言語学) | 問題を通して学ぶ 生成文法 | |
|---|---|--|
| 阿部潤 著 | 生成文法は、人間の言語に内在する文法を解き明かすツールである。このツールは、チョムスキーが創案して以来、様々な言語事象について、新たな視点を提供してきた。研究を押し進め、矛盾に出会い、新たな解決法を探し当てるといったことの繰り返しであった。本書は、様々な問題を通して、生成文法の基本的概念や考え方について学ぶ。 | |
| A5判・180頁・978-4-89476-390-6 定価1680円 (本体1600円) 発行2008.3 | | |

| ▶テキスト (英語学・言語学) | 入門 生成言語理論 | |
|---|---|--|
| 田中伸一・阿部潤・大室剛志 著 | 生成言語理論についての2000年時における入門書。目次：第1章 生成音韻論―その目標、方法論、事例研究― 第2章 ミニマリスト・プログラム―最新の生成統語理論の動向― 第3章 概念意味論―基本的なメカニズムと事例研究― | |
| A5判・208頁・978-4-89476-124-7 定価2940円 (本体2800円) 発行2000.3 | | |

| ▶テキスト (言語学) | ベーシックコーパス言語学 | 🕒 未刊 |
|-------------|--|-------------------|
| 石川慎一郎 著 | コーパス言語学 (corpuslinguistics) は、英語においては1990年代以降、日本語においては2000年代以降、それぞれ急速な進展を見せ、現在、言語や言語教育に関わる幅広い研究分野に大きな影響を及ぼしている。本書は、英語コーパスと日本語コーパスの両者に目配りしつつ、初学者を対象に、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法論について平易に解き明かすことを目指す。 | |

| ▶テキスト (英語学) | ファンダメンタル音声学 | |
|--|--|--|
| 今井邦彦 著 | 「読者に良い発音を身につけてもらうこと」を最大の目的として編まれた最新の英語音声学教本。個々の音だけでなく、コミュニケーションに重要な働きをする文強勢やイントネーションについて必要な知識をわかりやすく説き、その知識を、CD-ROMを使って練習し、実地に活用できるよう工夫してある。イギリス英語についてはロンドン大学音声学科・国際音声学会 (IPA) の双方から英語発音技能第一級証明書を授与された著者自身、アメリカ英語については信頼すべきネイティブ・スピーカーが音声吹き込みを担当している。 ★ CD-ROM付 | |
| A5判・240頁・2刷・978-4-89476-279-4 定価2520円 (本体2400円) 発行2007.5 | | |

| ▶テキスト (英語学) | ファンダメンタル英語史 | |
|---|--|--|
| 児馬修 著 | 「現代英語をより深く理解するため」という観点から書かれた英語史の入門書。この1500年間の英語文法の仕組みが、どのように (How)、なぜ (Why) 変化したかという問題をも取り扱い、言語変化のメカニズムに関する様々な言語学的アプローチを試みる。 | |
| A5判・140頁・7刷・978-4-938669-74-4 定価1575円 (本体1500円) 発行1996.11 | | |

| ▶テキスト (英語学) | ベーシック英語史 | |
|--|---|--|
| 家入葉子 著 | ことばが変わっていく不思議さに焦点をあてることにより、英語史に関心を持って学べるように工夫された教科書。言語学以外のジャンルに進む学生にも面白くかつ的確にまとめられた入門的な教科書。「詳細な記述よりも、英語の発達のストーリーを楽しんでいただいてもよい。」 | |
| A5判・138頁・2刷・978-4-89476-349-4 定価1680円 (本体1600円) 発行2007.3 | | |

| ▶テキスト (英語学) | 変化する英語 | |
|---|--|--|
| 中尾俊夫 著 児馬修・寺島廸子 編 | 変化することは、ことばの普遍の特徴である。 21世紀に英語はどのように変化するのだろうか。実際の言語データを丹念に収集し、ことばの変化を引き起こす要因を探る。英語の方向性を使用人口・特徴も含めて描く。 | |
| A5判・224頁・978-4-89476-188-9 定価1680円 (本体1600円) 発行2003.7 | | |

| ▶Hituzi' s Linguistics Textbook Series 1 | Meaning and the English Verb | |
|--|--|--|
| Geoffrey N. Leech 著 澤田治美 注釈 | 英語の動詞や助動詞の微妙な意味の違いを教えてくれる意味論の名著のテキスト版。英語の真髄を学ぶのに最適である。注釈は研究課題を含んでおり、レポートのテーマを見つけるのにも便利である。原著はsecond edition。 | |
| A5判・253頁・7刷・978-4-938669-26-3 定価2447円 (本体2330円) 発行1994.3 | | |

| ▶Hituzi' s Linguistics Textbook Series 2 | Linguistics | |
|---|---|--|
| Jean Aitchison 著 安藤貞雄 注釈 | 定評あるJean Aitchisonの著書のひつじ版リプリント。的確で目配りの利いた、そして過不足のない本書は言語学・英語学のテキストとして優れたものである。原著はfourth edition。 | |
| A5判・250頁・8刷・978-4-938669-37-9 定価2447円 (本体2330円) 発行1994.12 | | |

| ▶テキスト (言語学) | 学びのエクササイズ ことばの科学 | |
|---|---|--|
| 加藤重広 著 | ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱っている。ことばで表現する苦しみと楽しさ、ことばに抱く幻想、ことばの始まり、人間であることとことばの能力、方言と標準語、社会の中のことば、滅びゆくことばの現実、ことばの変化と歴史、発音と文字の不思議、伝わらない思いとことば、ことばについての誤解など、興味ある15のテーマを取り上げている。ほとんど専門知識がなくても読み進められる、「言語学入門への入門」の本。 | |
| A5判・148頁・3刷・978-4-89476-336-4 定価1260 (本体1200円) 発行2007.3 | | |

| ▶テキスト (日本語学・言語学) | 探検! ことばの世界 (新版) | |
|---|---|--|
| 大津由紀雄 著 | 『基礎英語』に連載され、その後、NHK出版から刊行され、好評を博した名著の新訂版。ことばの仕組みを楽しいイラスト (早乙女民) とともに、ユニークな視点で解説し、読者をことばの世界に誘う。「ワニバナナ」「茶色い目の大きな犬を飼っている宇宙人」「にせたぬきじる」など、楽しいトピックによって構成されている。中学生や高校生の言語読本としてだけでなく、入門期の英語学、言語学のテキストとしても優れている。 | |
| A5判・160頁・3刷・978-4-89476-223-7 定価1680円 (本体1600円) 発行2004.12 | | |

| ▶テキスト (日本語学・言語学) | ことばに魅せられて 対話篇 | |
|---|---|--|
| 大津由紀雄 著 | 好評『探検! ことばの世界』の姉妹編。対話形式で物語がすすんでいく本書は、「バイリンガルの頭の中って一体どうなってるの?」「ミツバチのダンス」、「回文」「リンス・イン・シャンプーって、リンス? シャンプー?」といった、前著「探検!」ゆずりのことばに関する興味深いトピックが取り上げられている。前半部では認知科学や脳科学の視点からの考察を配置することで、言語の世界が閉じたものではなく広い世界につながっていることが理解しやすくなっている。格好の言語学入門。大学などの授業にも対応。『基礎英語』テキストに連載していたものの大幅改訂版。 | |
| A5判・168頁・978-4-89476-377-7 定価1680円 (本体1600円) 発行2008.5 | | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶テキスト (日本語学・言語学)</div> | <div><div></div>ことばのエクササイズ</div> |
| 青木三郎著 | 相手に説明したり表現することを通して、ことばのもっている本質的な機能や限界を考える。習うのではなく「話す実践」から感じ取る、ことばを巡る16のエクササイズ。講義用テキストとしても有用。図表多数。平成17～19年度 東京書籍『現代文2』に一部掲載され、高等学校の国語教材としても使用されている。 |
| A5判・186頁・3刷・978-4-89476-150-6 定価1470円 (本体1400円) 発行2002.1 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (言語学)</div> | <div><div></div>言語学</div> |
| 湯川恭敏著 | チベット語、日本語文法論、アフリカのバントゥ諸語などの研究で知られる著者による言語学の入門書。先入観なしに、言語の実際の姿を正確・精密にとらえることを最重要視すべきであるという、著者自身の経験に裏付けられた主張と理論は、言語を調べたい、研究したいという気持ちをもつ全ての人に有益である。 |
| A5判・258頁・978-4-89476-113-1 定価2940円 (本体2800円) 発行1999.6 | |

| | |
|--|--|
| <div><div></div>▶テキスト (言語学)</div> | <div><div></div>学びのエクササイズ 認知言語学</div> |
| 谷口一美著 | 認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ教科書。15章の各章は、半期で終わられる分量で、認知言語学を学ぶ際に重要で面白く、学生を引きつけられるトピックで構成されており、大学1年生から教科書として使うことができる。目次：1. はじめに：ことばと「動機づけ」／2. ことばの中の心理学／3. カテゴリー：典型から周辺へ／4. ことばと抽象化／5. イメージ・スキーマ／6. 意味のネットワーク：ことばの多義性／7. ことばの創造性 (1)：メタファー／8. ことばの創造性 (2)：メトニミー／9. 「捉え方」のメタファー (1)／10. 「捉え方」のメタファー (2)／11. 「色彩」のメタファー／12. 構文と意味 (1)／13. 構文と意味 (2)／14. ことばのダイナミズム／15. ことば、文化、普遍性 |
| A5判・144頁・2刷・978-4-89476-282-4 定価1260 (本体1200円) 発行2006.4 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (日本語)</div> | <div><div></div>日本語を書くトレーニング</div> |
| 野田尚史・森口稔著 | 新しい発想にもとづく日本語表現のテキストブック。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。このテキストのキモは、相手の気持ちがわかるということはとても難しいということを実感すること。 |
| A5判・128頁・7刷・978-4-89476-177-3 定価1050円 (本体1000円) 発行2003.3 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (日本語)</div> | <div><div></div>日本語を話すトレーニング</div> |
| 野田尚史・森口稔著 | 日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人があまり上手に話していない音声聞くことにより考える。『日本語を書くトレーニング』の続編。　★音声CD付。 |
| A5判・128頁・3刷・978-4-89476-210-7 定価1155円 (本体1100円) 発行2004.3 | |

| | |
|--|--|
| <div><div></div>▶テキスト (日本語・スタディスキル)</div> | <div><div></div>ピアで学ぶ大学生の日本語表現 プロセス重視のレポート作成</div> |
| 大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂著 | 相手に伝わるレポートの書き方・発表の仕方をみにつけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。情報収集技術を自分の課題と関連づけて体験し、ピア活動を通して学びのプロセスの共有をめざす。ピア (peer) とは、仲間の意味の英語。授業ではレポートを作成する一連の作業を、学習する者同士で読み合い、話し合いながら進めていく。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適の教科書。さまざまな工夫が盛りだくさん。 |
| B5判・148頁・6刷・978-4-89476-229-9 定価1680円 (本体1600円) 発行2005.3 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (スタディスキル)</div> | <div><div></div>これから研究を書くひとのためのガイドブック</div> |
| 佐渡島紗織・吉野亜矢子著 | ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。前編、後編、各15章立て。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段取りを解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。★CD-ROM付 |
| A5判・274頁・3刷・978-4-89476-368-5 定価2100円 (本体2000円) 発行2008.6 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (スタディスキル)</div> | <div><div></div>Writing for Academic Purposes 英作文を卒業して英語論文を書く</div> |
| 田地野彰・ティム スチュワート・デビッド ダルスキー 編 | 本書は、大学・大学院生を対象として、高校までの一般的な英文作成から専門論文に求められるアカデミックライティング技能への橋渡しを目的として執筆された。「学術目的の英語」(EAP) 教育分野における最新の研究成果と京都大学での授業実践に基づきながら、特定の専門分野に偏ることなく、アカデミックライティングの重要概念の紹介と実践を通して、幅広い視点からライティング技能の向上を図る (本文英語、日本語注釈つき)。 |
| A5判・216頁・2刷・978-4-89476-490-3 定価2100円 (本体2000円) 発行2010.4 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (スタディスキル)</div> | <div><div></div>広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン</div> |
| 実松克義・北尾謙治・石川有香・早坂慶子・西納春雄・朝尾幸次郎・石川慎一郎・島谷浩・野澤和典・北尾S. キャスリーン著 | 大学生が知っておくべき大学での学び方のレッスン。スタディスキルから、表現、プレゼンテーションまでを学ぶことができる。目次：1 大学の魅力、2 有意義な大学生活と学習・研究、3 大学の学習・研究の実際、4 ノートの取り方、5 大学生のための読解、6 情報収集、7 インターネット、8 テーマの選び方、9 情報の整理、10 書くことの重要性、11 レポートや論文を書く、12 プレゼンテーション、13 テストの準備と受け方、14 クリティカル・シンキング、15 プレイジャリズム (剽窃)、16 教授と知り合い、指導を受けよう、17 パソコンの有効な利用法、18 ワープロの有効な利用方法、19 Power Pointを使用したプレゼンテーション　★CD-ROM 付 |
| B5判・162頁・5刷・978-4-89476-242-8 定価1680円 (本体1600円) 発行2005.5 | |

| | |
|--|---|
| <div><div></div>▶テキスト (スタディスキル)</div> | <div><div></div>最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門 Introduction to Academic Presentations for Japanese Language Learners and Japanese Students</div> |
| 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子著 | 本書は、大学の初級日本語コースで使われているアカデミックプレゼンテーション入門書に英訳をつけたものである。日本語力が十分でない日本語学習者はもちろん、日本人学生も、本当に意味のある内容を発表できるように工夫されている。必要な日本語表現だけでなく、テーマの選び方からデータの処理・分析のプロセス、さらには実際に発表するためのスライド作成や話し方、態度などのノウハウまでを網羅している。　★CD-ROM 付 |
| B5判・228頁・2刷・978-4-89476-337-1 定価2310円 (本体2200円) 発行2006.12 | |

| | |
|---|--|
| <div><div></div>社会人・学生のための情報検索入門</div> | <div><div></div>最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門 Introduction to Academic Presentations for Japanese Language Learners and Japanese Students</div> |
| 味岡美豊子著 | インターネットが普及し、だれでも「ググる」ということが当たり前になった。だれでも情報を自由に検索できるという思いこみが生まれている。情報検索というただことばを検索窓に入れて、リターンキーを押すだけだと思っている人が多い。情報検索というビジネスで生きている著者は、そうではないという。本当の意味での情報検索のやり方、方法、考え方への招待。 |
| A5判・212頁・978-4-89476-371-5 定価2520円 (本体2400円) 発行2009.4 | |

| | |
|--|--|
| <div><div></div>文科系ストレイシープのための研究生活ガイド</div> | <div><div></div>最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門 Introduction to Academic Presentations for Japanese Language Learners and Japanese Students</div> |
| 家入葉子著 | 英語史の研究者である著者が、自身の体験を基に研究生活の楽しみ方を案内する。論文執筆から学会参加まで、合理的な研究方法を得て知的生産活動を維持していくためのコツが満載。【目次】1. 研究生活へのイントロダクションー英語史研究の新しい形 2. 時代とテーマの絞込み 3. 論文執筆のための準備と整理能力 4. 博士論文の執筆 5. 短い論文の執筆 6. 研究生活の流れ |
| 四六判・168頁・978-4-89476-241-1 定価1680円 (本体1600円) 発行2005.2 | |

| | |
|---|---|
| <div><div></div>文科系ストレイシープのための研究生活ガイド 心持ち編</div> | <div><div></div>最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門 Introduction to Academic Presentations for Japanese Language Learners and Japanese Students</div> |
| 家入葉子著 | 『文科系ストレイシープのための研究生活ガイド』の続編。前著が研究人生の段階・ステップを中心としていたのに対して、本書はどうやって研究のモチベーションを上げていくかというメンタルな側面に注目。「研究は、ある意味で孤独な営みであり、心の部分で躓きを覚えると、それ以外のところで何ら問題がなくても前に進まないということがある」「心理の面での不器用さ」のようなものが、時として研究の進展をさまたげる。」などの著者自身も抱えていたさまざまな葛藤を乗り越えるための気の持ちようについて秘伝公開する。 |
| 四六判・160頁・978-4-89476-409-5 定価1680円 (本体1600円) 発行2009.3 | |

| | |
|--|--|
| <div><div></div>言語表現ことはじめ</div> | <div><div></div>最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のためのアカデミックプレゼンテーション入門 Introduction to Academic Presentations for Japanese Language Learners and Japanese Students</div> |
| 筒井洋一著 | 学生が学ぶにあたって必要な基礎的技術 (書く・話す・読む・調べる) を学べるよう、1993年、富山大学において、日本の国立大学で初めて「言語表現科目」が設置された。科目創設を提案し、運営を支えてきた著者がこれまでに発表した、「言語表現科目」創設の意義や問題点等を解説する論文を取載。日本における「言語表現科目」事始めが分かる。 |
| A5判・88頁・978-4-89476-232-9 定価1155円 (本体1100円) 発行2005.2 | |

| | |
|---|---|
| ▶テキスト (日本語教育) | ここからはじまる日本語教育 |
| 姫野昌子他著 | 長い間、日本語を教えてきた経験をもとに、日本語を教えるため、どのようなところがまあと知識をもって、どのように教えたらよいか、実践と方法論をわかりやすくまとめたテキストブック。類書にはない具体的な指針は、これから日本語を教えようとする人に大きな助けになる。 |
| A5判・184頁・6刷・978-4-89476-104-9 定価1680円 (本体1600円) 発行1998.10 | |

| | |
|--|--|
| ▶テキスト (日本語教育) | ベーシック日本語教育 |
| 佐々木泰子編 | コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。多岐にわたる出題範囲だが、試験に振り回されず日本語教師に必要な知識を押さえている。これだけ学べば日本語教育の基礎の基礎を習得できる。 |
| A5判・336頁・3刷・978-4-89476-285-5 定価1995円 (本体1900円) 発行2007.4 | |

| | |
|---|--|
| ▶テキスト (日本語教材) | さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳 |
| 中川千恵子・中村則子・許舜貞著 | 本書は、発音の練習方法がわからなくて途方にくれている学習者、教え方が分からなくて無力感を抱いている教師の方々にぜひ使っていただきたい。中上級学習者向けの発音練習用テキスト。イントネーションに焦点を絞り、「フレージング練習」と呼ぶ視覚的な練習方法 (声の高低を表す曲線を見せたり描かせたりする) を用いて、短文練習からまとまった内容の発話へと段階的に学習を進めていく。授業でのスピーチ、仕事上のプレゼンテーションなど、フォーマルな場での、聞き取りやすく人にアピールする発音を目標に、教師にとって指導可能 (teachable)、学習者にとって学習可能 (learnable) な方法を提示する。 ★ DVD-ROM付 |
| A5判・180頁・978-4-89476-396-8 定価2730円 (本体2600円) 発行2009.4 | |

| | |
|--|---|
| ▶テキスト (日本語教材) | 「大学生」になるための日本語1 |
| 堤良一・長谷川哲子著 | 近年、自国で高校を卒業後、日本の大学への進学を希望する日本語学習者が増えている。日本語教育は「大学とは、そしてそこでの学びとは？」という問いに答え、彼らの人間的成長の一端を担うべき時代に突入している。本書は、そのようなニーズに応えるべく、科学、社会学、心理学、教育学、経済学、文学、言語学などに関連する文章を、全て書き下ろすことなくバランスよく盛り込んだ。学習者が学習しやすいよう、課の冒頭に語彙リストを設けた。本書を通して、「読む、聞く、話す、書く」の4つの技能を、タスク練習をこなすことにより総合的に養えるようになっている。 ★ 聴解CD2枚付 |
| B5判・192頁・978-4-89476-435-4 定価1995円 (本体1900円) 発行2009.10 | |

| | | |
|--|--|--|
| ▶テキスト (日本語教材) | 「大学生」になるための日本語2 | 新刊 |
| 堤良一・長谷川哲子著 | 1に続くこの巻では、統計学、数学、文学、心理学、倫理学、医学等に関連する文章を教材として扱っている。1より少し高度な内容に触れることにより、より高い文法能力やタスク遂行能力を養えるようになっている。日本語能力試験2級程度の文法で、しかも非常に抽象的な話題を扱うことによって、1巻と同様に、学習者の人間的成長を促すような教材である。なお、1巻2巻とも、日本留学試験 (作文) や、大学の入試問題に出題されるような問題も掲載しており、これらの試験対策にもなっている。 ★ 聴解CD2枚付 | |
| B5判・252頁・978-4-89476-462-0 定価1995円 (本体1900円) 発行2010.10 新刊 | | |

| | | |
|-------------------------|---|--|
| ▶テキスト (日本語教材) | クリティカル・リーディング | 未刊 |
| 舘岡洋子編著 | ピア・リーディング (対話による協働的読解活動) を具現化するための読解テキスト。文章理解のための設問に対して正しい答えをさがすという読解ではなく、学習者 (読者) がテキストの各テーマを自分の問題としてとらえ、筆者の主張、学習者自身の考え、クラスメイト (ほかの読者) の考えを対話を通して明らかにし、自らの思考を深めるものである。留学生の日本語のテキストに、また大学の理解表現科目のテキストにも利用できる。 | |
| 978-4-89476-540-5 未刊 | | |

| | | |
|---|---|--|
| ▶テキスト (日本語教材) | 日本語がいっぱい | |
| 李徳泳・小木直美・當真正裕・米澤陽子著 Cui Yue Yan 絵 | 文法的知識と、様々な場面における機能的・実践的な表現の、バランスの取れた総合学習、日本語の話し言葉の特性 (助詞省略、終助詞、など) の早期学習を目指した初級教科書。日本語学習過程を考慮した編成と、体系的で豊富な練習問題を擁し、使いやすく教えやすい。二人の主人公が海外と日本国内の様々な場面で対話を進めていく展開で、自然且つ面白く、日本語をより身近に感じさせる。学習段階別に表記が工夫されているのも初級学習者の負担を軽減。 | |
| B5判・402頁・978-4-89476-449-1 定価3150円 (本体3000円) 発行2010.2 | | |

| | | |
|-----------------------------|---|--|
| ▶テキスト (日本語教材) | ビジネス・コミュニケーションのための日本語 | 未刊 |
| 近藤彩他著 | 日本語を使って仕事ができる (CEFRのB2) レベルを目指すテキスト。マーケティングの分析手法も含まれているため、日本人の新入社員向け研修等にも使用可能。ひとつの企業でどのように職務が遂行されていくのか、当事者の立場で疑似体験をしながら課題を遂行していく流れになっている。「企業の求める人材を知る」「企画を立てる」「企画を具体化する」「プレゼンテーションをする」「関連記事を読む」他。 | |
| B5判・978-4-89476-549-8 未刊 | | |

| | | |
|--|--|--|
| ▶テキスト (その他) | 朝鮮語入門 | |
| 油谷幸利著 | 定評ある著者による朝鮮語の入門書。目次：文字と発音〈1〉／文字と発音〈2〉／文字と発音〈3〉／最敬体、指示詞と疑問詞、人称代名詞／指定詞、存在詞、漢数詞、第一類の語尾／連用形、過去時制補助語幹、否定／連体形、固有数詞／尊敬補助語幹、第四類の語尾、第五類の語尾／未来ほか／ぞんざい体／引用文／変則用言〈1〉／変則用言〈2〉ほか | |
| B5判・135頁・7刷・978-4-938669-62-1 定価1365円 (本体1300円) 発行1996.3 | | |

| | | |
|---|--|--|
| ▶テキスト (その他) | 朝鮮語入門2 | |
| 油谷幸利著 | 定評ある著者による朝鮮語入門書の続刊。目次：第1課 敬体と略体／第2課 平叙文と疑問文〈1〉／第3課 待遇法・助詞〈2〉／第4課 感嘆文、音変化〈1〉／第5課 否定／第6課 可能と不可能／第7課 引用文縮約形、命令、勧誘、禁止／第8課 条件文、時、音変化〈2〉／第9課 疑問と否定／第10課 使役と受身、音変化〈3〉 | |
| B5判・153頁・2刷・978-4-938669-91-1 定価1680円 (本体1600円) 発行1997.10 | | |

| | | |
|--|--|--|
| ▶テキスト (New Viewpoints USAシリーズ) | アメリカの市民生活 | |
| 中林眞佐男・堀内夕子・ブライアン コバート著 | 経済的にも、文化的にもアメリカはもともと身近な国でありながら、その生活については意外と知らないことが多いのではないだろうか。市民活動、ボランティア活動から、公共図書館、税金のことなど、あたりまえの生活だが、日本人にとっては意外なことを英語で発見するアメリカ事情シリーズの第一作目。英語のテキスト。 | |
| B5判・64頁・978-4-89476-263-3 定価1050円 (本体1000円) 発行2005.1 | | |

| | | |
|---|---|--|
| | 国際会議の開きかた | |
| 大津由紀雄研究室編 | 国際会議を開く機会が増えました。国内会議とそう変わるわけではないからと高をくくっていると、とんでもない目にあいます。この本は国際会議を10年間にわたって主催してきた大津由紀雄研究室が蓄積したノウハウを一挙公開するものです。国際会議開催の段取りから、開催に必要なさまざまな英語文書の例まで、有益な情報が満載です。これから国際会議を開こうとしている学会などの組織、国際会議開催に興味のある方々のために、役に立つ1冊です。 ★ CD-ROM付 | |
| A5判・136頁・978-4-89476-430-9 定価1680円 (本体1600円) 発行2010.8 | | |

| | | |
|---|---|--|
| | 言語人類学から見た英語教育 | |
| 綾部保志編 綾部保志・小山亘・榎本剛士著 | 英語教育のみならず言語教育に関わる者にとって、文法とは一体何であり、コミュニケーション (言語使用) が行われることで、私たちの社会・文化がどのように構築されているのか、と問い直してみることは意義深い。本書は、これらの問題を一貫的に説明し得る、記号論系言語人類学の包括的な言語コミュニケーション理論を初めて呈示した書である。その上で、日本の英語教育産業や英語教科書に潜む社会文化的意味をも明らかにする。 | |
| A5判・272頁・978-4-89476-445-3 定価2730円 (本体2600円) 発行2009.5 | | |

| | | |
|--|---|--|
| | リフレクティブな英語教育をめざして 教師の語りが拓く授業研究 | |
| 吉田達弘・玉井健・横溝紳一郎・今井裕之・柳瀬陽介編 | 英語教師が成長するとはどういうことだろう。大学で習った教育方法を実行する。学説で聞いたことがある心理 (言語) 学の理論の枠組みで現実を理解する ― はたしてそんなに単純なことだろうか。現実の英語教師は、複雑な状況に投げ込まれ、現実を直視することもできずに、もがき苦しむ。その中で、次第に自分を見つめ直し、問題の整理を始める。その際に、共感的に理解できる第三者は大きな役割を果たす。本書はそういったダイナミックな英語教師の成長を描く。 | |
| A5判・352頁・978-4-89476-447-7 定価2730円 (本体2600円) 発行2009.10 | | |

文学研究への橋渡し

日本文学研究は研究として深化・進化しているもののケータイ小説やライトノベル、現代的な文芸の勃興の中で、日本文学の研究は現在、困難の中にあるようだ。一方、古典文学を含めて、日本文学を楽しみたい、より深く知りたいという要望は、けっして失われているということはないだろう。

新書の出版は盛んに行われている一方で、新書の次の段階の「入門」がほとんど存在しておらず、空隙があるといえるだろう。新書よりも一段階、詳しく、大学生が、レポートを書こうと思ったときに読むべきガイドブックとなるような内容。

大学生が、あるいは大学生以外でも中学・高校の生徒や教師が、最新の議論のテーマの概略を知ることができて、作家・作品の概略を踏まえながらも、「21世紀らしい同時代感覚」の中で、広く、古典文学から現代までの日本文学の新しい情報や楽しみを知ることができる内容を目指す。若い読者にとって日本文学研究への道しるべとなるとともに文学作品をより豊かに読むことができる読むためのガイドブックとなるシリーズを刊行する。

| | | |
|------------------------|---|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 枕草子 |  |
| 三田村雅子著 | 枕草子研究の第一人者である著者が、書き下ろすガイドブック。作者の背景・出自から源氏物語と競合するテキストとしての枕草子を述べ、また、枕草子の論理として、歌枕の文体、沈黙と断片化の構図を論じ、研究史として枕草子へのパッシングなどにも触れる。枕草子の全体像を知りたい・学びたい人にとって斬新な視点を提供してくれるガイドブック。 | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 井原西鶴 |  |
| 中嶋隆編 | 西鶴の魅力を、最新研究成果をふまえながら、わかりやすく解説する。江戸時代初期の出版文化を視野に置き、西鶴の俳諧と浮世草子について、メディア史・東アジア文化史・テキスト構造など多様な観点から言及する。参考文献も豊富に掲載するので、学生には格好の参考書である。井上和人、染谷智幸、森耕一、森田雅也など、気鋭の研究者が執筆。 | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 小林多喜二 |  |
| 島村輝編 | 今世紀に入ってからの「蟹工船」再評価の動きにより、この作品の受容・研究は画期的に進み、また「世界的文学」として海外での新たな翻訳・出版も相次いでいる。「蟹工船」以外の作品や、多喜二その人についての関心も高まってきた。こうした動向を受けて、本書は先行する多喜二研究と受容の軌跡を踏まえながら、この間の新たな展開を視野に入れ、今後の「多喜二」を軸とした文学研究の方向性を展望しようとするものである。 | |

| | | |
|------------------------|--|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 源氏物語 |  |
| 安藤徹著 | 「源氏物語千年紀」を経て、いま改めていかに『源氏物語』を読み、そして学ぶか。『源氏物語』を愉しむだけではなく、さらに一步踏み出して学ぼうとする人、『源氏物語』の研究の世界をめざす人におくる“サバイバルキット”。I『源氏物語』投錨（概説）、II読みの歴史・研究の歴史、III来るべき研究の視角、IV研究のレッスン（実践例）、V主要研究文献散策（いずれも仮題）。そのほか、要語解説やコラム、索引なども備える。 | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 徳田秋聲 |  |
| 紅野謙介著 | 徳田秋聲は日本の自然主義文学の代表的な作家のように言われてきた。同時に広津和郎や林芙美子、野口富士男、古井由吉、中上健次といった一筋縄ではいかない作家たちが秋聲受容の系譜を支えている。近代日本の散文をめぐる新たな冒険家であり、かつまた物語的思想力の伝統をくみ上げながら、「文学場」の生成に立ち会ったひとりの作家の軌跡を、その受容史とともにたどる。 | |

| | | |
|------------------------|---|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 松尾芭蕉 |  |
| 佐藤勝明編 | 松尾芭蕉の人とその文学を知るための入門書。韻文史に芭蕉が登場した意義をはじめ、その生涯、攝取した先行文学、蕉門の人々、関連する俳書、主要研究書などを紹介。さらに筆跡の問題、紀行文や俳論の特色、当代俳壇での位置や後世への影響など芭蕉に関する興味深いトピックを集めた。執筆者：佐藤勝明・伊藤善隆・金田房子・中森康之・越後敬子・大城悦子・黒川桃子・小財陽平・山形彩美・小林孔・金子俊之・永田英理・竹下義人・玉城司 | |

英語教育の「意味」ある実践 これから英語教師を目指す人のために（仮）

| | |
|-----------------|--|
| 柳瀬陽介・組田幸一郎・奥住桂編 | 本書は、英語教師を目指す若者にこれからの見通しを与え、かつさらに広い読者層に日本で英語を教育することの「意味」を示す書である。英語教師の実態を、実践者・経験者ならではの具体的なエピソードや教員としての充実感を盛り込みながら描く。自らが観察した現実を、もう一度自分で分析し直すことによって、「虫の目」と「鳥の目」の両方を兼ね備えたような見通しのよい記述を目指し、単なる「上から目線」ではない教師としての本音を描く。 |
|-----------------|--|

| | | |
|---------------------|---|---|
| 学びのための英語学習理論 | つまずきの克服と指導への提案 |  |
| 中森誉之著 | 英語学習者の代表的なつまずきの原因と克服の方法を、言語習得と言語処理の理論を援用しながら系統立てて考察し、実践と理論の調和から、より効果的かつ効率的な英語指導が展開できることを示す。英語教師必携の書であるとともに、英語の学習過程におけるつまずきの原因と解決策が示されているので英語学習者にも役立つ。「経験と勘である」と思われ、先輩の指導方法が連綿と受け継がれる英語教育に理論的根拠を与え、「経験と勘」の世界から英語学習を解き放つ。 | |

| | | |
|---------------------|--|---|
| 学びのための英語指導理論 | 4技能の指導方法とカリキュラム設計の提案 |  |
| 中森誉之著 | 本書ではこれまで理論的に組み立てられてこなかった英語の「指導法」を詳述する。効果的な授業を展開するためには本質的にカリキュラム設計とシラバス・デザインの指針が必要である。初級・中級・上級段階での4技能の指導方法を系統立てて説明しつつ、小・中・高・大学までの一貫した教育設計の提案を行う。教育現場での実践に役立ち、更には英語教育の政策立案・制度設計のための基礎となる。これから教壇に立つ人をはじめ、英語教育関係者必携の書。 | |

| | | |
|--------------|---|---|
| ▶テキスト | 物語学入門 |  |
| 三谷邦明・三田村雅子著 | 竹取・伊勢・源氏など日本の物語文学はいかに語られているかをめぐって刺激的かつスリリングな読みを提案します。ハイレベルな物語学の方法をやさしく、粘り強く語りかけていく三谷邦明渾身の〈声〉をお聞き下さい。三谷邦明の遺作を三田村雅子の補訂でお送ります。 | |

| | |
|-----------------------------|--|
| A5判・978-4-89476-481-1 未刊 | |
|-----------------------------|--|

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

| | |
|-----------------------------|--|
| A5判・978-4-89476-513-9 近刊 | |
|-----------------------------|--|

| | |
|-----------------|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 田村俊子 📖 未刊 |
| 小平麻衣子・内藤千珠子 編 | 東京からバンクーバーへ、そして上海へ。女優にして作家、編集者。田村俊子の作品は、そうした特異な人生に裏打ちされながらも、一人の女性の経験にとどまらない、複雑な文化状況の解説に向けて開かれている。いかに新聞や広告の言説とかかわり、女性の官能表現の形成に寄与し、国家や階級と斬り結ぶのか。田村俊子を視座に、〈女性作家〉という強固なイメージの構築過程を明らかにし、そのほころびを探る。 |

| | |
|-----------------|--|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 平家物語 📖 未刊 |
| 高木信著 | 『平家物語』を理論的に読むとはどういうことなのか。従来 of 作者論、成立論、成立圏、諸本論の整理からの入門書とはちがう角度から、『平家物語』に迫ってみよう。「ジェンダー」「怨霊と鎮魂」「権力」「武士と死」「権力」などの物語を構築する諸モチーフから、『平家物語』の世界に分け入っていきたい。と同時に、ゼミでの発表の仕方、卒論の発想のしかた・書き方など、物語へのアプローチの基本的な方法も提示してみる。 |

| | |
|-----------------|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 文芸映画 📖 未刊 |
| 中山昭彦 著 | ジャンルとして形成されかけた一時期はあるものの、〈文芸映画〉という枠組みは思わぬ流動性をはらんでいる。そのような流動性を逆手にとって、純文学作品の映画化のみならず、時代劇や推理物など広範囲にわたる〈文芸映画〉を視野に取める本書は、映画が文学作品の映像による再現ではなく、まったく異なる表現性をもつが故に、映画と文学作品をともに輝かせる機会をもたらうことを明らかにする試みである。 |

| | |
|-----------------|---|
| ▶21世紀日本文学ガイドブック | 村上春樹 📖 未刊 |
| 金子明雄 著 | 現在、村上春樹に関する言説は文学研究・文芸批評の枠を遙かに超えた広がりを見せている。そこには村上春樹について考察しようとする者に自らの方向性を見失わせる混沌がある。本書は、これから村上春樹について考えてみたいすべての人に、これまで語られてきたことの見取り図を示し、これから語られるべきことのヒントを提供する。村上文学の謎とは何か、謎を解くとは何かを知りたい人に向けた、深く読める入門書。 |

| | |
|-------------------------|----|
| A5変形判・978-4-89476-514-6 | 未刊 |
|-------------------------|----|

| | |
|-------------------------|----|
| A5変形判・978-4-89476-515-3 | 未刊 |
|-------------------------|----|

| | |
|-------------------------|----|
| A5変形判・978-4-89476-516-0 | 未刊 |
|-------------------------|----|

| | |
|-------------------------|----|
| A5変形判・978-4-89476-517-7 | 未刊 |
|-------------------------|----|

| |
|--------------|
| ひつじ研究叢書（文学編） |
|--------------|

| |
|----------------|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 |
|----------------|

| |
|-------|
| 鈴木淳 著 |
|-------|

| | |
|----------------------------|--------------------|
| A5判・754頁・978-4-938669-80-5 | 定価15750円（本体15000円） |
| 発行1997.2 | |

| |
|----------------|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）2 |
|----------------|

| |
|--------|
| 中島泰貴 著 |
|--------|

| | |
|----------------------------|------------------|
| A5判・208頁・978-4-89476-459-0 | 定価6090円（本体5800円） |
| 発行2010.2 | |

| |
|-------|
| 千明守 編 |
|-------|

| | |
|-----------------------|----|
| A5判・978-4-89476-578-8 | 未刊 |
|-----------------------|----|

| | |
|----------------------------|------------------|
| A5判・352頁・978-4-89476-561-0 | 定価9240円（本体8800円） |
| 発行2011.3 | 新刊 |

| |
|--------|
| 和田敦彦 編 |
|--------|

| |
|--------|
| 和田敦彦 編 |
|--------|

| | |
|----------------------------|------------------|
| A5判・352頁・978-4-89476-561-0 | 定価9240円（本体8800円） |
| 発行2011.3 | 新刊 |

| |
|--------|
| 和田敦彦 編 |
|--------|

| |
|--------------|
| 助川幸逸郎・相沢正毅 編 |
|--------------|

| | |
|-------------------|----|
| 978-4-89476-565-8 | 未刊 |
|-------------------|----|

| |
|-------------|
| 助川幸逸郎・堀啓子 編 |
|-------------|

| | |
|-------------------|----|
| 978-4-89476-566-5 | 未刊 |
|-------------------|----|

| |
|-------------|
| 助川幸逸郎・堀啓子 編 |
|-------------|

| | |
|-------------------|----|
| 978-4-89476-566-5 | 未刊 |
|-------------------|----|

| |
|-------------|
| 助川幸逸郎・堀啓子 編 |
|-------------|

| |
|-------------|
| 助川幸逸郎・堀啓子 編 |
|-------------|

| |
|-----------------------|
| 鈴木泰恵・高木信・助川幸逸郎・黒木朋興 編 |
|-----------------------|

| | |
|----------------------------|------------------|
| A5判・424頁・978-4-89476-425-5 | 定価2940円（本体2800円） |
| 発行2009.11 | |

| | |
|----------------|--------------------------|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 | 江戸和学論考 〈文部省助成刊行物〉 |
|----------------|--------------------------|

江戸期の和学研究で定評のある著者による現時点での集大成。日本近代の学問を生み出した母胎である和学の研究は、広く、他分野の研究者にも必読の書と言えよう。

| | |
|----------------------------|--------------------|
| A5判・754頁・978-4-938669-80-5 | 定価15750円（本体15000円） |
| 発行1997.2 | |

| | |
|----------------------------|------------------|
| A5判・208頁・978-4-89476-459-0 | 定価6090円（本体5800円） |
| 発行2010.2 | |

| | |
|----------------------------|------------------|
| A5判・352頁・978-4-89476-561-0 | 定価9240円（本体8800円） |
| 発行2011.3 | 新刊 |

| | |
|----------------|------------------------------------|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）2 | 中世王朝物語の引用と話型 〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
|----------------|------------------------------------|

中世王朝物語とその周辺作品を対象にした、中世的な話型と、王朝物語の引用との関連性についての研究。本書の対象とする中世的な話型とは従来の研究史の中で「悲恋通世譚」、あるいは「しのびね型」と一般に称されてきた話型のみを指す。本書は、「しのびね型」という話型生成の中に、「中世」という時代に「王朝」物語を繰り返し再生するという一見矛盾した営みを解く、その鍵を見いだそうとするものである。

| | |
|----------------|---|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 | 平家物語の多角的研究 屋代本を拠点として 📖 未刊 |
|----------------|---|

本書は、平成20年度～22年度科学研究費補助金による共同研究「平家物語の初期形態に関する多角的研究―屋代本を拠点として―」の、3年間にわたる研究成果（調査・報告・講演・シンポジウム）をまとめたものである。研究範囲は、文学研究から言語研究、歴史研究に及び、平家物語研究の新しい時代を切り開く。執筆者は、佐倉由泰・佐々木孝浩・吉田永弘・千明守・伊藤悦子・松尾葦江・大谷貞徳・原田教史・牧野淳司・多ヶ谷有子・内田康・山本岳史・野口実・佐伯真一・高橋典幸・坂井孝一。

| | |
|----------------|---|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 | 国定教科書はいかに売られたか 近代出版流通の形成 📖 新刊 |
|----------------|---|

日本の近代において、教科書というメディアが果たした役割は大きい。特に国定教科書は、全国に及ぶ販売、流通網を形成し、近代の出版、教育、文化と、多方面に幅広い影響を与えていった。本書は、明治期に整備されていくこの国定教科書の販売、流通の実態を、当時の書店の取引や契約の豊富な一次資料をはじめて利用することで、詳細にあとづけていった。あわせて、多くのこれら一次資料を翻刻し、収録しており、今後の教育史やメディア史、あるいは文化史を研究するうえでの貴重な基礎資料ともなる。
★明治期書店販売関連資料付

| | |
|----------------|--|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 | 可能性としてのリテラシー教育 21世紀の〈国語〉の授業にむけて 📖 未刊 |
|----------------|--|

この十数年で、情報の伝えられ方は想定できなかったほどの変化を遂げた。この新しい状況に対応した読解力、表現力とはどのようなものかを考え、21世紀の国語教育がいかにあるべきかを提唱する。現場の教員や国語教育の研究者のみならず、音楽学者や物理学者、フランス文学研究者などの意見も結集させ、こうした時代だからこそ、文学教育にできることを問いかける書。2010年9月に行なわれた、ひつじ書房創立20周年記念シンポジウムをもとに、新たな執筆者を迎えて編集。

| | |
|----------------|---|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 | 21世紀における語ることの倫理 〈管理人〉のいない場所で 📖 未刊 |
|----------------|---|

雑誌、放送などの既存メディアには、編集者やプロデューサーといった、情報の価値を判断する〈管理人〉がいた。現在では、インターネットを通じて、誰のチェックを受けていない情報が、不特定多数の対象にむけて発信されている。こうした〈管理人不在〉の環境の中で、価値ある情報を見分け、情報がやりとりされる〈場〉を維持していくために、われわれがなうことを考える。気鋭の文藝批評家や国際金融専門家などが参加して行なわれた、ひつじ書房創立20周年記念シンポジウムを母胎とする一書。

| | |
|----------------|---------------------|
| ▶ひつじ研究叢書（文学編）1 | 〈国語教育〉とテキスト論 |
|----------------|---------------------|

テキスト論を中心とする、70～80年代に受容された欧米文学理論はもはや過去のものにすぎないのか？　そして文学教育は、「実用性」を欠いた無用の長物なのか？　このような問題意識の下、内外の文学研究と国語教育の歴史を振り返り、〈いま〉という時代に必要な新しい文学教育の理論を提言する。文学教育の場が、「教師が一方的に意見を押しつける場」とも「生徒が言いたい放題意見を言う場」とも違う、「他者との関係を学ぶ場」となることを目指す。執筆者：中村良衛／齋藤知也／馬場重行／中川千春／津島知明／山口徹／安藤徹／助川幸逸郎／前田壘／斎藤昭子／鈴木泰恵／李勇華／孫崎玲／黒木朋興／佐藤清隆／合田陽祐／千金楽健

| | |
|-------------------------|--|
| | 〈教室〉の中の村上春樹  |
| 馬場重行・佐野正俊 編 | 村上春樹の教科書掲載作品（翻訳含）について、新たな教材価値を発掘しようと試みた初の論集。〈教室〉の中に春樹文学を置いた時に浮上する新しい相貌を読者に提供し、文学研究と文学教育研究の両面から村上春樹の新たな可能性を引き出すことを企図して編集された。執筆者：内田樹／田中実／須貝千里／助川幸逸郎／齋藤知也他 対象作品：「青が消える」「レキシントンの幽霊」「鏡」「ハースデイ・ガール」「七番目の男」「待ち伏せ」「ふわふわ」「沈黙」「アイロンのある風景」「パン屋再襲撃」「象の消滅」他 |
| 978-4-89476-551-1 近刊 | |

| | |
|-----------------------------|---|
| | 日本語・国語の話題のネタ  |
| 森山卓郎 編著 | 「蔵人」はなぜ「くろうど」と読む？「ピアノをひく」と「風邪をひく」は関係がある？ ちょっとした小話が国語（日本語）の学びを楽しむ。文字表記、語彙、文法、方言、国語の教育など様々なトピック群に分け、「授業で使える小ネタ」、「実はちょっぴり聞きたかった疑問点」、「どうでもいいけどやっぱり知りたい言葉の豆知識」などを楽しく読める。国語に関わる全ての先生、日本語の先生、大学生の参考図書などに役立つ一冊。 |
| A5判・978-4-89476-541-2 近刊 | |

| | |
|--|--|
| | 私学的、あまりに私学的な 陽気で利発な若者へおくる小説・批評・思想ガイド |
| 渡部直己 著 | 文芸批評家であると同時に教育者でもある著者の、授業で実際に教えている積年の「ネタ」が詰まった一冊。大学就学前からゼミ、大学院レベルまで、段階ごとに分けて、各種媒体で発表されたネタ元となる氏のテキストを配置し、プロによる思想、批評、文学を読むこと、書くことなどのエッセンスを知ることができる。巻末には解説入りの充実した国内外の小説、批評ブックリスト付き。文学や思想が好き、勉強したい人、さらには国語の先生までオススメ。 |
| 四六判・512頁・978-4-89476-525-2 定価2415円（本体2300円） 発行2010.7 | |

| | |
|-------------------------|---|
| | 文学の階層図 『小説の設計図』 <small>レイヤーズ</small> 文学界版文芸時評編+  |
| 前田壘 著 | いったい小説はどのような構造をもって読み手に迫るのか。小説のように形式化から遠い言語が「私的なコード」に大きく依拠してしか読まれない以上、「構造として小説を語ること」は、つねに／すでに敗北を決定づけられている。いつもただしく曖昧な境位に置かれていた味気ない領域（構造）こそをレイヤーとして把握することで、各人により異なる「文学」への視線の違いを乗り越えること目指す。『文学界』連載で好評を博しながら単行本化されていなかった「小説の設計図」を再構成。著者の仕事の原点となる書。 |
| 978-4-89476-550-4 未刊 | |

| | |
|---|--|
| | ひつじアンソロジー小説編Ⅰ |
| ▶ひつじアンソロジーシリーズ | |
| 中村三春 編 | 一般の文学史に出てこないフィクションの名作を選びめぐり、10作家15作品を収録。作家ごとの解説付き。真にフィクションの魅惑に酔うことを望むすべての人々に。[収録作品] 泉鏡花（朱日記）大泉黒石（犬儒哲学者／不死身）江戸川乱歩（火星の運河／白昼夢／踊る一寸法師）牧野信一（西瓜食う人）岡本かの子（花は動し）坂口安吾（紫大納言）立原道造（鮎の歌）太宰治（懶惰の歌留多）椿実（月光と耳の話 ーレデゴンドアの幻想ー）天沢退二郎（赤い胤／小さな魔女／秋祭り）[解説執筆者] 赤間亜生／大沢正善／和田茂俊／伊狩弘／押野武志／中村三春／佐野正人／九里順子／跡上史郎／宮川健郎 |
| 四六判・372頁・2刷・978-4-938669-43-0 定価2447円（本体2330円） 発行1995.4 | |

| | |
|--|--|
| | ひつじアンソロジー小説編Ⅱ 子ども・少年・少女 |
| ▶ひつじアンソロジーシリーズ | |
| 中村三春 編 | 子ども・少年・少女を描いた、現代の童話・児童文学・小説作品を選びめぐり、10作家14作品を収録。各編に珠玉の解説を付すことにより、ジャンルにこだわらず、時代ごと、作家別の文芸様式を味わい、変遷をたどる中で現在におけるその意義を問い直す。[収録作品] 千葉省三（虎ちゃんの日記（抜粋）／十銭）／坪田譲治（枝にかかった金輪）宮沢賢治（十月の末）／北川千代（世界同盟／夏休み日記）／吉屋信子（フリージア／福寿草）／横光利一（滑稽な復讐）／金子光晴（風流尸解記（抜粋）／蛾）／安部公房（探偵と彼）／福永武彦（夜の寂しい顔）／安房直子（小さいやさしい右手）[解説執筆者] 米村みゆき／高橋秀太郎／森岡卓司／山崎眞紀子／中村三春／錦咲やか／野口哲也 |
| A5変形判・280頁・978-4-89476-366-1 定価2100円（本体2000円） 発行2009.4 | |

| | |
|--|--|
| | ひつじアンソロジー詩編 |
| ▶ひつじアンソロジーシリーズ | |
| 中村三春 編 | 現代に発表された日本の現代詩の中から10詩人を取り上げ、大まかに現代詩の流れをたどる。各作品・詩人ごとの分かりやすい解説を付す。優れた作品を再評価。[収録詩人] 尾形亀之助／安西冬衛／村野四郎／永瀬清子／伊東静雄／吉岡実／谷川俊太郎／清水哲男／荒川洋治／伊藤比呂美 [解説執筆者] 和田茂俊／中村三春／虫明美喜／野坂昭雄／赤間亜生／宮川健郎 |
| 四六判・262頁・978-4-938669-69-0 定価2100円（本体2000円） 発行1996.7 | |

| | |
|---|--|
| | テキスト・語り・プロット |
| 清水道子 著 | チャーホフの短編小説「犬を連れた奥さん」の全文分析や、他の短編の分析を行っている。テキスト主義的な分析としてここまで徹底して追求されたものとしては、先例がなく、唯一のものである。ロシア文学以外の分野の文学研究者にも必読の書。 |
| A5判・575頁・978-4-938669-33-1 定価8400円（本体8000円） 発行1994.10 | |

| | |
|------------------|---|
| | PETER TAYLOR'S SOUTH Crossing Boundaries in a “Tennessee Caravan”〈日本学術振興会助成刊行物〉 |
| ▶ひつじ研究叢書（英語文学編）1 | |

| | |
|---|---|
| 茅野佳子 著 | 米国テネシー州出身のピューリツァ賞作家ピーター・テイラーは、日本ではあまり知られていないが、アメリカの人口が田舎から都会へ、南から北へ大移動した時代と大恐慌を背景に、多くの短編と中・長編小説を書いた。本書は、幼少年期の移動体験に焦点を当て、南部文学研究に新たな視点を提供する、米国外では初の総合的テイラー研究書である。 |
| 菊判・296頁・978-4-89476-218-3 定価6300円（本体6000円） 発行2004.2 | |

人文・社会科学への挑戦

ひつじ書房の中で、言語学に限定せず、人文書としての書籍を刊行するシリーズ。言語学、文学、文化人類学、民俗学などのジャンルにおける理論的あるいは批評的な研究を刊行する。たとえば、日本文学のジャンルにおいても、従来の研究の枠におさまりきらない根源的な問いについて答えようとするものになっている。語りと共同体とはどういう関わりにあるのか、読むということはどういうことか、虚構とは何か、文学者がどのように食えるようになったのか、などなど、根本的な課題について意欲的に切り込む論考。文学以外では、身体はどのように形作られるのか、など学習理論から文化人類学にまでかかわるものもある。

*2・4巻は品切れです。

| | |
|---|--|
| <div><div></div>▶未発選書 1</div> | <div><div></div>フィクションの機構</div> |
| <div>中村三春 著</div> <div>四六判・430頁・978-4-938669-27-0</div> <div>定価3262円 (本体3107円)</div> <div>発行1994.5</div> | <div>横光利一・太宰治などをテキストとして今までにない虚構理論を展開する。分析哲学や様々な虚構理論を踏まえつつ、それらの超越をめざす。最もラディカルな局面から小説・詩などの局面を捉え直す根元的虚構理論の書。(書評掲載 山形新聞ほか)</div> |
| <div><div></div>▶未発選書 3</div> | <div><div></div>伝承と言語</div> |
| <div>佐佐木隆 著</div> <div>四六判・320頁・978-4-938669-47-8</div> <div>定価4410円 (本体4200円)</div> <div>発行1995.5</div> | <div>古代語の音韻研究で定評ある著者によるはじめての著書。古代説話の構造主義分析と言語が逆に説話を生み出し、説話を育てていく現象の分析。言語学者、上代文学研究者、そして説話研究者にすすめたい。</div> |
| <div><div></div>▶未発選書 7</div> | <div><div></div>修辭的モダニズム テキスト様式論の試み</div> |
| <div>中村三春 著</div> <div>四六判・365頁・978-4-89476-272-5</div> <div>定価2940円 (本体2800円)</div> <div>発行2006.5</div> | <div>比喩・擬人法・寓意などのレトリックや、断片性・モンタージュなどのテキスト形態は、現代文芸の研究において、ないがしろにされてきた領域である。だが、これらは作家が工夫を凝らし、読者に強い印象を与える要素にほかならない。宮澤賢治と横光利一の文芸様式と、モダニズムのスポーツ小説・内的独白・百貨店小説をテーマとして、テキスト様式論の試みを行うことが本書の志向するところである。</div> <div>▶ 第17回宮沢賢治賞奨励賞受賞</div> |
| <div><div></div>▶未発選書 9</div> | <div><div></div>文学者はつくられる</div> |
| <div>山本芳明 著</div> <div>四六判・326頁・978-4-89476-130-8</div> <div>定価3780円 (本体3600円)</div> <div>発行2000.12</div> | <div>大正期に発生した文学的諸言説の再編成が、人格主義的な作品評価の形成、イデオロギー分析、文学の経済学という3つの視点から明らかにされる。漱石評価の意外な変遷や出版ビジネスの好不調に左右される文学者の悲喜劇など、文学史の常識がくつがえされる。(書評掲載 文學界他)</div> |
| <div><div></div>▶未発選書 10</div> | <div><div></div>物語・オーラリティ・共同体 新語り物序説</div> |
| <div>兵藤裕己 著</div> <div>四六判・368頁・978-4-89476-156-8</div> <div>定価2940円 (本体2800円)</div> <div>発行2002.3</div> | <div>〈口承〉のプロフェッショナル・琵琶法師によって語り継がれてきた平家物語。物語を語る彼らのパフォーマンスを通して、聞き手である民衆と芸能民である語り手たちは、あやうく相互に関係付けられていく。平家はもちろん、歴史的なさまざまな「語り」を対象とし、その特性を踏まえながら「文学」が生まれる根元にせまる。</div> |
| <div><div></div>▶未発選書 11</div> | <div><div></div>メディアの中の読者 読書論の現在</div> |
| <div>和田敦彦 著</div> <div>四六判・288頁・2刷・978-4-89476-157-5</div> <div>定価2310円 (本体2200円)</div> <div>発行2002.5</div> | <div>現在において読書を論じるとはどのようなことか。テレビやビデオゲームといった多くのメディアに囲まれたなかでおこなう読書という行為について、さまざまな読む行為と比較しながら歴史的に考える。</div> |

▶未発選書 12

西田谷洋 著

四六判・284頁・978-4-89476-278-7

定価2940円 (本体2800円)

発行2006.7

▶未発選書 13

中村桃子 著

四六判・360頁・978-4-89476-352-4

定価2940円 (本体2800円)

発行2007.8

▶未発選書 14

大石泰夫 著

四六判・480頁・978-4-89476-374-6

定価3570円 (本体3400円)

発行2007.9

▶未発選書 15

松本和也 著

四六判・330頁・978-4-89476-427-9

定価2940円 (本体2800円)

発行2009.3

▶未発選書 16

任利 著

四六判・226頁・978-4-89476-475-0

定価2940円 (本体2800円)

発行2009.12

▶未発選書 17

中村三春 著

四六判・552頁・978-4-89476-529-0

定価5040円 (本体4800円)

発行2011.2 新刊

認知物語論とは何か？

文学というものは、なにゆえに文学なのだろうか。文学という営みは人間的な行為である。人の持つ、イメージ、ストーリー、認識の構造がそこにはある。文学はただ単に「近代文学研究」が前提として捉えているような意味で存在しているのだろうか？ 本書は、認知科学、認知言語学の視点から、人間の認知活動として文学・物語を捉え直すラディカルな（根元的な）問題設定の試みである。

▶未発選書 18

「女ことば」はつくられる

女は女ことばを本当に話しているのか？ 実は、江戸時代においては女訓書、明治以降は、新聞雑誌、小説などのメディアが作り出した言語なのではないか？「てよ」「だわ」などは、最初、品のないことばとして批判され、次第に上流の女性を示す指標として、広く使われていくというプロセスを実証する。ジェンダー研究の第一人者が、「女ことば」という言語イデオロギーについて、肉薄する。

▶ **第27回山川菊賞受賞**

▶未発選書 19

芸能の〈伝承現場〉論 若者たちの民俗学びの共同体

民俗芸能は「変わらない」「変えたくない」と思われがちなもの。しかし…、民俗芸能は、固定したものではない。演じる人々、見る人々の中で、変わりながら伝承されていくものである。伊豆半島の南、宇久須地域に20年以上、フィールドワークした成果。時に演者の若者と飲み交わし、時に古老に話を聞き、20年間付き合いつ通したエスノグラフィー。芸能する村人たちのフィールドワーク。折口に学び、人々の実際の学びに焦点をあてたレイブとウェンガーの状況論（伝承とは学びの集積なのだ!）をも踏まえた民俗伝承論。

▶ **第2回本田安次賞受賞**

▶未発選書 20

昭和十年前後の太宰治 〈青年〉・メディア・テキスト

本書はスキャンダラスな生涯に彩られた太宰治という作家について、そのイメージに抗しつつ歴史的な視座から考え直したものである。本書ではデビュー期にあたる昭和十年前後に注目し、〈青年〉という歴史的な主題をクローズアップしながら多角的な検討を行った。具体的には、芥川賞事件や青年論ブームといったトピック、あるいは「道化の華」や「二十世紀旗手」などの小説を軸に、太宰治に関わるメディア／テキストの精緻な分析を試み、昭和十年前後の太宰治を根底的に描き直すことを目指した。

▶未発選書 21

「女ことば」は女が使うのかしら？

日本語に観察される話し手の性別による言葉遣いの違いという問題は、多くの関心を集めていて興味の尽きることのないテーマであり、現在なお新たな知見が発見されつつある注目度の高い研究分野である。本書では、いわゆる「女性語」「男性語」といった二項対立的な視点を相対化させ、≪女性性・男性性≫という言語理論を導入し、日本語に観察される女性と男性の言葉遣いの特徴を記述し、その原因を解明する。

▶未発選書 22

新編 言葉の意志 有島武郎と芸術史的転回

🐘 新刊

印象派から未来派まで、短時日のうちに芸術史を駆け抜けた孤高の作家・有島武郎の文学と思想の軌跡を、『或る女』『惜みなく愛は奪ふ』『星座』など代表作を網羅して執拗に追究した。近代の総決算でもあり、現代の出発点ともなったその転回の様相を、〈創造的生命力〉〈小説構造論〉〈芸術史的転回〉〈表象のパラドックス〉の4つのキーワードに即して縦横無尽に論じ切った、著者のテキスト文芸学の到達点。有精堂版を大幅に拡充した増補改訂版。

▶シリーズ文化研究 1

高橋美樹著

A5判・340頁・978-4-89476-464-4
定価8610円(本体8200円)
発行2010.2

▶シリーズ文化研究 1 **沖縄ポピュラー音楽史** 知名定男の史的研究・楽曲分析を通して

沖縄のポピュラー音楽を対象とした初の学術書。沖縄ポピュラー音楽を代表する知名定男は民謡歌手、作詞家・作曲家、プロデューサーという役割を通して、沖縄の文化的伝統に基づきながらも、新時代のマスメディアを駆使しつつ新たな音楽を創造し続けてきた。本書は知名が沖縄人としての民族的アイデンティティー表現を確立するまでの軌跡を、インタビューや文献調査、楽曲分析などを用いて解き明かした。

▶シリーズ文化研究 2

加瀬佳代子著

A5判・280頁・978-4-89476-461-3
定価6720円(本体6400円)
発行2010.2

▶シリーズ文化研究 2 **M.K.ガンディーの真理と非暴力をめぐる言説史**

ヘンリー・ソロー、R.K.ナラヤン、V.S.ナイポール、映画『ガンジー』を通して
〈日本学術振興会助成刊行物〉

本書は「M.K.ガンディーの非暴力」から「現代の非暴力」に至るまでの変化の過程を追跡し、非暴力をめぐる言説分析を通して、非暴力という思想について批判的に考察したものである。ガンディーの非暴力には支配的側面があったこと、非暴力は社会に広がるにつれて形を変えたが、その支配性の影響は現代に及んでいることを明らかにしている。

▶ひつじ研究叢書(芸能編) 1

橋本裕之著

A5判・544頁・978-4-938669-81-2
定価9684円(本体9223円)
発行1997.2

▶ひつじ研究叢書(芸能編) 1 **王の舞の民俗学的研究**〈文部省助成刊行物〉

若狭地方に残る王の舞は中世前期から受け継がれた数少ない芸能の一つである。本書は、若狭地方という民俗社会になぜ王の舞が残っていたのか、芸能史と民俗学を基盤として、文化人類学的な新しい知見とともに、その実態にせまるものである。また、民俗芸能という身体技法の謎にもせまる。

▶ひつじ研究叢書(芸能編) 2

藤田隆則著

A5判・326頁・978-4-89476-120-9
定価12600円(本体12000円)
発行2000.2

▶ひつじ研究叢書(芸能編) 2 **能の多人数合唱**〈文部省助成刊行物〉

本書では、世阿弥の時代から現代にいたるまでの演出の資料に基づいて、多人数合唱箇所(「同音」あるいは「地」と呼ばれる)の演出方法について考察する。従来の能研究の手法とは異なり芸術学的手法に基づく芸能記述の研究。

▶ひつじ選書 1

秋永一枝著

四六判・238頁・2刷・978-4-89476-139-1
定価1680円(本体1600円)
発行2001.2

▶ひつじ選書 1 **東京弁は生きていた**

下町育ちの国語学者である著者が、生粋の江戸っ子たちと話をし、東京弁を集め、分析したもの。今はもう失われてしまった愛すべき言葉たちへのレクイエム。

▶ひつじ選書 2

杉本つとむ著

四六判・333頁・978-4-938669-79-9
定価2447円(本体2330円)
発行1997.3

▶ひつじ選書 2 **江戸長崎紅毛遊学**

江戸時代の知識人にとって長崎留学は夢であった。世界に開いた窓である長崎。そこからオランダ文化は吸収されていくのであった。蘭学・洋学研究の第一人者である著者による江戸文化のエッセイ。

▶ひつじ選書 2 **ジャワの宗教と社会**

スハルト体制下インドネシアの民族誌的メモワール〈日本学術振興会助成刊行物〉

福島真人著

A5判・430頁・978-4-89476-151-3
定価6720円(本体6400円)
発行2002.2

80年代インドネシア・ジャワで繰り広げられた、国家と諸宗教の複雑な闘争のドラマ。スハルト体制下の錯綜とした宗教潮流を、数年にわたる綿密な調査から再演した民族誌的研究。

| 中国現代文学 | |
|---|---|
| ▶中国現代文学 1 | 中国現代文学 1 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 18年続いた『季刊中国現代小説』の停刊から2年8ヵ月。新たなメンバーのもと、装いも新たに、同時代の中国文学翻訳誌が創刊された。小説、随筆等、現代中国の珠玉の作品を、同人の厳しい検討を経た優れた訳文によって紹介。年2回、春と秋に刊行。収録作品：残雪「阿娥」（翻訳：近藤直子）／張小波「まことしやかに」（翻訳：上原かおり）／史鉄生「“そっと去る”と“そっと来る”」他三篇（翻訳：栗山千香子） |
| A5判・166頁・978-4-89476-399-9 定価2100円（本体2000円） 発行2008.4　在庫僅少 | |
| ▶中国現代文学 2 | 中国現代文学 2 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 現代の中国文学を紹介する翻訳誌の第2号。現代中国の実力派作家の珠玉の小説と随筆を同人の厳しい検討を経た質の高い訳文で掲載する。収録作品：畢飛宇「コオロギ　コオロギ」／徐坤「郷土中国」／李馮「短編二編（譚嗣同、ぼくらは鯨を見た）」／阿成「カラス」／史鉄生「人形（ひとがた）の空白」「叛逆者」（『記憶と印象』より）／残雪「趨光運動（序、第1章）」。 |
| A5判・168頁・978-4-89476-420-0 定価2100円（本体2000円） 発行2008.10 | |
| ▶中国現代文学 3 | 中国現代文学 3 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 現代の中国文学を紹介する翻訳誌の第3号。現代中国の実力派作家のすぐれた小説や随筆、漫画を、同人の厳しい検討を経た質の高い訳文で掲載する。収録作品：莫言「月光斬」／紅柯「鷹影」／張学東「ある人の旅立ちを見送る」／史鉄生「ふる里」「九階建てビル」「廟の思い出」（『記憶と印象』より）／張曉雨「発明家喬正飛」（漫画）。 |
| A5判・184頁・978-4-89476-454-5 定価2100円（本体2000円） 発行2009.5 | |
| ▶中国現代文学 4 | 中国現代文学 4 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 現代の中国文学を紹介する翻訳誌の第4号。実力派作家・新鋭作家の珠玉の小説や随筆を、同人の厳しい検討を経た質の高い訳文で掲載する。収録作品：蘇童「泥棒」／裘山山「足の甲」／張悅然「黒猫は眠らない」／陳染「離婚した者たち」／残雪「陰謀の網」／史鉄生「重病のとき」「八子」「映画を見たころ」。 |
| A5判・176頁・978-4-89476-487-3 定価2100円（本体2000円） 発行2009.11 | |
| ▶中国現代文学 5 | 中国現代文学 5 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 現代中国の実力派作家の作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第5号。北の大地の物語を紡ぐ遲子建の中編小説「世界中のすべての夜」／上海と上海人を活写する陳丹燕の短編小説「X ON THE BUND」／北京の胡同に流れる記憶を辿る史鉄生の随筆集『記憶と印象』より「珊瑚（シャンシャン）」「小恒（シャオホン）」などを掲載する。 |
| A5判・140頁・978-4-89476-496-5 定価2100円（本体2000円） 発行2010.5 | |
| ▶中国現代文学 6 | 中国現代文学 6  新刊 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 現代中国の実力派作家の作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第6号。張小波「検察大官」（監獄を舞台とした寓意に満ちた物語）、徐則臣「アヒルが空を飛ぶなんて」（アヒルを追って暮らす少女少女に突然訪れた試練）、鮑十「子洲の物語」（「初恋の来た道」の原作者が描く少年と祖父の心暖まる交流）、全勇先「昭和十八年」（そのとき満州の一角で起こったある事件）、史鉄生「海棠の老木」「孫姨（スンイー）と梅娘（メイニャン）」（記憶の中の祖母／幻の作家・梅娘との奇しき出会い）、などを掲載する。 |
| A5判・196頁・978-4-89476-555-9 定価2100円（本体2000円） 発行2010.10　新刊 | |
| ▶中国現代文学 7 | 中国現代文学 7  新刊 |
| 中国現代文学翻訳会 編 | 現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第7号。掲載作品：劉慶邦「月は遥かに」（中秋節に出稼ぎ先から村に帰ってきた夫は…）、残雪「埋葬」（男は慣れ親しんだものを次々に埋めていき…）、畢飛宇「虹」（高層マンションに暮らす老夫婦は不思議な少年に出会い…）、蘇童「キンモクセイ連鎖集団（チェーングループ）」（嘘つきリウは都会でキンモクセイを売り始めたが…）、史鉄生「Mの物語」「B先生」（“反動”と呼ばれて孤立した少女は…／少年にとって理想だった先生…）。このほか、昨年未急逝した史鉄生に関する解説・資料などを掲載する。 |
| A5判・978-4-89476-556-6 定価2100円（本体2000円） 発行2011.5　新刊 | |

*『中国現代文学』は2008年4月創刊、年2回発行。

| | |
|---------------------|---------------------------------|
| ▶ひつじ市民新書 001 | 市民の日本語 NPOの可能性とコミュニケーション |
|---------------------|---------------------------------|

| | |
|---|--|
| 加藤哲夫 著 | 新しい社会を作り出していく為には、新しいコミュニケーション方法が生み出されなければならない。市民の新しいコミュニケーション、マネジメントの技法を考える一冊。個人間コミュニケーションから社会的コミュニケーションの変革へ。日本語について考えるすべての人へおくる本。 |
| 新書判・212頁・2刷・978-4-89476-166-7 定価730円（本体695円） 発行2002.9 | |

| | |
|--|---|
| ▶ひつじ市民新書 002 | 市民教育とは何か ボランティア学習がひらく |
| 長沼豊 著 | ボランティアについて学校で教えられている。しかし、生徒に対する単なる徳目教育になっていないだろうか。基本的には、何をするかを自分たちで決めるところから、はじまるのではないか。市民社会は、参加する市民によって成り立つ。そのための教育について考える。 |
| 新書判・224頁・978-4-89476-185-8 定価730円（本体695円） 発行2003.1 | |

| | |
|---|---|
| 目覚めよ!チャレンジ精神 起業家精神を有する人材の育成にむけて | |
| 神奈川県自治総合研究センター編 大濱信宏 著 | 本書は、学校教育の中に起業家教育をどう位置づけるかを考察したものである。起業家教育は金儲け教育ではなく、子ども達に、多様な可能性をしめすことにつながっているのだ。また、そのことは「生きる力」を育てる「総合的な学習の時間」にもっとも適した内容ではないだろうか。 |
| A5判・80頁・978-4-89476-167-4 定価1050円（本体1000円） 発行2003.3 | |

| | |
|---|---|
| 21世紀の公私年金政策 米国とスエーデンの最新動向 | |
| 渡部記安 著 | 日本でもすすめられつつある401Kについて米国の現状を調査研究した。エンロン事件などで問い直されている401Kについての基本文献。 |
| A5判・328頁・978-4-89476-208-4 定価4830円（本体4600円） 発行2003.12 | |

| | |
|---|---|
| 21世紀の学問のすすめ ユビキタス社会を生きるために | |
| 夏木好文 著 | 中学生から中高年まで幅広い層の方々のユビキタス社会入門書としておすすめ。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」福沢諭吉と現代。 |
| A5判・104頁・978-4-89476-207-7 定価1470円（本体1400円） 発行2003.10 | |

| | |
|--|---|
| 草の根NPO運営術 | |
| 澤村明 著 | 日本でもすっかり定着したとって過言ではない、NPO。本来は市民活動団体に法人格を与えるという趣旨で成立した法制度であるが、そうした法制度を超えて一般化している。そうした中、これからNPOにしたいと考えている市民活動団体や、NPOになったばかりの団体、あるいはNPOになったが運営に悩んでいる団体に向けたメッセージが本書である。NPOの運営は、営利企業より難しいといわれている。その運営のための心がけについてまとめた1冊である。 |
| A5判・146頁・978-4-89476-333-3 定価1785円（本体1700円） 発行2006.6 | |

| | |
|---|---|
| 立岡浩 編 | 公民パートナーシップの政策とマネジメント |
| A5判・220頁・978-4-89476-295-4 定価2520円（本体2400円） 発行2006.11 | 公民パートナーシップ（PPP）の政策とマネジメントとして、行政、NPO、コミュニティのそれぞれの各セクターが主体となる3つの視角から考察する。第1部 行政主体PPP編。金川幸司　自治体とNPOの協働とその評価／谷岡慎一　自治体改革とPPP／東郷寛　官民協働事業における非営利組織の役割／第2部 NPO主体PPP編。桜井政紀　公民学パートナーシップによるボランティア活動の実施とその支援政策について／金森康　起業期のNPOの潜在成長力評価について／真野俊樹　エイズ政策とNPO活動の現状分析／吉田忠彦　公設民営の課題／第3部 コミュニティ型PPP編。今井良広　　イングランドにおけるローカル・パートナーシップの展開／立岡浩　行政計画マネジメントと市民参加デザイン／伊佐淳　　地方自治体とNPOとの協働によるまちづくり |

| | |
|--|---|
| ▶メディアとコミュニケーション叢書 第1巻 | デジタルテキストの技法 |
| 家辺勝文著 | テキストを電子的にやり取りするとはどういうことなのか。そのために考えておく必要があることは、どういうことか。電子リテラシーの基礎を考えていく現在に必須の本。すべての文字を書く人にすすめたい。 |
| A5判・182頁・978-4-89476-100-1 定価2520円(本体2400円) 発行1998.7 | |

| | |
|--|--|
| ▶メディアとコミュニケーション叢書 第3巻 | ルネッサンスパブリッシャー宣言 |
| 松本功著 | 昭和からつい数年前まで、出版はバブルの中にあった。「近代化」と「大衆化」の大きな流れでの従来の本の役割は終焉してしまったと考える著者による、本の将来について真摯に考える本。電子本、インターネットなどの新しいテクノロジーの中で少数数出版の意義をとらえ直す。新しい出版社、編集者の役割を提唱する。 |
| A5判・200頁・978-4-89476-102-5 定価2310円(本体2200円) 発行1999.5 | |

| | |
|---|--|
| ▶マッキントッシュのできる外国語シリーズ | マックで中国語 |
| 内田慶市・野原康宏著 | マッキントッシュで中国語を入力・処理・出力するための本。アップル社が出した中国語キットを組み込むことで容易に日本語や英語などと混ぜて入出力ができるのだが、中国語キットには日本語のマニュアルがっていない。実際に中国語を使うときに必要なノウハウを満載。 |
| A5判・208頁・978-4-938669-71-3 定価2447円(本体2330円) 発行1996.7　在庫僅少 | |

| | |
|--|--|
| | ひらけ! T-TIME |
| 多村栄輝・仲晃生・LUNA CAT 著 | オンライン読書ソフトT-Timeに身も心も捧げた3人のファンブック。T-Timeは、読むためのソフトだが、T-Timeのタグをテキストやhtml文書に埋め込むことで本のように表示させることができ、また、T-Timeパブリッシャーキットを使うことで、パスワード付きの文章にしたりもできる。様々なチップスと蘊蓄の本。 |
| A5判・144頁・978-4-89476-109-4 定価1365円(本体1300円) 発行1999.9 | |

| | |
|---|---|
| | ネチケット |
| バージニア・シャー著 松本功訳(協力菊地敦子) | インターネット、パソコン通信、コンピュータによる通信が常態化した時代の必読書。本書を読んでもいれば、通信の世界で非難を浴びせられなくて済むはず。ネットワーク社会が、住み良い楽しいものになる。 |
| A5判・202頁・978-4-938669-67-6 定価1575円(本体1500円) 発行1996.10 | |

| | |
|---|---|
| | インターフェイス コンピュータと対峙する時 |
| 関口久雄著 | 今ではあたりまえの存在となったコンピュータを、「インターフェイス(葛藤の場、折り合いのつけ方)」という視点から読み直した社会文化史。【内容と形式】を不可分のものとして考えるブリコラージュという手法を採用。詳細な注はコンピュータをめぐる状況を知るには必見。 |
| A5判・256頁・978-4-89476-178-0 定価2520円(本体2400円) 発行2002.12 | |

| | |
|--|--|
| | ポスターの社会史 大原社研コレクション |
| 法政大学大原社会問題研究所編 梅田俊英著 | 大原社会問題研究所は戦前、ポスターやビラ、チラシの類を収集していた。それらは戦前の人々のメディア活動を記録するものである。その貴重な資料の中から代表的な物を選び、解説。さらにポスターのメディア史上の意味を通観。2700枚のポスターをCD-ROMに収録している。 ★CD-ROM付 |
| A5判・134頁・978-4-89476-148-3 定価2520円(本体2400円) 発行2001.10　在庫僅少 | |

| | |
|--|--|
| ▶W-SOHO BOOKS 第1巻 | たなぼた主義 自分のほしいものを作る、自分の夢をかなえる |
| 伊藤淳子著 | 他の人より先をよみ、自分の夢・アイデアを実現することを仕事にしてきた著者がこれまでの活動をもとに女性にエールを送る本。新しいタイプの女性向けビジネス書。 |
| B6判・126頁・978-4-89476-168-1 定価630円(本体600円) 発行2003.1 | |

| | |
|--|---|
| ▶W-SOHO BOOKS 第2巻 | 営業のビタミン 仕事やお客さんがどんどんやってくる |
| 和田裕美著 | 開業する場合も、セールスをする場合も、子供が親に何かを頼むときも、「営業」は、基本。生きる根元に「営業」はあるといえるでしょう。トップセールスの実績を持っている和田によるわかりやすく、元気になる営業術の本。 |
| B6判・120頁・4刷・978-4-89476-169-8 定価630円(本体600円) 発行2002.6　在庫僅少 | |

| | |
|--|--|
| | ひさみをめぐる冒険 HISAMI LIVES AMERICA |
| 大柴ひさみ著 | 語学をものともせずに38歳でアメリカに渡りサンフランシスコで米国に進出する日本企業に対するコンサルティング・ビジネスを立ち上げる。アメリカ人の夫と生活する中で、異邦人の眼でみた「アメリカのビジネスや生活のリアリティ」を臨場感あふれる生の声でつづった元気が出るエッセイ。 |
| 四六判・180頁・978-4-89476-186-5 定価1680円(本体1600円) 発行2003.2 | |

| | |
|--|--|
| | 僕らには親が別れても愛される権利がある! 養育費実態調査 |
| NPO法人Wink編 | 「離婚後、養育費を受け取っている人が約2割しかいない実情を知っていますか?」親になることをみんなで考えるための一冊。 |
| A5判・144頁・978-4-89476-187-2 定価1575円(本体1500円) 発行2003.3 | |

| | |
|---|---|
| | 自分でデキル養育費強制執行マニュアル |
| 新川てるえ著　榊原富士子監修 | 民事執行法改正により、未払いの養育費の差押えが将来分にわたり可能となった。この手続きを弁護士を介さずに行う方法の紹介と実行した著者の報告。養育費問題に対するシングルマザー&ファザーの生の声。 |
| A5判・176頁・2刷・978-4-89476-219-0 定価1680円(本体1600円) 発行2004.4 | |

| | |
|--|--|
| | 離婚後の親子関係サポートBOOK |
| 新川てるえ編 | 離婚家庭を支える立場にいる自立支援員や福祉担当者は、どのような知識を身に付ければいいのか。窓口などで寄せられる相談に対して的確なアドバイスができるように、正しい法律の知識、離婚家庭の抱える悩み、養育費や面接交渉に向けた取り組み方などを紹介していく。既刊『自分でデキル養育費強制執行マニュアル』『離婚家庭の面接交渉実態調査』の加筆修正に、カウンセリングのやり方について解説した章を新たに加えた構成。 |
| A5判・142頁・978-4-89476-297-8 定価1680円(本体1600円) 発行2006.4 | |

▶進化する図書館

進化する図書館の会編

A5判・64頁・2刷・978-4-89476-143-8
定価630円(本体600円)
発行2001.7 在庫僅少

▶進化する図書館

松本功著

A5判・108頁・2刷・978-4-89476-160-5
定価945円(本体900円)
発行2002.6

▶進化する図書館

ライブラリーマネジメント研究会編

A5判・120頁・978-4-89476-194-0
定価1050円(本体1000円)
発行2003.4

いま、図書館に求められるもの フェリス女学院大学の挑戦1

読書を通して学びを見つける

フェリス女学院大学附属図書館著

四六判・144頁・978-4-89476-433-0
定価1890円(本体1800円)
発行2009.3

大学生『火車』を読む フェリス女学院大学の挑戦2

「私たちの学びたいこと」と題する授業で、宮部みゆきの『火車』を取り上げ、学生80人がそれぞれ、都市とは、家族とは、多重債務とは、犯罪とは、語りとは何かを考え、縦横に論じ合った記録。大学の読書運動の一環として始められ、それぞれの小ささが確かな手ごたえとともに終了した講座の初々しくも鋭い「論文」集である。

フェリス女学院大学附属図書館著

四六判・252頁・978-4-89476-434-7
定価1890円(本体1800円)
発行2009.3

情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイドブック

類縁機関名簿2005

東京都立中央図書館編

A5判・408頁・978-4-89476-259-6
定価2940円(本体2800円)
発行2005.4

都立中央図書館が、長年、情報調べや利用者からの問い合わせに答えるために使用してきた専門機関のリスト(類縁機関名簿)を元に、広く一般に公開するために再編集した。収録している機関は、専門分野に関する資料を所蔵し、原則として一般公開により、文献・情報サービスを行っている専門情報機関。これらの専門機関について得意とするジャンルや収集している文献の特徴などから検索できる索引を都立中央図書館の経験とノウハウに基づいて付記。

A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules

〈日本学術振興会助成刊行物〉

谷口祥一著

菊判・340頁・978-4-89476-332-6
定価17850円(本体17000円)
発行2007.2

図書館などにおける情報(資料)組織化は、主に所蔵資料に対する目録の作成によって行われてきた。近年、その詳細を規定した目録規則は、対象とする資料群の多様化や利用者要求の高度化を受けて、さらなる進展を求められている。本書は、(a)目録を対象とする新たな概念モデルの提案、および(b)目録規則の新たな概念設計法の提案を行い、その有効性や実現可能性を検証し、目録および目録規則の最適な設計という課題に応える図書館情報学のフロンティアである。

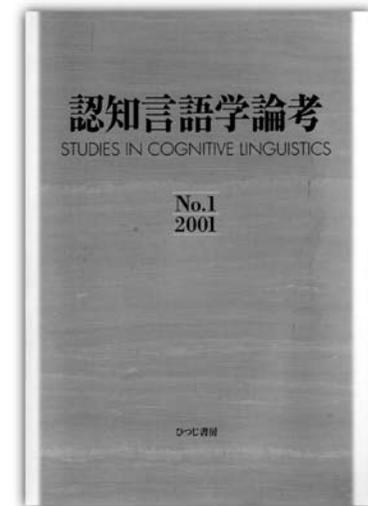
第36回日本図書館情報学会賞受賞



編者 山梨正明(京都大学教授)

認知言語学は、経験科学としての言語学の方向性を、根源的に問い直す新しいパラダイムとして着実に進展しています。これまでも、認知言語学の入門書、翻訳書が出版されていますが、大半は文法論と意味論の概説書が中心となっており、音韻・形態論、語用論、言語類型論、歴史言語学、言語習得論、言語教育論、等の領域までを視野に入れた体系的な認知言語学の研究書は、国内外においても得難い状況にあります。本シリーズは、以上の言語学の関連部門の研究における知見の交流の場となることを願って創刊されました。

2001年に刊行されてから現在まで、年に一卷のペースで着実に刊行を続けています。本シリーズには、認知言語学の第一線で活躍している研究者から新進気鋭の若手の研究者までの論文が掲載されています。掲載される論文の研究テーマは、文法論、意味論、音韻・形態論、語用論、レトリック、記号論、言語類型論、言語習得論、言語教育論、認知心理学、自然言語処理、等と非常に多岐に渡っています。本シリーズは、認知言語学の分野の研究者、認知言語学の枠組みに基づく卒論、修論、博士論文をめざす学生だけでなく、言葉の研究・教育と言葉の関連分野の研究・教育に携わる先生方にとっても必読の研究書です。国内において、認知言語学の最先端の独創的な論文を継続的に掲載している研究書のシリーズは、本書の他にありません。その意味で、本シリーズは、認知言語学と言語学の関連分野にとって、きわめて貴重な研究書といえます。本書の刊行が、認知言語学と言語学の関連分野の研究・教育の推進の一翼を担っていると言っても過言ではありません。



認知言語学論考は、これからも国内外の第一線の研究者のオリジナルな研究成果を発表する場を提供していきます。今後も、購読者の皆さんの一層のご支援を期待しております。

▶認知言語学論考1

山梨正明他編

A5判・320頁・978-4-89476-144-5
定価3990円(本体3800円)
発行2001.9

認知言語学論考 No.1

執筆者：山梨正明 ことばの科学的認知言語学的シナリオ／榎山洋介 多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩／中村芳久 二重目的語構文の認知構造／高橋英光 英語の間接照応／本多啓 文構築の相互行為性と文法化／堀江薫 膠着語における文法化の特徴に関する認知言語学的考察／野村益寛 参照点構文としての主要部内在型関係節構文／吉村公宏 人工物主語

▶認知言語学論考2

山梨正明他編

A5判・320頁・978-4-89476-184-1
定価3990円(本体3800円)
発行2003.4

認知言語学論考 No.2

執筆者：森雄一 明示的提喩・換喩形式をめぐる／鍋島弘治朗 メタファーと意味の構造化／岡智之 存在構文に基づく日本語構文のネットワーク／坂本真樹 生態学的知覚論、心の理論、属性描写文の認知意味論／本多啓 協同注意の統語論／宇野良子・池上高志 ジョイントアテンション／予測と言語

▶認知言語学論考3

山梨正明他編

A5判・272頁・978-4-89476-220-6
定価3990円(本体3800円)
発行2004.4

認知言語学論考 No.3

執筆者：池上嘉彦 言語における〈主観性〉と〈主観性〉の言語的指標(1)／上原聡 何故プロトタイプ構造か／二枝美津子 被動者-主語文の認知言語学的分析／足立公平 ヲ格と道具目的語／李在鎬(リ・チェホ) 認知事象の複合的制約に基づく結果構文再考

▶認知言語学論考 4

山梨正明他編

A5判・272頁・978-4-89476-243-5
定価3990円(本体3800円)
発行2005.6

認知言語学論考 No.4

執筆:池上嘉彦 言語における〈主観性〉と〈主観性〉の言語的指標(2)／中村涉 格システム・格融合の類型論-認知-機能主義的アプローチ／菅井三実 格の体系的意味分析と分節機能／黒田航・中本敏子・野澤元 意味フレームに基づく概念分析の理論と実践／山泉実 シネドキの認知意味論へ向けて-類によるシネドキ再考

▶認知言語学論考 5

山梨正明他編

A5判・243頁・978-4-89476-294-7
定価4410円(本体4200円)
発行2006.9

認知言語学論考 No.5

執筆:貞光宮城 共感覚表現の転用傾向について-嗅覚と聴覚／視覚を中心に／崎田智子 伝達動詞 go の意味拡張-メタファーとメトニミーの視点から／平井剛 英語中間構文の意味構造／酒井智宏 差異否定型トトロジー／森山新 多義語としての格助詞 de の意味構造と習得過程／Yoshikata Shibuya Conceptual Evolution: The Quality-Quantity Continuum in Good / Yuki-Shige Tamura Characteristics of English Sound-Emission Path Construction: A Prototype Cross-Linguistic Account

▶認知言語学論考 6

山梨正明他編

A5判・288頁・978-4-89476-365-4
定価4410円(本体4200円)
発行2007.9

認知言語学論考 No.6

執筆:篠原和子 空間認知実験と時間メタファー／松本曜 語におけるメタファーの意味の実現とその制約／村尾治彦 結果構文における認知領域と拡張の方向性／長谷部陽一郎 英語と日本語の分裂文-認知文法による対照研究／谷口一美 抽象化の発達と言語習得の相関をめぐって／出原健一 Go の意味論-認知的視点から／安原和也 Blended Referents in Aesop's Fables: A Conceptual Blending Approach

▶認知言語学論考 7

山梨正明他編

A5判・308頁・978-4-89476-411-8
定価4410円(本体4200円)
発行2008.9

認知言語学論考 No.7

執筆:大月実 命名と名前-命名論の新たな地平／嶋田裕司 前置詞の意味構造-空間の中の区域と方向／浜田秀 カテゴリーとしての詩-余白の生み出す民俗詩学／樋口万里子 英語の未来表現-認知文法の観点から／永澤清 様態副詞から文副詞へ-日本語の副詞「明らかに」の歴史的变化を追って／青山康高 A Usage-Based Model of Linguistic Relativity / Rungthip Rattanaphanusorn and Kingkarn Thepkanjana The Grammaticalization of the Verb of Seeing as an Evidential Marker in Thai

▶認知言語学論考 8

山梨正明他編

A5判・344頁・978-4-89476-482-8
定価4410円(本体4200円)
発行2009.9

認知言語学論考 No.8

執筆:碓井智子 時間認知モデル／金杉高雄 カテゴリー拡張に基づく英語指示代名詞の認知的分析／今井澄子 英語進行形文法化の認知言語学的解釈／進藤三佳 視覚形容詞から強調詞への意味変化／早瀬尚子 形容詞か副詞か?／大谷直輝 英語の不変変化詞が表す主観の意味について／仲本康一郎 予期の構造と言語理解

▶認知言語学論考 9

山梨正明他編

A5判・284頁・978-4-89476-530-6
定価4410円(本体4200円)
発行2010.12 新刊

認知言語学論考 No.9

執筆:初山洋介 百科事典の意味観／深田智 セッティング主語構文の発現と拡張-“The garden is swarming with bees.”タイプの事例を中心に-／長谷部陽一郎 構文のネットワークモデルについて:二重目的語構文を中心に／野呂健一 現代日本語の名詞反復構文-構文文法と類似性の観点から／木原恵美子 転移修飾表現の修飾構造とその動機付け／横森大輔 認知と相互行為の接点としての接続表現:カラとノデの比較から／Yuki-Shige Tamura and Miyagi Sadamitsu Bridging the Gap between Grammar Instruction and Cross-Cultural Communication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classrooms



新刊

▶メディアとことば 1

三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編

A5判・274頁・978-4-89476-215-2
定価2520円(本体2400円)
発行2004.3

メディアとことば 1 特集:「マス」メディアのディスコース

言語学系と社会学系の研究者が、ことばの側からメディア研究へアプローチ。メディアとことば研究会誌の第1弾。執筆:村田和代 テレビコマーシャルの好感度-世代別言語ストラテジーの視点から／竹野谷みゆき 言語行為としての謝罪広告-違法香料事件をめぐる新聞広告の分析／本田厚子 テレビ討論における司会者の役割-討論の「進行管理」はいかになされるか／三宅和子 スポーツ実況放送のフレーム-放送に向けられた視聴者の不快感を手がかりに／佐藤彰 皇室報道における引用-その歴史的考察／大原由美子、スコット・サフト 新聞論議にみる9・11-国家アイデンティティの表象とイデオロギー／岡本能里子 メディアが創るヒーロー 大リーグ-松井秀喜-イチローとの比較を通して／辻大介 広告のどこに問題があるのか-消費社会における現実と虚構のゆらぎ

▶メディアとことば 2

三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編

A5判・276頁・978-4-89476-260-2
定価2520円(本体2400円)
発行2005.9

メディアとことば 2 特集:組み込まれるオーディエンス

メディアとことば研究会誌の第2弾。執筆:村松賢一 ニュース番組における「おしゃべり」-キャスター同士の会話は何をしているのか／塩田英子 パラエティ番組における文字テロップの役割-発話理解のしくみを探る／高橋圭子『クローズアップ現代』の〈物語〉-メディア・テクストの批判的分析／是永論・酒井信一郎「広告」はいかにして「広告」に見えるのか-「メッセージ」としての「リスク」の理解に向けて／岡田光弘 身体の動きの表象を「自然に」読むということ-エスノメソドロジー研究によるテキスト分析／森山由紀子 広告メディアとしての子ども向け雑誌『コロコロコミック』における商品紹介記事の登場とその変容／岸本千秋 ネット日記における読み手を意識した表現-公開意識との関連から／三宅和子 携帯メールの話-ことばと書きことば-電子メディア時代のヴィジュアル・コミュニケーション



●入会方法

メディアとことば研究会に入会希望の方は下記までご連絡ください。

三宅和子 miyake@toyo.jp

●研究会の情報についてのURL

<http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/media-kotoba.html>

▶メディアとことば 3

岡本能里子・佐藤彰・竹野谷みゆき編

A5判・252頁・978-4-89476-364-7
定価2520円(本体2400円)
発行2008.3

メディアとことば 3 特集：社会を構築することば

メディアとことば研究会誌の第3弾。執筆者：渡辺学 ドイツメディア言語学の現況—携帯メールテキストの日独比較を出発点に／岡本能里子 日本語のビジュアル・グラマーを読み解く—新聞のスポーツ紙面のレイアウト分析を通して／布尾勝一郎 「身内」の不祥事報道における新聞の隠蔽・自己正当化ストラテジー—第三者名義株式保有問題を題材に／森山由紀子 子ども向け情報における「遊び」と「商品」の境界—1980年代初頭『コロコロコミック』「遊び方情報」記事から／佐竹久仁子 〈女ことば／男ことば〉の成立期の研究—1940年前後のラジオドラマのことばの分析をとおして／平本毅 電子メディアを通じてことばはいかにして話されるのか／佐藤彰 ファンサイトにおけるナラティブと引用—オンライン・コミュニティー構築の視点から

▶メディアとことば 4

三宅和子・佐竹秀雄・竹野谷みゆき編

A5判・234頁・978-4-89476-436-1
定価2520円(本体2400円)
発行2009.3

メディアとことば 4 特集：現在を読み解くメソドロロジー

メディアとことば研究会誌の第4弾。執筆者：松田謙次郎 麻生太郎の自称詞バージョン—単独話者における一人称の変異／池田佳子 「子供を産む機械」発言の広がりによる政治とマスメディア—メディアの「対話ネットワーク」／西尾純二 TVローカル番組にみる方言使用の地域差／佐竹秀雄 新聞における投書の文章スタイルの計量的分析／中村秩祥子 振り込み詐欺被害における受け手の解釈プロセス—架空請求書の場合／三宅和子 謝罪メールをめぐる対人関係調整行動—「了解で～す☆」の真意を探る／早川公・井出里咲子 2ちゃんねるのことばとコミュニティ感覚—カキコミの作法が創る一体感をめぐって



編者 影山太郎 (国立国語研究所所長)

●関連する研究会名

MLF (Morphology & Lexicon Forum)
KLP (関西レキシコンプロジェクト)
LSC (Lexicon Study Circle)

●雑誌と研究会の紹介

本誌は、言語学だけでなく心理学や自然言語処理などの研究を掲載するレキシコンすなわち語彙(単語)に関する総合的なジャーナルです。語彙は言語を形成する最も基本的な要素であり、形態論、意味論、統語論、音韻論、語用論のどのような領域とも深く関係します。また、生成文法や認知言語学といった理論的アプローチの違いを超越して、誰にとっても基本的で重要な研究分野です。更に、言語学だけでなく、心理学、辞書編纂、自然言語処理、脳科学、日本語教育、外国語教育などの関連領域と密接に関係し、広大な応用の可能性を秘めています。本誌は、理論や学問領域の違いを超えて、様々な角度から、人間が持つ語彙の能力とその応用力を明らかにすることを意図し、対象言語も日本語、英語だけでなく中国語そのほかの諸外国語も含まれます。

本誌の母体となる活動は、1994年に神戸・西宮で発足したKLP(関西レキシコンプロジェクト)という研究会に遡ります。KLPは、東京で作られたLSC(レキシコン研究サークル)と一緒に、年に一度、MLF(形態論&レキシコンフォーラム)という合同の研究発表会を開くようになりました。MLFは、関西・関東以外からも多数の参加を得ています。

KLP、LSCだけでなく、MLFも「学会」という形を取っていません。それは、教員も院生も、言語学の人でも心理学の人でも工学系の人でも自由に参加できるように、バリアフリーを意図しているからです。バリアフリーという意味では、本誌『レキシコンフォーラム』もそうです。投稿は、上記研究会のメンバーに限られません。英語学、日本語学、言語学、心理学、情報処理の編集委員を揃えていますので、いろいろな方面からの投稿をお待ちしています。[影山太郎]

●入会方法

学会ではありませんので、自由参加です。問い合わせ先は、下記のウェブサイトをご覧ください。

●研究会のウェブサイト

MLFは、<http://www.intcul.tohoku.ac.jp/lingcommunic/mlf/>

KLPは、<http://www.kcc.zaq.ne.jp/kageyama/KLP.folder/KLP.html>

本誌『レキシコンフォーラム』は、<http://www.kcc.zaq.ne.jp/kageyama/LexiconForum.folder/LexiconForum.html>



▶レキシコンフォーラム 1

影山太郎 編

A5判・304頁・978-4-89476-254-1
 定価4200円(本体4000円)
 発行2005.4

レキシコンフォーラム No.1

語彙(単語)研究と、言語学各分野や言語の機械処理、心理学、脳科学、言語教育、辞書編纂など言語学以外の研究をも連携させるべく創刊された、レフリー付きのジャーナル。辞書(レキシコン)および語彙的知識に関する様々な理論的・記述的研究の成果を集めている。
 《特集: 言語学と辞書》【執筆者】梶茂樹/大曾美恵子/国広哲弥/山田進/影山太郎/長谷部郁子/Naoki Kimura, Jungho Kim and Masatoshi Koizumi/松村宏美・板東美智子/大友麻子/申亜敏/山田昌史
 論文の投稿を受け付けています。詳しくは、<http://www.intcul.tohoku.ac.jp/lingcommunic/mlf/>をご覧ください。

▶レキシコンフォーラム 2

影山太郎 編

A5判・296頁・978-4-89476-290-9
 定価4200円(本体4000円)
 発行2006.4

レキシコンフォーラム No.2

《特集: 辞書と言語情報処理》
 【執筆者】加藤恒昭・乾健太郎・竹内孔一/乾健太郎・藤田篤/島山真一・坂本浩・伊藤たかね/竹内孔一・乾健太郎・藤田篤/Stuart Davis and Isao Ueda/Tatsuya Isono/影山太郎/岸本秀樹/Yasuko Taniwaki

▶レキシコンフォーラム 3

影山太郎 編

A5判・360頁・978-4-89476-373-9
 定価5040円(本体4800円)
 発行2007.7

レキシコンフォーラム No.3

《特集: 日本語のレキシコンと音韻構造》
 【執筆者】窪蘭晴夫/田中真一/Kiyoko Yoneyama/Joseph Emonds/影山太郎/ナロックハイコ(Heiko Narrog)/申亜敏/菅原剛/田中江扶/Kimi Akita/加藤鉦三/長野明子/柴崎秀子・玉岡賀津雄・母育新

▶レキシコンフォーラム 4

影山太郎 編

A5判・308頁・978-4-89476-410-1
 定価5040円(本体4800円)
 発行2008.9

レキシコンフォーラム No.4

《特集: 複合動詞と複雑述語》
 【執筆者】由本陽子/Hiroto Hoshi/中谷健太郎/《研究論文》Kimi Akita/堀内仁/Daisuke Miyamoto/中村たか子/玉岡賀津雄・林炫情・池映任・柴崎秀子/《Note & Discussion》Hideki Kishimoto/《チュートリアル》影山太郎/小野尚之/《新刊紹介》杉岡洋子/小林英樹

▶レキシコンフォーラム 5

影山太郎 編

A5判・284頁・978-4-89476-518-4
 定価5040円(本体4800円)
 発行2010.6

レキシコンフォーラム No.5

《特集: 移動と変化と経路》
 【執筆者】秋田喜美・松本曜・小原京子/岩田彩志/岩本遠億/影山太郎 《研究論文》工藤和也/小森和子・玉岡賀津雄 《Notes & Discussion》岸本秀樹/松井夏津紀/長谷部郁子 《新刊紹介》岸本秀樹/由本陽子



編者 大津由紀雄(慶應義塾大学教授)

The Proceedings of the Tokyo Conference on Psycholinguistics は、2000年から毎年開催している言語心理学の国際会議(略称TCP、主催 慶應義塾大学言語文化研究所、運営 大津由紀雄研究室)の発表論文集(プロシーディングズ)です。TCPでは、世界各地の言語心理学者が3月中旬ごろの2日間、慶應義塾大学三田キャンパスの会議場に集い、第一・第二言語獲得、言語理解をはじめ、言語心理学の諸領域の問題について議論します。

基本テーマは「人はなぜ限られた情報をもとに、かくも豊かな言語知識を身につけることができるのか」というプラトンの問題です。発表言語は英語です。発表後のフロアからの発言や発表者相互の研究成果の交換などにより、研究者同士の新しい出会いや発見の機会が生まれています。また、毎回、言語心理学や言語理論の優れた研究者を招待講演者として国内外から招聘しています。すでに12回を数えたTCPは国外にもその存在を広く知られるところとなり、著名な研究者も数多く参加しています。

大会後、発表者には論文を発表論文集に投稿する機会が与えられます。その発表論文集が本書です。本書は、TCP本体とともに歩みを進めていくものであり、論文の公刊により、直接出会うことのない研究者同士の交流をも促進しています。

発表論文集は、ひつじ書房(松本功社長)の出版文化に対する情熱と言語の研究に対する理解により、出版が可能になりました。しかし、現在のところ、刊行部数は250部という限定した印刷部数に留まっています。この発表論文集の購読者がさらに増加し、TCPをきっかけとした議論が一層広がり、深まっていくと同時に、会議の発表論文集の出版という地味ではあるが学問の発展にとって重要な事業をいつまでも継続できるよう、みなさんのご理解とご支援をいただきたいと思ひます。ぜひ、TCPへの積極的なご参加と発表論文集のご購読(図書館や研究室あるいは個人での)をお願いいたします。

なお、TCPの活動と成果をより多くのかたがたに知っていただくために、近々、TCP Clubという新しい制度を発足する予定です。会員には、TCPに関する情報が電子メール等で提供されるほか、私費で発表論文集を購入する場合には大幅に格安な価格が適用されるという特典を準備しています。Clubの詳細については、今後、ひつじ書房および慶應義塾大学大津由紀雄研究室ウェブサイト(<http://www.otsu.icl.keio.ac.jp/>)等でお知らせします。ご期待ください!

TCP10周年記念大会にて



▶TCP

大津由紀雄 編

A5判・204頁・978-4-89476-131-5
 定価3990円(本体3800円)
 発行2000.12

The Proceedings of the First Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2000)

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議(Tokyo Conference on Psycholinguistics)の第1回大会の研究発表/講演集(英語)。

Tetsuya Sano/ Hanako Fujino/ Haruka Fukazawa and Linda Lombardi/ Yuki Hirose/ Miwa Isobe and Koji Sugisaki/ Takaomi Kato/ Chiaki F. Komatsu/ Hiromi Morikawa/ Koji Sugisaki, William Snyder and Daniel Yaffee/ Taeko Teramoto, Hideo Hayashibe, and Satoko Ichikawa/ Melinda Whong-Barr and Bonnie D. Schwartz

| | |
|---|--|
| ▶TCP | The Proceedings of the Second Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2001) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第2回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・284頁・978-4-89476-149-0 定価3780円 (本体3600円) 発行2001.12 | Luisa Meroni, Andrea Gualmini and Stephen Crain/ Mamoru Saito/ Takuya Gouro, Hanae Norita, Motoki Nakajima, and Ken-ichi Ariji/ Julia Herschensohn/ Hironobu Kasai and Shoichi Takahashi/ Masakazu Kuno/ Shigeko Matsufuji/ Jeannette Schaeffer and Dorit Ben-Shalom/ Koji Sugisaki and Miwa Isobe/ Koji Sugisaki and William Snyder/ Rosalind Thornton/ Cecile van der Weert/ Maki Yamane |

| | |
|--|--|
| ▶TCP | The Proceedings of the Third Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2002) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第3回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・384頁・978-4-89476-173-5 定価3990円 (本体3800円) 発行2002.11 在庫僅少 | Angelika Kratzer and Junko Shimoyama/ William Snyder/ Deirdre Wilson and Dan Sperber/ Stephen Crain, Amanda Gardner, Andrea Gualmini and Beth Rabin/ Haruka Fukazawa, Mafuyu Kitahara and Mitsuhiko Ota/ Galina Gordishevsky and Jeannette Schaeffer/ Ken Hiraiwa/ Shinichiro Ishihara/ Miwa Isobe/ Hirohisa Kiguchi and Rosalind Thornton/ Masakazu Kuno/ Keiko Matsunaga/ Motoki Nakajima/ Hajime Ono/ Koji Sugisaki/ Cecile van der Weert |

| | |
|---|--|
| ▶TCP | The Proceedings of the Fourth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2003) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第4回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・352頁・978-4-89476-209-1 定価4410円 (本体4200円) 発行2003.11 | Mark C. Baker/ Maria Teresa Guasti/ Duk-Ho An/ Yarrow Dunham, Peggy Li, and Susan Carey/ Tomohiro Fujii/ Andrea Gualmini, Luisa Meroni, and Stephen Crain/ Luisa Meroni and Stephen Crain/ Motoki Nakajima/ Kayono Shiobara/ Koji Sugisaki and William Snyder/ Graciela Tesan and Rosalind Thornton/ Sharon Unsworth/ Maki Yamane/ Hideaki Yamashita |

| | |
|---|--|
| ▶TCP | The Proceedings of the Fifth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2004) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第5回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・344頁・978-4-89476-227-5 定価4410円 (本体4200円) 発行2004.11 | Lydia White/ Duk-Ho An/ Miwa Isobe, Natsuko Katsura, Masatoshi Koizumi, Kuniya Nasukawa, Yumi Sakai, Koji Sugisaki, and Noriaki Yusa/ Bosook Kang/ Hirohisa Kiguchi and Edson T. Miyamoto/ Chieko Kuribara/ Utako Minai, Luisa Meroni, and Stephen Crain/ Tomokazu Takehisa/ Jeffrey Witzel and Naoko Ouchi Witzel |

| | |
|---|---|
| ▶TCP | The Proceedings of the Sixth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2005) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第6回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・376頁・978-4-89476-264-0 定価4410円 (本体4200円) 発行2005.11 | Masatoshi Koizumi/ Somsukla Banerjee, Achla M. Raina, and Harish Karnick/ Shane Xuexin Cao, Helen Goodluck, and Shan Xingyuan/ Anastasia Conroy and Rosalind Thornton/ Sandiway Fong and Yuki Hirose/ Dylan Herrick/ Yuki Hirose/ Chunyuan Jing, Stephen Crain, and Ching-Fen Hsu/ Makoto Kadowaki/ Heather Marsden/Chizuru Nakao and Masaya Yoshida/ Masashi Nomura/ Toshiko Oda/David Stringer/ Koji Sugisaki |

| | |
|---|--|
| ▶TCP | The Proceedings of the Seventh Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2006) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第7回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・336頁・978-4-89476-339-5 定価4410円 (本体4200円) 発行2006.11 | Edson T. Miyamoto/ David Pesetsky and Ether Torrego/ Teodor Ajder/ Ho Leung Chan / Noriko Hattori, Seiki Ayano, Dylan Herrick, David Stringer and Koji Sugisaki/ Misato Hiraga and Jon Nissenbaum/ Takaomi Kato/ Masakazu Kuno/ Keiko Nakamoto, Kow Kuroda, and Jae-ho Lee/ Toshiko Oda/ David Stringer/ Mikihiro Tanaka/ Ling XIAO, Xin CAI, and Thomas Hun-tak Lee |

| | |
|--|---|
| ▶TCP | The Proceedings of the Eighth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2007) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第8回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・340頁・978-4-89476-376-0 定価10290円 (本体9800円) 発行2007.11 | Thomas Roeper/ Christopher Tancredi/ Lamya Al-Abdulkarim/ Nigel Duffield/ Yukio Furukawa/ Andrea Gualmini/ Jiro Inaba/ Keiko Kaku/ Yukiko Koizumi/ Hiroki Narita/ Masashi Nomura/ Michael Siegal/ Koji Sugisaki/ Annie Tremblay |

| | |
|--|---|
| ▶TCP | The Proceedings of the Ninth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2008) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第9回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・380頁・978-4-89476-428-6 定価10290円 (本体9800円) 発行2008.11 | Cedric Boeckx / Koji Sugisaki/ Rosalynn S. Chiu, Hajime Ono and Hiromu Sakai / Mami Fukushi, Marie Labelle and Lucie Ménard / Masayuki Komachi/Yi-An Lin and Yi-Ting Chen/Vincenzo Moscati / Hiroki Narita/Kaori Takamine / Aya Takeda / Kensuke Takita/ Roberta Tedeschi / Francesco-Alessio Ursini, Britta Jensen and Anna Notley / Travis Wade / Ting Xu and Xiaolu Yang/Peng Zhou and Stephen Crain |

| | |
|--|---|
| ▶TCP | The Proceedings of the Tenth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2009) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第10回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・400頁・978-4-89476-483-5 定価10290円 (本体9800円) 発行2009.11 | Akira Watanabe / Britta Biedermann, Lyndsey Nickels and Elisabeth Beyersmann / Isabelle Charnavel / Isabelle Charnavel, Flavia Adani and Nina Hyams / Haruka Fukazawa and Miho Fujiwara / Aijun Huang and Thomas Hun-tak Lee / Loes Koring and Ken Wexler / Hideki Maki, Kana Ito, Megumi Hasebe, Kenichi Goto, Michiyo Hamasaki, Takashi Munakata and Yukiko Ueda / Koichi Otaki and Noriaki Yusa / Atsushi Sato, Barış Kahraman, Hajime Ono, and Hiromu Sakai / Jeonghwa Shin and Shari R. Speer / Yi (Esther) Su and Stephen Crain / Koji Sugisaki / Masahiko Takahashi and Misako Hatayama / Hideaki Yamashita / Noriko Yoshimura and Mineharu Nakayama |

| | |
|---|--|
| ▶TCP | The Proceedings of the Eleventh Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2010) |
| 大津由紀雄 編 | 慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議 (Tokyo Conference on Psycholinguistics) の第11回大会の研究発表／講演集 (英語)。 |
| 菊判・300頁・978-4-89476-552-8 定価10290円 (本体9800円) 発行2010.11 新刊 | Susan Curtiss / Ken Hiraiwa / Fabrizio Arosio, Chiara Branchini, Matteo Forgiarini, Eleonora Carrarieri, Emanuela Tenca and Maria Teresa Guasti / Chira Cantiani, Maria Luisa Lorusso, Paolo Perego, Massimiliano Molteni and Maria Teresa Guasti / Stephen Crain and Qiong-peng Luo / Anne Gwinner / Nao Ishino and Hiroyuki Ura / Pei-Jung Kuo / Nao Nakano, Hye Sun Park and Cristina Schmitt / Toshiko Oda / Öner Özçelik / Yasuhiro Sasahira / Koji Sugisaki and William Snyder / Ting Xu |



第1巻編者 坂原茂 (東京大学教授)

フランス語学は、高度な研究を行いながらも、成果を外に向かって発表していくことに熱心でなかった。論文集発刊の趣旨は、毎年あるいは隔年、継続的に質の高いフランス語論文集を刊行することで、フランス語学研究を活性化し、同時に外部に向けフランス語学の存在を示すことにある。各巻はテーマをもち、それに関する論文を主に、特集外論文も取め、さまざまな関心に応えることのできる論文集を目指す。収録論文は、フランス語学を基盤としながらも、フランス語学内部の特殊な関心を越えて、広く一般言語学的視野を射程に収める。本論文集は、フランス語学、日仏対照、類型論研究などに関する専門的論文を収録する論文集でありながら、フランス語例文にはすべて注をつける、フランス語学に特殊な用語は極力避けるか解説を加えるなど、語学に関心のあるすべての人に理解できるような工夫が施されており、フランス語学への良質の導入となることが期待されている。

第1巻は、名詞句意味論を中心に、時間副詞、副詞節の時制選択、トートロジなど多岐にわたる論文を取める。第1巻執筆者は、坂原茂 (第1巻編集責任者)、東郷雄二、春木仁孝、井元秀剛、曾我祐典、木内良行、酒井智宏、田原いずみ、小田涼、森香奈絵の10人で、フランス語学の代表的研究者から将来のフランス語研究を背負うことが期待される若手研究者を揃える。第1巻に続き、第2巻は感情表現、第3巻は時制論を扱う予定である。

編集委員会は、坂原茂、川口順二、春木仁孝、東郷雄二、青木三郎の5名。

ドイツ語に関する言語学的研究は、そのプレゼンスをわが国の言語学の風景のなかに今まであまり示してこなかったように思われる。「ドイツ語研究者よ、奮起せよ」という励ましの声が聞こえてくる。その風景のなかに、ドイツ語を対象とした言語研究の最新成果を積極的に、しかもある程度まとまった形にして発信しようというのが、今回企画した『講座ドイツ言語学』のねらいである。ドイツ語という言語の文法を共時的・通時的に分析したとき、どのような個別性と普遍性が見えてくるであろうか。また、ドイツ語は、時々刻々と変容する現代の社会・コミュニティ・メディアと言語使用者の関わりにおいてどのような相貌を示すのであろうか。さらにまた、とりわけ活版印刷というメディアの大転換期以降、ドイツ語はどのような歴史的進展を遂げてきたのであろうか。本『講座』では、このような問いかけに対する答えを、ドイツ語の知識がない読者にも理解できるように、丁寧にわかりやすく説明・論述する。したがって、本『講座』は単なる学術的論文集ではなく、学術的入門書という性格を強く持つものである。執筆陣には、ドイツ語学における精力的な研究で知られる言語学者たちをそろえた。責任編集：高田博行・岡本順治・渡辺学

▶講座ドイツ言語学 1

岡本順治・吉田光演 編

978-4-89476-571-9
未刊

講座ドイツ言語学 第1巻 ドイツ語の文法論

未刊

ドイツ語文法の中でも特徴的なトピックをとりあげ、それらがどのように相互に関係しているかを示せるように心がける。共時的観点から、他言語との比較だけでなく、意味論や語用論との関連も重視する。取りあげるトピックは、動詞の位置、スクランプリング、中間構文、結果構文、受動態と使役、時制・アスペクト・モダリティ、自由な与格、名詞句の統語論とその意味、複合動詞、情報構造、心態詞である。執筆者は、大矢俊明、岡本順治、田中慎、田中雅敏、藤縄康弘、吉田光演の6名。

▶講座ドイツ言語学 2

渡辺学・山下仁 編

978-4-89476-572-6
未刊

講座ドイツ言語学 第2巻 ドイツ語の社会語用論

未刊

メディアの変転に伴うドイツ語の「多様性」を見すえつつ、第1部では、ダイクシス、異文化間コミュニケーション、コノテーション、社会文体論などを基軸として、語用論とコミュニケーション(論)の関係を明らかにする。第2部では、ディスコース、インタラクション、ポライトネス、スタイルに着目しつつ、社会語用論の現代的「展開」の諸相を照射する。全体として、談話の仕組みとその問題点を明かし、情報伝達と社会行動の結節点にも迫る。執筆者は、田中慎、A. Deppermann、野呂香代子、星井牧子、丸井一郎、山下仁、渡辺学の7名の予定。

▶講座ドイツ言語学 3

高田博行・新田春夫 編

978-4-89476-573-3
未刊

講座ドイツ言語学 第3巻 ドイツ語の歴史論

未刊

初めにドイツ語の歴史に関して概略的説明を行う。そのあと、第1部では完了形、受動構文、使役表現、機能動詞構造、語順、造語といった文法カテゴリーに関して体系的な通時的記述を行う。第2部では、15世紀から19世紀に至るドイツ語の歴史を、印刷工房、宗教改革、文法家、日常語、大衆新聞という切り口から社会とコミュニケーションと関連づけて、過去におけるドイツ語話者の息づかいが聞こえてくるように描く。執筆者は、井出万秀、黒田享、清水誠、高田博行、新田春夫、藤井明彦、細川裕史の7名の予定。

▶フランス語学の最前線

坂原茂 他編

A5判・978-4-89476-397-5
近刊

フランス語学の最前線 1

近刊

名詞句意味論を中心に、時間副詞、副詞節の時制選択、トートロジなど多岐にわたる論文を取める。執筆者：坂原茂、東郷雄二、春木仁孝、井元秀剛、曾我祐典、木内良行、酒井智宏、田原いずみ、小田涼、森香奈絵

2001年に創刊された『接続』の目的は、細分化された既存の学問諸領域を継続的に〈接続〉することによって、大学における知的環境を変革するとともに、そうした新しい知の在り方を広く社会に発信することです。

活動の基盤となるのは、明星大学日野校で年間数回開催される「学術研究フォーラム」です。ここでは、狭い範囲でしか通用しない専門用語に頼るのではなく、他分野の研究者や若い学生たちにも理解できる開かれた言葉を探して発表と討論が行われています。

『接続』は、「I 特集」、「II 交差点(クロスロード)」、「III はじめての接続」という3部から構成されます。また、各論文に対しては、「ダイアログ」と称する批評的・対話的な小論が添えられます。

過去の特集テーマは、「近代再訪」(2001)、「つくられた子ども」(2002)、「越境する都市」(2003)、「ジェンダーの地平」(2004)、「環境というトポス」(2005)、「ひらかれる身体」(2006)「マルチチュードの可能性」(2007)、「言語と教育」(2008)、そして「はじめての接続」(2009)です。

これらのテーマは、メンバーによる議論の中から生まれたものです。「II 交差点(クロスロード)」は、テーマを問わない対話の場です。また、「III はじめての接続」には、高校生ぐらいの若い読者へ向けての知の招待状が掲載されます。

『接続』の制作プロセスにおける最大の特徴は、構想・草稿の段階から討論会やメールでの意見交換を重ね、議論を深めて行くところです。執筆者の多くは明星大学の教員ですが、学外からのご寄稿も大歓迎です。ご関心のある方は、菊地滋夫(e-mail: kikuchis@ge.meisei-u.ac.jp)までぜひご連絡ください。



2007年編集委員(左から高島美穂、村井則夫、林伸一郎)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・268頁・978-4-89476-142-1
定価2000円(本体1905円)
発行2001.6

接続2001 特集:近代再訪

大学の研究は、こりかたまった旧来のものであっては意味がない。大学改革は、外側の構造改革ではなく、発信すべき内容の改革でなければならない。自発的改革への開かれた学問を提唱する。特集は「近代再訪 (Modernity Revisited)」I 写真的想像力 十九世紀における自己の肖像/他者の表象(細谷等 ダイアログ…神辺靖光・二村健)/学校の時代 教育は日本の「近代」になにをもたらしたのか(神辺靖光 ダイアログ…小林一岳・細谷等)/英雄の表象と近代(小林一岳 ダイアログ…樋口辰雄・毛利聡子)/文学に近代を感じる時 魯迅『狂人日記』と「語り」のリアリティー(千野拓政)/増補「声」のわかれ 日本児童文学の近代(宮川健郎 ダイアログ…千野拓政・菊地滋夫) II 憑依霊の踊りと自分勝手な人類学者 ケニア海岸地方カウマの人々の最近の暮らし(菊地滋夫 ダイアログ…茅野佳子・笠原順路)/変わりゆく南部、変わらない南部三五年後のミシシッピ大学で(茅野佳子 ダイアログ…渡戸一郎・樋口辰雄) III 言語という視点 外国語を学ぶ(千野拓政)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・306頁・978-4-89476-165-0
定価2000円(本体1905円)
発行2002.6

接続2002 特集:つくられた子ども

今回の特集は「つくられた子ども (Children Created)」。社会的に弱く、無垢な存在として「子ども」という領域が切り開かれていく様子を文学や教育の言説分析、また人類学的手法により掘り起こす。I 生きにくさの抜け道『北方教育』、宮沢賢治、『赤い鳥』(宮川健郎 ダイアログ…細谷等)/近世日本・庶民の子どもと若者 子殺し、育児、しつけ、折檻(神辺靖光 ダイアログ…毛利聡子・小林一岳)/一〇歳の少年の視点ウィリアム・スタローン「シャドラク」の提示するもの(前田浩美 ダイアログ…宮川健郎)/自決の葬列 近代食主義とマスターベーション言説(細谷等 ダイアログ…前田浩美)/鏡の割れたあとに 増補・中国の現代文化と子どもたち(千野拓政) II パリに病んで夢は故郷を駆けめぐる リチャード・ライトの HAIKUとミシシッピの原風景(茅野佳子 ダイアログ…菊地滋夫)/特定の誰か、ではない身体 所在 ケニア海岸地方におけるコーラスとジェンダー(菊地滋夫 ダイアログ…茅野佳子) III 「異化」していこう! まなざしの転換(細谷等)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・360頁・978-4-89476-196-4
定価2000円(本体1905円)
発行2003.11

接続2003 特集:越境する都市

今回の特集は、「越境する都市 (Border-Crossing Cities)」。東京(田園調布)・上海・香港の各都市をそれぞれ都市論、文学論、文学史論の切り口で鮮やかに論じる。I 都市論の現在と可能性「都市再生」下の東京を中心に(渡戸一郎 ダイアログ…菊地滋夫)/上海はイデオロギーの夢を見るか? 王安憶の小説創作の変化から(王曉明[千野拓政・中村みどり訳] ダイアログ…細谷等)/中国人の書いた香港文学史(王宏志[千野拓政訳] ダイアログ…洪郁如)/昨日、そして今日の田園都市 世紀転換期ユートピアと都市計画におけるハイブリッドな欲望(細谷等 ダイアログ…小林一岳) II 台湾人家庭の中の外国人労働者 仲介業者 J. C. インタビュー記録(洪郁如 ダイアログ…毛利聡子)/「テネシー・キャラバン」の行方 ビーターテイラーの「南部」と幼少年期の異文化体験(茅野佳子 ダイアログ…深田芳史)/聞くということ「わたし」とは何か(林伸一郎 ダイアログ…宮川健郎) III 「英語ペラペラ」ってどういう意味? 言語によるコミュニケーションとは何か(深田芳史)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・312頁・978-4-89476-228-2
定価2000円(本体1905円)
発行2004.10

接続2004 特集:ジェンダーの地平

今回の特集は、「ジェンダーの地平 (Horizons of Gender)」。ジェンダーをある特定の視点から見るのではなく、多様な分野からあぶりだすことによって、既存の理論に押し込めることなく、問題意識の自由な発露を促す。I 植民地台湾におけるファッションと権力(洪郁如 ダイアログ…細谷等・洪郁如)/長老と国家を揺るがすジェンダーの管理と逸脱(菊地滋夫 ダイアログ…小林一岳)/こんな声で歌いたい!(阪井恵 ダイアログ…菊地滋夫)/本をとおして子どもとつきあう「おとうさんの絵本読みきかせワークショップ」実践報告(宮川健郎 ダイアログ…千野拓政) II 抹消された夢 デカルトと「始まり」の現象(村井則夫 ダイアログ…菊地滋夫)/「わたし」と「他者」のはざま オウエールとカミュの歩んだ道(高島美穂 ダイアログ…村井則夫)/ムンバイ発「もうひとつの世界は可能だ」第四回世界社会フォーラム報告(毛利聡子 ダイアログ…渡戸一郎・茅野佳子) III 歴史をひらこう(小林一岳)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・316頁・978-4-89476-262-6
定価2000円(本体1905円)
発行2005.10

接続2005 特集:環境というトポス

今回の特集は「環境というトポス」。自然環境にとどまらず、文化・歴史・思想も含めて、環境という古くて新しいトポス(問題=場)を多角的に再検討する。環境理解の拡充を目指す意欲的な論考集。I 中世における「山」認識の変容(小林一岳 ダイアログ…宮川健郎)/場所・人間・文学—アメリカ南西部の物語と環境公正運動(茅野佳子 ダイアログ…毛利聡子)/個人の権利を守るか、公共の利益を優先するか?—米国レイク・タホにみる環境保全の知恵(西浦定継 ダイアログ…細谷等)/中国黄土高原の緑化(池本和夫 ダイアログ…小林一岳)/セントラル・パークという〈自然〉—フレドリック・ロウ・オームステッドのユートピア(細谷等 ダイアログ…村井則夫)/〈環楽器〉探求—音楽教育から「環境」を考える視点(阪井恵 ダイアログ…林伸一郎)/「暗い森」、または理性的系譜学—ヴィーコの「森」をめぐる(村井則夫 ダイアログ…千野拓政) II 台湾人女性の「内地留学」(洪郁如 ダイアログ…高島美穂) III フィールドワークへの招待—世界に新しく接続する方法(菊地滋夫)

▶接続

『接続』刊行会編

A5判・256頁・978-4-89476-340-1
定価2000円(本体1905円)
発行2006.12

接続2006 特集:ひらかれる身体

今回の特集は「ひらかれる身体」。近代において形成された「身体」という観念を、その歴史性をふまえた上で「ひらかれた場」として解き放つ。「身体」への様々なジャンルからのアプローチは「身体論」への新たな課題を提起する。I 知覚する身体(境敦史 ダイアログ…村井則夫)/ヒト骨格筋の形状と機能(村岡慈歩)/身体とコミュニケーション(星山麻木 ダイアログ…小林一岳)/音を聴くということ(阪井恵 ダイアログ…茅野佳子)/アドリブとしての憑依—身体自由と規範(菊地滋夫 ダイアログ…阪井恵)/身体と秩序・権力(小林一岳 ダイアログ…細谷等) II 世界社会フォーラムに集う『マルチチュード』(毛利聡子 ダイアログ…菊地滋夫)/交わりと疎外(高島美穂) III めざせ保育士・幼稚園教諭(中坪史典)

| | |
|--------------------|---|
| ▶ 接続 | 接続2007 特集：マルチチュードの可能性 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「マルチチュードの可能性」。グローバル化される社会＝〈帝国〉の内部で「マルチチュード」は果たして現代の社会を改革しうる勢力たりえるのか。「世界社会フォーラム」への参加やネグリ＝ハートの文献から多角的に考察する。I「マルチチュード」が創る開かれた空間（毛利聡子 ダイアローグ…茅野佳子、小林一岳）／大国の内なる「マルチチュード」（茅野佳子 ダイアローグ…毛利聡子）／二一世紀のマルチチュード（菊地滋夫 ダイアローグ…細谷等）／多様性の解剖（村井則夫 ダイアローグ…菊地滋夫）II 逸脱する家事（細谷等 ダイアローグ…洪郁如）／漢族社会における「関係」生成の論理（洪郁如 ダイアローグ…菊地滋夫）／中国人女性の日本留学（張曉瑞 ダイアローグ…高島美穂）／教室発 音楽の萌芽を考える（阪井恵 ダイアローグ…境敦史）III 子どもの読書によりそう（宮川健郎） |

| | |
|--------------------|--|
| ▶ 接続 | 接続2008 特集：言語と教育 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「言語と教育」。教育と教養の基幹とも言える言語の問題を、言語文化の形成という理論的主題に加え、実際の外国語教育の現場を踏まえながら考察する。I 日本語と韓国語の心地よいと思われる「ほめ」の表現（金庚芬 ダイアローグ…馬場千秋）／外国語としての英語学習におけるつまずき（馬場千秋 ダイアローグ…林伸一郎）／ブエプロの踊り（茅野佳子 ダイアローグ…張曉瑞）／音楽が「分かる」ための鑑賞指導とその必要性（阪井恵 ダイアローグ…村井則夫）／記憶術と方法（村井則夫 ダイアローグ…菊地滋夫）II 教養と中国語教育（山田留里子） |

| | |
|--------------------|--|
| ▶ 接続 | 接続2009 特集：はじめての接続 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「はじめての接続」。開かれた知の「場」という本シリーズの理念に立ち返り、各執筆者の専門分野の内容を、大学へ入ったばかりの学生にも分かりやすくその魅力を紹介する。I〈外国語〉第二言語学習方法を考える第一歩（張曉瑞）／はじめての英和辞書（内田富男）／はじめての英語ライティング（馬場千秋）〈文化・文学研究〉「環境文学」からのメッセージー記憶、想像、語りの力（茅野佳子）／はじめての表象分析ーキミにもできるイメージの読み方（細谷等）〈人類学・歴史学〉フィールドワークへの招待（再録、菊地滋夫）／歴史をひらこう（再録、小林一岳）II 交わりと疎外ー『インドへの道』と『ビルマの日々』にみられる限界と希望（後編）（高島美穂 ダイアローグ…菊地滋夫）／終わる世界とユートピアー世紀転換期アメリカにおけるハルマゲドン幻想（細谷等 ダイアローグ…小林一岳） |

| | |
|--------------------|--|
| ▶ 接続 | 接続2010 特集：はじめての接続 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「はじめての接続」。開かれた知の「場」という本シリーズの理念に立ち返り、各執筆者の専門分野の内容を、大学へ入ったばかりの学生にも分かりやすくその魅力を紹介する。I〈外国語〉第二言語学習方法を考える第一歩（張曉瑞）／はじめての英和辞書（内田富男）／はじめての英語ライティング（馬場千秋）〈文化・文学研究〉「環境文学」からのメッセージー記憶、想像、語りの力（茅野佳子）／はじめての表象分析ーキミにもできるイメージの読み方（細谷等）〈人類学・歴史学〉フィールドワークへの招待（再録、菊地滋夫）／歴史をひらこう（再録、小林一岳）II 交わりと疎外ー『インドへの道』と『ビルマの日々』にみられる限界と希望（後編）（高島美穂 ダイアローグ…菊地滋夫）／終わる世界とユートピアー世紀転換期アメリカにおけるハルマゲドン幻想（細谷等 ダイアローグ…小林一岳） |

| | |
|--------------------|--|
| ▶ 接続 | 接続2011 特集：はじめての接続 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「はじめての接続」。開かれた知の「場」という本シリーズの理念に立ち返り、各執筆者の専門分野の内容を、大学へ入ったばかりの学生にも分かりやすくその魅力を紹介する。I〈外国語〉第二言語学習方法を考える第一歩（張曉瑞）／はじめての英和辞書（内田富男）／はじめての英語ライティング（馬場千秋）〈文化・文学研究〉「環境文学」からのメッセージー記憶、想像、語りの力（茅野佳子）／はじめての表象分析ーキミにもできるイメージの読み方（細谷等）〈人類学・歴史学〉フィールドワークへの招待（再録、菊地滋夫）／歴史をひらこう（再録、小林一岳）II 交わりと疎外ー『インドへの道』と『ビルマの日々』にみられる限界と希望（後編）（高島美穂 ダイアローグ…菊地滋夫）／終わる世界とユートピアー世紀転換期アメリカにおけるハルマゲドン幻想（細谷等 ダイアローグ…小林一岳） |

| | |
|--------------------|--|
| ▶ 接続 | 接続2012 特集：はじめての接続 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「はじめての接続」。開かれた知の「場」という本シリーズの理念に立ち返り、各執筆者の専門分野の内容を、大学へ入ったばかりの学生にも分かりやすくその魅力を紹介する。I〈外国語〉第二言語学習方法を考える第一歩（張曉瑞）／はじめての英和辞書（内田富男）／はじめての英語ライティング（馬場千秋）〈文化・文学研究〉「環境文学」からのメッセージー記憶、想像、語りの力（茅野佳子）／はじめての表象分析ーキミにもできるイメージの読み方（細谷等）〈人類学・歴史学〉フィールドワークへの招待（再録、菊地滋夫）／歴史をひらこう（再録、小林一岳）II 交わりと疎外ー『インドへの道』と『ビルマの日々』にみられる限界と希望（後編）（高島美穂 ダイアローグ…菊地滋夫）／終わる世界とユートピアー世紀転換期アメリカにおけるハルマゲドン幻想（細谷等 ダイアローグ…小林一岳） |

| | |
|--------------------|--|
| ▶ 接続 | 接続2013 特集：はじめての接続 |
| 『 接続 』刊行会 編 | 今回の特集は「はじめての接続」。開かれた知の「場」という本シリーズの理念に立ち返り、各執筆者の専門分野の内容を、大学へ入ったばかりの学生にも分かりやすくその魅力を紹介する。I〈外国語〉第二言語学習方法を考える第一歩（張曉瑞）／はじめての英和辞書（内田富男）／はじめての英語ライティング（馬場千秋）〈文化・文学研究〉「環境文学」からのメッセージー記憶、想像、語りの力（茅野佳子）／はじめての表象分析ーキミにもできるイメージの読み方（細谷等）〈人類学・歴史学〉フィールドワークへの招待（再録、菊地滋夫）／歴史をひらこう（再録、小林一岳）II 交わりと疎外ー『インドへの道』と『ビルマの日々』にみられる限界と希望（後編）（高島美穂 ダイアローグ…菊地滋夫）／終わる世界とユートピアー世紀転換期アメリカにおけるハルマゲドン幻想（細谷等 ダイアローグ…小林一岳） |

品切書籍一覧 (50音順)

21世紀の女性市場

見られるサイト、見られないサイト
W-SOHOリーダーズリンク調査白書
978-4-89476-137-7　2001年3月

| |
|---------------------------|
| ▶ 未発選書2 |
| 身体構築学 |
| 福島真人 著 |
| 978-4-938669-46-1　1995年3月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第10巻 |
| 束縛関係 |
| 中村捷 著 |
| 978-4-938669-65-2　1996年2月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ シリーズ言語学と言語教育10 |
| 大学における日本語教育の構築と展開 |
| 大坪一夫教授古稀記念論文集 |
| 藤原雅憲・堀恵子・西村よしみ・才田いずみ・内山潤 編 |
| 978-4-89476-342-7　2007年1月 |

| |
|--|
| ▶ シリーズ言語学と言語教育5 |
| 第二言語習得とアイデンティティ 社会言語学的適切性習得のエスノグラフィー的ディスコース分析 |
| 窪田光男 著 |
| 978-4-89476-240-4　2005年3月 |

| |
|--------------------------------|
| ▶ シリーズ言語学と言語教育4 |
| 言語教育の新展開 牧野成一教授古稀記念論集 |
| 鎌田修・筒井道雄・畑佐由紀子・ナズキアン富美子・岡まゆみ 編 |
| 978-4-89476-224-4　2005年1月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第7巻 |
| 言語の時間表現 |
| 金子亨 著 |
| 978-4-938669-40-9　1995年2月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ 言語学翻訳叢書1 |
| 言語普遍性と言語類型論 統語論と形態論 |
| バーナード・コムリー 著／松本克己・山本秀樹 訳 |
| 978-4-89476-136-0　2001年3月 |

| |
|--------------------------------|
| ▶ 日本語研究叢書 第1期 第3巻 |
| 現代日本語の語構成論的研究 語における形と意味 |
| 斎藤倫明 著 |
| 978-4-938669-06-5　1992年3月 |

| |
|-----------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第4巻 |
| 古代日本語母音論 上代特殊仮名遣の再解釈 |
| 松本克己 著 |
| 978-4-938669-31-7　1995年1月 |

| |
|-----------------------------|
| ▶ 言語学翻訳叢書2 |
| ことばは世界とどうかかわるか 語用論入門 |
| ヤコブ・L・メイ 著／澤田治美・高司正夫 訳 |
| 978-4-938669-75-1　1996年11月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ジャマイカ飛び |
| 山川健一 著 |
| 978-4-89476-201-5　1999年2月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第8巻 |
| 拾遺 日本文法論 |
| 奥津敬一郎 著 |
| 978-4-938669-63-8　1996年10月 |

| |
|--|
| ▶ 進化する図書館 |
| 情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイドブック 類縁機関名簿2003 |
| 東京都立中央図書館 編 |
| 978-4-89476-197-1　2003年9月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ 女性のことば・職場編 |
| 現代日本語研究会 編 |
| 978-4-938669-93-5　1997年11月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 未発選書2 |
| 身体構築学 |
| 福島真人 著 |
| 978-4-938669-46-1　1995年3月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第10巻 |
| 束縛関係 |
| 中村捷 著 |
| 978-4-938669-65-2　1996年2月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ シリーズ言語学と言語教育10 |
| 大学における日本語教育の構築と展開 |
| 大坪一夫教授古稀記念論文集 |
| 藤原雅憲・堀恵子・西村よしみ・才田いずみ・内山潤 編 |
| 978-4-89476-342-7　2007年1月 |

| |
|--|
| ▶ シリーズ言語学と言語教育5 |
| 第二言語習得とアイデンティティ 社会言語学的適切性習得のエスノグラフィー的ディスコース分析 |
| 窪田光男 著 |
| 978-4-89476-240-4　2005年3月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 男性のことば・職場編 |
| 現代日本語研究会 編 |
| 978-4-89476-161-2　2002年7月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 都通年雄著作集1 |
| 都通年雄 著 |
| 978-4-938669-29-4　1994年5月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ T-Time ver2.0 |
| ポイジャー |
| 978-4-89476-202-2　1999年7月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ テキスト（日本語教育） |
| 日仏対照現代日本語表現文型 |
| 会津洋他 著 |
| 978-4-89476-214-5　2005年2月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ 日本近代語研究 |
| 日本近代語研究1 |
| 近代語研究会 編 |
| 978-4-938669-05-8　1991年10月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 日本近代語研究 |
| 日本近代語研究3 |
| 近代語研究会 編 |
| 978-4-89476-146-9　2002年3月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ 日本近代語研究 |
| 日本近代語研究4 飛田良文博士古稀記念 |
| 近代語研究会 編 |
| 978-4-89476-234-3　2005年5月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第19巻 |
| 日本語記述文法の理論 |
| 近藤泰弘 著 |
| 978-4-89476-122-3　2000年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第29巻 |
| 日本語修飾構造の語用論的研究 |
| 加藤重広 著 |
| 978-4-89476-181-0　2003年2月 |

| |
|---|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第39巻 |
| 日本語述語の統語構造と語形成 意味役割の表示と状態述語、心理述語、使役構文からの提言 |
| 外崎淑子 著 |
| 978-4-89476-238-1　2005年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第38巻 |
| 日本語態度動詞文の情報構造 |
| 小野正樹 著 |
| 978-4-89476-237-4　2005年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 日本語研究叢書 第1期第1巻 |
| 日本語動詞の諸相 |
| 村木新次郎 著 |
| 978-4-938669-01-0　1991年2月 |

| |
|----------------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第46巻 |
| 日本語における空間表現と移動表現の概念意味論的研究 |
| 上野誠司 著 |
| 978-4-89476-326-5　2007年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第44巻 |
| 日本語のアスペクト体系の研究 |
| 副島健作 著 |
| 978-4-89476-322-7　2007年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 日本語の複文構造 |
| カトリーヌ・ガルニエ 著／細川英雄・小出美河子 訳 |
| 978-4-938669-30-0　1994年3月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 日本語の文法の研究 |
| 佐治圭三 著 |
| 978-4-938669-03-4　1991年7月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ シリーズ言語学と言語教育1 |
| 日本語複合動詞の習得研究 |
| 認知意味論による意味分析を通して |
| 松田文子 著 |
| 978-4-89476-204-6　2004年2月 |

| |
|----------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第14巻 |
| 日本語文法 体系と方法 |
| 川端善明・仁田義雄 編 |
| 978-4-938669-92-8　1997年10月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第25巻 |
| 日本語モダリティの史的研究 |
| 高山善行者 著 |
| 978-4-89476-155-1　2002年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 認知言語学の発展 |
| 坂原茂 編 |
| 978-4-89476-128-5　2000年8月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第16巻 |
| 複合動詞の構造と意味用法 |
| 姫野昌子 著 |
| 978-4-89476-108-7　1999年2月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ 文化・インターアクション・言語 |
| 片岡邦好・井出祥子 編 |
| 978-4-89476-170-4　2002年9月 |

| |
|---------------------------|
| ▶ ひつじ研究叢書（言語編）第32巻 |
| 方言学的日本語史の方法 |
| 小林隆 著 |
| 978-4-89476-200-8　2004年2月 |

▶シリーズ言語学と言語教育6
ポライトネスと英語教育 言語使用における対人関係の機能
 堀素子・津田早苗・大塚容子・村田泰美・重光由加・大谷麻美・村田和代 著
 978-4-89476-266-4 2006年2月

要約文の表現類型
 日本語教育と国語教育のために
 佐久間まゆみ 著
 978-4-938669-28-7 1994年3月

▶未発選書4
読むということ
 和田敦彦 著
 978-4-89476-152-0 1997年10月

離婚家庭の面接交渉実態調査
 パパ、ママ離婚しても会えるよね？
 新川てるえ 編
 978-4-89476-233-6 2005年3月

A
 Analytic Dictionary of Abkhaz 47

B
 Bound variables and coreferential pronouns 6

C
 Chunking and Instruction 46
 Communicating Skills of Intention..... 45
 A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules 72
 Corpus Studies on Japanese Kanji 44
 Current Topics in English and Japanese.. 48

D
 The Dative and Related Phenomena 44
 Derivational Linearization at the Syntax-Prosody Interface 47
 Detecting and Sharing Perspectives Using Causals in Japanese 46
 The Development of the Nominal Plural Forms in Early Middle English 46
 Discourse Politeness in Japanese Conversation 6
 Discourse Representation of Temporal Relations in the So-Called Head-Internal Relatives 47

E
 An Enterprise in the Cognitive Science of Language..... 46

F
 Features and Roles of Filled Pauses in Speech Communication 47
 From a Subordinate Clause to an Independent Clause 45

H
 A Historical Study of Referent Honorifics in Japanese 45

J
 Japanese Loanword Phonology 47
 Japanese Syntactic Structure and Their Constructional Meanings..... 43
 Japanese Women’s Listening Behavior in Face-to-face Conversation..... 46

L
 LANGUAGE IN PAPUA NEW GUINEA..... 47
 Lexical Borrowing and its Impact on English 45
 Linguistics..... 53

M
 M. K. ガンディーの真理と非暴力をめぐる言説史 67
 Meaning and the English Verb 53
 Minimalism and Linguistic Theory 48
 ModalP and Subjunctive Present 45

O
 Old English Constructions with Multiple Predicates 6
 OPIの考え方に基づいた日本語教授法 29

P
 A PARAMETORIC APPROACH TO CASE ALTERNATION PHENOMENA IN JAPANESE 44
 Parsing Strategies of Japanese Low-proficiency EFL Learners..... 27
 PETER TAYLOR’S SOUTH 63
 Phrase Structure in Minimalist Syntax 43
 A Pragmatic Approach to the Generation and Gender Gap in Japanese Politeness Strategies..... 46
 The Pragmatics of Negation..... 44

R
 Referent Markings in L2 Narratives..... 27
 ROOTS in Language Acquisition 43

S
 Studies in Endangered Languages..... 44
 Studies in English and Japanese Auxiliaries 4
 Syntactic Projections of Semantics of Aspect 43
 Syntactic Structure and Silence 46
 Syntax and Semantics of Wh-quantifier Interactions..... 43
 The Syntax of FOCUS and WH-Questions in Japanese 44

T
 TCP2000 79
 TCP2001 80
 TCP2002 80
 TCP2003 80
 TCP2004 80
 TCP2005 80
 TCP2006 80
 TCP2007 81
 TCP2008 81
 TCP2009 81
 TCP2010 81
 A Theory of Lexical Functors Light Heads in the Lexicon and the Syntax 43

U
 Unaccusativity in Second Language Japanese and English 43

W
 Writing for Academic Purposes 55

あ
 あいまいなのは日本語か、英語か? 21
 アカデミック・ジャパニーズの挑戦 28
 アカデミックプレゼンテーション入門 55
 アスペクト・テンス体系とテキスト 2
 アメリカの市民生活 57

い
 いかにして言語は変わるか 42

意志表現を中心とした日本語モダリティの通時的研究 13
 移動労働者とその家族のための言語政策 29
 井原西鶴 59
 異文化間コミュニケーションからみた韓国高等学校の日本語教育 25
 いま、図書館に求められるもの フェリス女学院大学の挑戦1 72
 意味と発話行為 41
 意味分析の方法 4
 イメージ・スキーマに基づく格パターン構文 11
 「印欧人」のことは誌 41
 インターフェイス 70
 引用表現の習得研究..... 24

え
 営業のビタミン 71
 英語教育の「意味」ある実践 58
 英語研究の次世代に向けて 13
 英文鑑 17
 江戸長崎紅毛遊学 66
 江戸和学論考 61

お
 王の舞の民俗学的研究 66
 オーストラリアの日本語教育と日本の対オーストラリア日本語普及 30
 沖縄ポピュラー音楽史 67
 教え方を改善する 34
 音声を教える 33
 「女ことば」は女が使うのかしら? 65
 「女ことば」はつくられる 65

か
 海外短期英語研修と第2言語習得 26
 外国人の定住と日本語教育 28
 ガイドブック日本語文法史 51
 ガイドブック文章・談話 51
 ガイドブック方言研究 51
 ガイドブック方言調査 51
 書くことを教える 34
 学習・教授・評価のための日本語教育スタンダード(話技能)の作り方 32
 学習者オートノミー 26
 学習を評価する 34
 格助詞「ガ」の通時的研究 12
 活動としての文と発話 40
 可能性としての文化情報リテラシー 16
 可能性としてのリテラシー教育 61
 韓日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照研究 10

き
 聞いておぼえる関西(大阪)弁入門 31
 聞くことを教える 33
 疑問文と「ダ」 13
 九州西部方言動詞テ形における形態音韻現象の研究 8
 〈教室〉の中の村上春樹 62
 今日から使える発話データベースCHILDES入門 18
 狂言台本とその言語事象の研究 10
 教材開発 34
 「議論」のデザイン 27

く
 草の根NPO運営術 69
 クリティカル・リーディング 56
 グローバル化社会の日本語教育と日本文化 32

| | |
|---------------------------|----|
| 形式名詞がこれでわかる | 20 |
| 形態論と統語論の相互作用 | 15 |
| 芸能の(伝承現場)論 | 65 |
| 結果構文研究の新視点 | 10 |
| 結果構文のタイプロジー | 13 |
| 言語科学の真髄を求めて | 9 |
| 言語学 | 54 |
| 言語機械の普遍幻想 | 18 |
| 言語研究の射程 | 16 |
| 言語人類学から見た英語教育 | 57 |
| 言語政策として「日本語の普及」はどうあったか | 30 |
| 言語政策を問う! | 28 |
| 言語・脳・認知の科学と外国語習得 | 21 |
| 言語表現ことはじめ | 55 |
| 源氏物語 | 59 |
| 現代言語理論と格 | 5 |
| 現代日本語とりたて詞の研究 | 11 |
| 現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究 | 12 |
| 現代日本語における外来語の量的推移に関する研究 | 14 |
| 現代日本語における進行中の変化の研究 | 15 |
| 現代日本語のアスペクト論 | 11 |
| 現代日本語の漢語動名詞の研究 | 6 |
| 現代日本語の疑問表現 | 7 |
| 現代日本語の複合語形成論 | 8 |
| 現代日本語文法 現象と理論のインタラクション | 8 |

| | |
|----------------|----|
| これからの語彙論 | 51 |
| これからのコロケーション研究 | 22 |
| コロケーションの通時的研究 | 12 |

さ

| | |
|-----------------------------|----|
| サイコセラピー面接テキスト分析 | 21 |
| 裁判とことばのチカラ | 21 |
| さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳 | 56 |

し

| | |
|----------------------------|----|
| 私学的、あまりに私学的な | 62 |
| 時間・ことば・認識 | 18 |
| 時間の中の文と発話 | 40 |
| 指示詞 | 3 |
| 自然な日本語を教えるために | 31 |
| 事象概念の記号化に関する認知言語学的研究 | 7 |
| 視点と主観性 | 1 |
| 児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査 | 27 |
| 児童の英語音声知覚メカニズム | 26 |
| 自分でデキル養育費強制執行マニュアル | 71 |
| 市民教育とは何か | 69 |
| 市民の日本語 | 69 |
| 社会参加をめざす日本語教育 | 29 |
| 社会人・学生のための情報検索入門 | 55 |
| ジャワの宗教と社会 | 66 |
| 修辭的モダニズム | 64 |
| 主語と動詞の諸相 | 9 |
| 授与動詞の対照方言学的研究 | 8 |
| 上代語の構文と表記 | 5 |
| 情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイドブック | 72 |
| 昭和十年前後の太宰治 | 37 |
| 初級を教える | 34 |
| 進化する図書館へ | 72 |
| 清国人日本留學生の言語文化接触 | 21 |
| 新編 言葉の意志 | 65 |

せ

| | |
|--------------------------|----|
| 税金を使う図書館から税金を作る図書館へ | 72 |
| 成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上) | 28 |
| 成長する教師のための日本語教育ガイドブック(下) | 28 |
| 接続2001 | 84 |
| 接続2002 | 85 |
| 接続2003 | 85 |
| 接続2004 | 85 |
| 接続2005 | 85 |
| 接続2006 | 85 |
| 接続2007 | 86 |
| 接続2008 | 86 |
| 接続2009 | 86 |
| 接尾辞「け」と助動詞「そうだ」の通時的研究 | 13 |
| 戦時中の話しことば | 17 |

そ

| | |
|------------|----|
| 続・愉快な日本語講座 | 20 |
|------------|----|

た

| | |
|--------------------------|----|
| 大学生『火車』を読む フェリス女学院大学の挑戦2 | 72 |
| 「大学生」になるための日本語1 | 56 |
| 「大学生」になるための日本語2 | 56 |
| 対照言語学の新展開 | 7 |
| 対人関係構築のためのコミュニケーション入門 | 30 |
| コミュニケーション、どうする? どうなる? | 16 |
| コミュニケーション能力育成再考 | 25 |
| これから研究を書くひとのためのガイドブック | 54 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 省」活動の研究 | 25 |
| 第二言語の音韻習得と音声言語理解に關与する言語的・社会的要因 | 26 |
| たなぼた主義 | 71 |
| 「た」の言語学 | 48 |
| 多文化社会オーストラリアの言語教育政策 | 29 |
| 多民族社会の言語政治学 | 31 |
| 田村俊子 | 60 |
| 「単位」としての文と発話 | 40 |
| 探検! ことばの世界 | 53 |

ち

| | |
|-------------------|----|
| 中国現代文学 1 | 68 |
| 中国現代文学 2 | 68 |
| 中国現代文学 3 | 68 |
| 中国現代文学 4 | 68 |
| 中国現代文学 5 | 68 |
| 中国現代文学 6 | 68 |
| 中国現代文学 7 | 68 |
| 中国人学生の綴った戦時中日本語日記 | 27 |
| 中古語過去・完了表現の研究 | 14 |
| 中古・中世の言葉づかいの研究 | 4 |
| 中・上級を教える | 34 |
| 中世王朝物語の引用と話型 | 61 |
| 朝鮮語入門 | 57 |
| 朝鮮語入門2 | 57 |

つ

| | |
|------------|----|
| 都竹通年雄著作集 2 | 17 |
|------------|----|

て

| | |
|------------------|----|
| テキスト・語り・プロット | 63 |
| テキストはどのように構成されるか | 41 |
| デジタルテキストの技法 | 70 |
| 伝承と言語 | 64 |

と

| | |
|------------------------|----|
| ドイツ語再帰構文の対照言語学的研究 | 10 |
| 東京弁は生きていた | 66 |
| 統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究 | 24 |
| 動詞九章 | 7 |
| 動詞の自他 | 3 |
| 徳田秋聲 | 59 |
| 都立図書館は進化する有機体である | 72 |

に

| | |
|------------------------------|----|
| 21世紀における語ることの倫理 | 61 |
| 21世紀の学問のすずめ | 69 |
| 21世紀の公私年金政策 | 69 |
| 日英語の右方移動構文 | 48 |
| 日英語の自他の交替 | 5 |
| 日本近代語研究 2 | 23 |
| 日本近代語研究 5 | 23 |
| 日本語eラーニング教材設計モデルの基礎的研究 | 25 |
| 日本語 意味と文法の風景 | 5 |
| 日本語音韻史の研究 | 15 |
| 日本語がいっぱい | 56 |
| 日本語会話における言語・非言語表現の動的構造に関する研究 | 10 |
| 日本語学習者の「から」にみる伝達能力の発達 | 26 |
| 日本語教育学研究への展望 | 26 |
| 日本語教育からの音声研究 | 26 |
| 日本語教育スタンダード試案 語彙 | 31 |
| 日本語教育政策ウォッチ2008 | 28 |
| 日本語教育のためのプログラム評価 | 27 |
| 日本語教育文法研究のための多様なアプローチ | 30 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 日本語教師の役割/コースデザイン | 33 |
| 日本語形容詞の文法 | 10 |
| 日本語形態の諸問題 | 14 |
| 日本語形態論 | 2 |
| 日本語・国語の話題のネタ | 62 |
| 日本語指示詞の歴史的研究 | 12 |
| 日本語条件表現史の研究 | 4 |
| 日本語情態修飾関係の研究 | 15 |
| 日本語助詞シカに関わる構文構造的な研究 | 8 |
| 日本語随筆テキストの諸相 | 9 |
| 日本語存在表現の歴史 | 1 |
| 日本語と韓国語の受身文の対照研究 | 24 |
| 日本語とジェンダー | 17 |
| 日本語における聞き手の話者移行適格場の認知メカニズム | 11 |
| 日本語のアクセント、英語のアクセント | 20 |
| 日本語のアスペクト・テンズ・ムード体系 | 7 |
| 日本語の引用 | 1 |
| 日本語の音 | 50 |
| 日本語の構造変化と文文化 | 9 |
| 日本語の主文現象 | 9 |
| 日本語の情報構造と統語構造 | 5 |
| 日本語の助詞と機能範疇 | 8 |
| 日本語の対人関係把握と配慮言語行動 | 19 |
| 日本語のテキスト | 2 |
| 日本語の文章理解過程における予測の型と機能 | 11 |
| 日本語の文法 | 50 |
| 日本語の文法カテゴリをめぐって | 37 |
| 日本語のモダリティとその周辺 | 37 |
| 日本語のモダリティと人称 | 1 |
| 日本語表現能力を育む授業のアイデア | 27 |
| 日本語文法体系新論 | 15 |
| 日本語文法の記述的研究を求めて | 37 |
| 日本語文法の諸問題 | 5 |
| 日本語文法の発想 | 6 |
| 日本語方言一型アクセントの研究 | 5 |
| 日本語名詞句の意味論と語用論 | 2 |
| 日本語要説 | 50 |
| 日本語連体修飾師構造の研究 | 13 |
| 日本語を書くトレーニング | 54 |
| 日本語を話すトレーニング | 54 |
| 日本語事情・日本文化を教える | 34 |
| 日本人と外国人のビジネス・コミュニケーションに関する実証研究 | 10 |
| ニュータウン言葉の形成過程に関する社会言語学的研究 | 10 |
| 入門 生成言語理論 | 52 |
| 認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得 | 25 |
| 認知言語学研究の方法 | 22 |
| 認知言語学論考 No.1 | 73 |
| 認知言語学論考 No.2 | 73 |
| 認知言語学論考 No.3 | 73 |
| 認知言語学論考 No.4 | 74 |
| 認知言語学論考 No.5 | 74 |
| 認知言語学論考 No.6 | 74 |
| 認知言語学論考 No.7 | 74 |
| 認知言語学論考 No.8 | 74 |
| 認知言語学論考 No.9 | 74 |
| 認知と社会の語用論 | 41 |
| 認知文法論 | 1 |
| 認知物語論とは何か? | 65 |

ね

| | |
|-------|----|
| ネチケット | 70 |
|-------|----|

の

| | |
|------------|----|
| 脳からの言語研究入門 | 22 |
| 能の多人数合唱 | 66 |

| | |
|-------------------------------|----|
| 「へはへ」のはなし | 17 |
| 発話行為的引用論の試み | 8 |
| 発話者の言語ストラテジーとしてのネゴシエーション行為の研究 | 9 |
| 発話と文のモダリティ | 17 |
| 話すことを教える | 33 |
| 「ハル」歌語考 | 12 |
| 判定質問に対する返答 | 12 |
| パントゥ諸語動詞アクセントの研究 | 4 |
| パントゥ諸語分岐史の研究 | 15 |

ひ

| | |
|--------------------------------|----|
| ピア・ラーニング入門 | 31 |
| ピアで学ぶ大学生の日本語表現 | 54 |
| ひさみをめぐる冒険 | 71 |
| ビジネス・コミュニケーションのための日本語 | 59 |
| ひつじアンソロジー詩編 | 62 |
| ひつじアンソロジー小説編I | 62 |
| ひつじアンソロジー小説編II | 62 |
| ひつじ意味論講座 第1巻 | 35 |
| ひつじ意味論講座 第2巻 | 35 |
| ひつじ意味論講座 第3巻 | 35 |
| ひつじ意味論講座 第4巻 | 35 |
| ひつじ意味論講座 第5巻 | 35 |
| ひつじ意味論講座 第6巻 | 36 |
| ひつじ意味論講座 第7巻 | 36 |
| ひとは発話をどう理解するか | 41 |
| 非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究 | 25 |
| ひらけ! T-TIME | 70 |
| 広げる知の世界 | 55 |

ふ

| | |
|--------------------------|----|
| ファンダメンタル英語学 | 51 |
| ファンダメンタル英語学演習 | 52 |
| ファンダメンタル英語学 | 53 |
| ファンダメンタル英文法 | 52 |
| ファンダメンタル音声学 | 52 |
| フィクションの機構 | 64 |
| 複合辞からみた日本語文法の研究 | 14 |
| 複合助詞がこれでわかる | 20 |
| 複合動詞・派生動詞の意味と統語 | 7 |
| 副詞的表現をめぐって | 17 |
| ブラジル日系・沖縄系移民社会における言語接触 | 16 |
| フランス語学の最前線 1 | 82 |
| プロフィジェンシーから見た日本語教育文法 | 29 |
| プロフィジェンシーと日本語教育 | 29 |
| 文化間移動をする子どもたちの学び | 31 |
| 文学者はつづられる | 64 |
| 文学の階層図 | 62 |
| 文科系ストレイプのための研究生活ガイド | 55 |
| 文科系ストレイプのための研究生活ガイド 心持ち編 | 55 |
| 文化と会話スタイル | 41 |
| 文芸映画 | 60 |
| 文化化とイデオロム化 | 6 |
| 文法と語形成 | 2 |
| 文法を教える | 33 |

へ

| | |
|---------------|----|
| 平家物語 | 60 |
| 平家物語の多角的な研究 | 61 |
| ベーシック新しい英語学概論 | 52 |
| ベーシック英語史 | 53 |
| ベーシック現代の日本語学 | 50 |
| ベーシックコーパス言語学 | 52 |
| ベーシック生成文法 | 52 |

| | |
|------------|----|
| ベーシック日本語教育 | 56 |
| 変化する英語 | 53 |

ほ

| | |
|-----------------------------|----|
| 方言地理学の展開 | 4 |
| 方言の発見 | 22 |
| 法コンテキストの言語理論 | 14 |
| 僕らには親が別れても愛される権利がある! 1 | 71 |
| 母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて | 24 |
| ポスターの社会史 | 70 |

ま

| | |
|-------------------------|----|
| マイノリティの名前はどのように扱われているのか | 29 |
| 枕草子 | 59 |
| 松尾芭蕉 | 59 |
| マックで中国語 | 70 |
| 学びのエクササイズ ことばの科学 | 53 |
| 学びのエクササイズ 日本語文法 | 50 |
| 学びのエクササイズ 認知言語学 | 54 |
| 学びのための英語学習理論 | 58 |
| 学びのための英語指導理論 | 58 |
| マルチリンガル教育への招待 | 30 |
| 萬葉集と上代語 | 5 |

み

| | |
|-----------|----|
| 三尾砂著作集 I | 16 |
| 三尾砂著作集 II | 16 |

む

| | |
|------|----|
| 村上春樹 | 60 |
|------|----|

め

| | |
|----------------------|----|
| 目指せ、日本語教師力アップ! | 30 |
| 目覚めよ! チャレンジ精神 | 69 |
| メタファー研究の最前線 | 19 |
| メディアとことば 1 | 75 |
| メディアとことば 2 | 75 |
| メディアとことば 3 | 76 |
| メディアとことば 4 | 76 |
| メディアの中の読者 | 64 |
| メンタルスペース理論による日仏英時制研究 | 13 |

も

| | |
|---------------|----|
| 文字・語彙を教える | 33 |
| 物語・オーラリティ・共同体 | 64 |
| 物語学入門 | 58 |
| 「も」の言語学 | 48 |
| 問題を通して学ぶ 生成文法 | 52 |

や

| | |
|------------|----|
| 山田文法の現代的意義 | 18 |
|------------|----|

よ

| | |
|---------------|----|
| 養蚕語彙の文化言語学的研究 | 12 |
| 読むことを教える | 34 |

り

| | |
|-------------------|----|
| 離婚後の親子関係サポートBOOK | 71 |
| リフレクティブな英語教育をめざして | 57 |
| 留學生の日本語は、未来の日本語 | 21 |

る

| | |
|-----------------|----|
| ルネッサンスパブリッシャー宣言 | 70 |
|-----------------|----|

れ

レキシコンフォーラム No.1 78
 レキシコンフォーラム No.2 78
 レキシコンフォーラム No.3 78
 レキシコンフォーラム No.4 78
 レキシコンフォーラム No.5 78
 連体即連用? 9
 連用・連体を考える 18

ろ

ロールプレイ玉手箱 30

わ

話者の視点がつくる日本語 16

A

Achla M. Raina 80
 Aijun Huang 81
 Akira Kikuchi 48
 Akira Watanabe 48, 81
 Akira Y. Yamamoto 44
 Amanda Gardner 80
 Anastasia Conroy 80
 Andrea Gualmini 80, 81
 Angelika Kratzer 80
 Anna Notley 81
 Anne Gwinner 81
 Annie Tremblay 81
 Arnulf Deppermann 83
 Atsushi Sato 81
 Aya Takeda 81

B

Barış Kahraman 81
 Beth Rabbin 80
 Bipin Indurkha 19
 Bonnie D. Schwartz 79
 Bosook Kang 80
 Brian MacWhinney 18
 Britta Biedermann 81
 Britta Jensen 81

C

Carlos Inchaurrealde 19
 Cecile van der Weert 80
 Cedric Boeckx 81
 Chiaki F. Komatsu 79
 Chiara Branchini 81
 Chieko Kuribara 80
 Ching-Fen Hsu 80
 Chira Cantiani 81
 Chizuru Nakao 80
 Christopher Tancredi 81
 Chunyuan Jing 80
 Cristina Schmitt 81
 Cui Yue Yan 56

D

Daisuke Miyamoto 78
 Daniel Yaffee 79
 Dan Sperber 80
 David Bradley 44
 David Pesetsky 80
 David Stringer 80
 Deirdre Wilson 17, 80
 Dorit Ben-Shalom 80
 Duk-Ho An 80
 Dylan Herrick 80

E

E. Annamalai 44
 E. C. Traugott 18
 Edson T. Miyamoto 80
 Eleonora Carrarieri 81
 Elisabeth Beyersmann 81
 Emanuela Tenca 81
 Ether Torrego 80

F

Fabrizio Arosio 81
 Flavia Adani 81
 Francesco-Alessio Ursini 81
 Fusa Katada 48

G

Galina Gordishevsky 80
 Geoffrey N. Leech 53
 Graciela Tesan 80

H

Hajime Ono 80, 81
 Hanae Norita 80
 Hanako Fujino 79
 Harish Karnick 80
 Haruka Fukazawa 79, 80, 81
 Harumi Sawai 44
 Heather Marsden 80
 Heiko Narrog 78
 Helen Goodluck 80
 Henk van Riemsdijk 9
 Hideaki Yamashita 80, 81
 Hideki Kishimoto 78
 Hideki Maki 81
 Hideo Hayashibe 79
 Hirohisa Kiguchi 80
 Hiroki Narita 81
 Hiromi Morikawa 79
 Hiromu Sakai 48, 81
 Hironobu Kasai 80
 Hiroto Hoshi 78
 Hiroyuki Ura 48, 81
 Ho Leung Chan 80
 Howard Lasnik 48
 Hye Sun Park 81

I

Isabelle Charnavel 81
 Isao Ueda 78

J

Jae-ho Lee 80
 Jean Aitchison 53
 Jeannette Schaeffer 80
 Jeffrey Witzel 80
 Jeonghwa Shin 81
 Jiro Inaba 81
 Jon Nissenbaum 80
 Joseph Emonds 78
 Julia Herschensohn 80
 Jun Abe 48
 Junggho Kim 78
 Junko Shimoyama 80

K

Kana Ito 81
 Kaori Takamine 81
 Kayono Shiobara 80
 Keiko Kaku 81
 Keiko Matsunaga 80
 Keiko Nakamoto 80
 Ken-ichi Mihara 48
 Ken-ichi Ariji 80
 Ken Hiraiwa 80, 81
 Kenichi Goto 81
 Kensuke Takita 81
 Ken Wexler 81
 Kimi Akita 78
 Kingkarn Thepkanjana 13, 74
 Kiyoko Yoneyama 78
 Knut Bergsland 44
 Koichi Otaki 81
 Koichi Takezawa 48
 Koji Sugisaki 79, 80, 81
 Kow Kuroda 80
 Kuniya Nasukawa 80

L

Lamya Al-Abdulkarim 81
 Linda Lombardi 79
 Ling XIAO 80
 Loes Koring 81
 Lucie Ménard 81
 Luigi Rizzi 9
 Luisa Lorusso 81
 Luisa Meroni 80
 LUNA CAT 70
 Lydia White 80
 Lyndsey Nickels 81

M

M.A.K.ハリディ 41
 Mafuyu Kitahara 80
 Maki Yamane 80
 Makoto Kadowaki 80
 Mami Fukushi 81
 Mamoru Saito 80
 Maria Luisa Lorusso 81
 Maria Teresa Guasti 80, 81
 Marie Labelle 81
 Mark C. Baker 80
 Masahiko Takahashi 81
 Masakazu Kuno 80
 Masaru Nakamura 48
 Masashi Nomura 80, 81
 Masatoshi Koizumi 48, 78, 80
 Masaya Yoshida 80
 Masayuki Komachi 81
 Massiomo Molteni 81
 Matteo Forgiarini 81
 Matthias Brenzinger 44
 Megumi Hasebe 81
 Melinda Whong-Barr 79
 Michael Krauss 44
 Michael Siegal 81
 Michiyo Hamasaki 81
 Miho Fujiwara 81
 Mikihiro Tanaka 80
 Mineharu Nakayama 81
 Misako Hatayama 81
 Misato Hiraga 80
 Mitsuhiko Ota 80
 Miwa Isobe 79, 80
 Miyagi Sadamitsu 74
 Motoki Nakajima 80

N

Nao Ishino 81
 Naoki Kimura 78
 Naoko Ouchi Witzel 80
 Naoko Tomioka 13
 Nao Nakano 81
 Naoto Tomisawa 48
 Natsuko Katsura 80
 Nigel Duffield 81
 Nina Hyams 46, 81
 Nobuko Hasegawa 48
 Noriaki Yusa 80, 81
 Noriko Hattori 80
 Noriko Yoshimura 81
 NPO 法人 Wink 71

O

Öner Özçelik 81
 Osami Okuda 44

P

Paolo Perego 81
 Peggy Li 80

Pei-Jung Kuo 81
 Peng Zhou 81

Q

Qiong-peng Luo 81

R

Richard Kayne 9
 Roberta Tedeschi 81
 Robyne Tiedeman 48
 Rosalind Thornton 80
 Rosalynn S. Chiu 81
 Rungthip Rattanaphanusorn 74

S

Sandiway Fong 80
 Satoko Ichikawa 79
 Seiji Naito 48
 Seiki Ayano 80
 Shane Xuexin Cao 80
 Shan Xingyuan 80
 Shari R. Speer 81
 Sharon Unsworth 80
 Shigeo Tonoike 48
 Shinichiro Ishihara 80
 Shoichi Takahashi 80
 Somsukla Banerjee 80
 Stephen A. Wurm 44
 Stephen Crain 46, 80, 81
 Stuart Davis 78
 Susan Carey 80
 Susan Curtiss 81
 Suwilai Premrirat 44

T

Taeko Teramoto 79
 Takaomi Kato 79, 80
 Takashi Munakata 81
 Takuya Gouro 80
 Tatsuya Isono 78
 Tatsuya Suzuki 48
 Teodor Ajder 80
 Tetsuya Sano 79
 Thomas Hun-tak Lee 80, 81
 Thomas Roeper 46, 81
 Ting Xu 81
 Tomohiro Fujii 80
 Tomokazu Takehisa 80
 Toru Okamura 47
 Toshiko Oda 80, 81
 Travis Wade 81

U

Utako Minai 80

V

Vida Yu. Mikhailchenko 44
 Vincenzo Moscati 81

W

Willem F.H. Adelaar 44
 William Snyder 46, 79, 80, 81
 William Tsuyoshi McClure 43

X

Xiaolu Yang 81
 Xin CAI 80

Y

Yarrow Dunham 80
Yasuhiro Sasahira 81
Yasuko Taniwaki 78
Yi (Esther) Su 81
Yi-An Lin 81
Yi-Ting Chen 81
Yoshiaki Kaneko 48
Yoshikata Shibuya 74
Yoshio Endo 48
Yuji Takano 48
Yuki Shige Tamura 74
Yuki Hirose 79, 80
Yukiko Koizumi 81
Yukiko Ueda 81
Yukio Furukawa 81
Yukio Otsu 46
Yumi Sakai 80

あ

相澤正夫 5
相沢正毅 61
相原昌彦 17
青木三郎 48, 54, 82
青木直子 26
青木博史 9, 14, 35, 51
青木伶子 3
青柳宏 8
青山康高 74
赤野一郎 22
赤間亜生 62
秋田喜美 78
秋永一枝 66
秋元実治 6, 13, 18, 35
秋元美晴 31
阿久澤佳之 23
朝尾幸次郎 55
浅田秀子 5
安里和晃 28
朝日祥之 10, 38
味岡美生子 55
梓沢直代 26
阿成 68
足立公平 73
安達太郎 35
足立祐子 29
阿知波真知子 38
跡上史朗 62
阿部慶賀 19
阿部圭子 39
安部公房 62
阿部潤 52
阿部朋世 8
阿部泰明 35
阿部洋子 34
天沢退二郎 62
天野みどり 3, 50
綾部保志 57
新井小枝子 12
荒尾禎秀 23
荒川洋治 62
有元光彦 8
アルフレッド・ジェル 18
安房直子 62
安西冬衛 62
安藤貞雄 35, 41, 53
安藤徹 59, 61
アンドリュウ・バーク 7
アンドレイ・ベケシュ 48
アンドレイ・マルティネ 41
アントワーヌ・メイエ 42
安平鏡 48
安間一雄 27
アンリ・オレック 26

い

飯田由幸 41
飯田隆 35
家入業子 53, 55
庵功雄 30, 36
五十嵐海理 41
伊狩弘 62
李吉鎔 16
生田裕子 30
池内正幸 9
池上高志 73
池上嘉彦 20, 31, 35, 73, 74
池田智子 26
池田佳子 76
池田玲子 31, 54
池本和夫 85
伊佐淳 69
伊坂淳一 50
井佐原均 19
石井恵理子 38
石井正彦 3, 8, 51
石神照雄 18
石川邦芳 47
石川慎一郎 52, 55
石川有香 55
石黒圭 11
井島正博 14, 18
井出万秀 83
李貞吹 10
石綿敏雄 5
泉鏡花 62
出雲朝子 23
磯部美和 46
磯村一弘 33
磯花輝子 38
板垣信哉 21
井出祥子 38
朝尾幸次郎 74
井出里咲子 38, 76
伊藤悦子 61
伊東静雄 62
伊藤淳子 71
伊藤淳子 71
伊藤祐郎 26
伊藤たかね 78
伊藤孝行 23
伊藤健人 11
伊藤比呂美 62
伊藤善隆 59
伊藤理英 51
糸賀雅児 72
井土慎二 21
乾健太郎 78
井上和子 3
井上和人 59
井上京子 19, 38
井上洋 29
井上史雄 38
井上優 35, 48
李漢燮 18
今井邦彦 9, 20, 21, 52
今井澄子 74
今井裕之 57
今井むつみ 20
今井良広 69
今仁生美 35
今西典子 20
林炫情 78
井元秀剛 13, 82
井本亮 13
岩崎志真子 40
岩崎勝一 40
岩崎祥一 21
岩田彩志 13, 78
岩田夏穂 27, 54
岩田祐子 38
岩本遠徳 78

い

印省照 14
ウエスリー・M・ヤコブセン 3
上田由紀子 17
上原かおり 68
上原聡 7, 13, 35, 73
ウォーレス・チェイフ 18
宇佐美まゆみ 6, 38
氏原庸子 31
碓井智子 74
内田安伊子 12
内田慶市 70
内田聖二 17
内田樹 62
内田富男 86
内田康 61
内元清貴 19
宇津木成介 16
内海彰 19
内海敦子 19
宇野良子 46, 73
梅田俊英 70
梅谷博之 16
漆谷広樹 13
上野善道 20
越後敬子 59
江戸川乱歩 62
榎本剛士 57
榎本美香 11, 39, 40
エレン・ウィナー 42
遠藤織枝 17, 27
遠藤薫 38
遠藤智子 35
遠藤美香 46
遠藤光暁 18
王景傑 26
大石泰夫 65
大泉黒石 62
大門正幸 6
大木一夫 18
大隅敦子 34
大沢正善 62
大柴ひさみ 71
大島資生 13, 18
大島弥生 27, 54
大城悦子 59
大隅敦子 34
大曾美恵子 78
太田栄次 16
大滝宏一 46
大谷直輝 22, 74
大谷麻美 41
大塚容子 41
大月実 74
大津由紀雄 20, 28, 46, 53, 79, 80, 81
大津由紀雄研究室 57
大友麻子 78
大名力 22
大野剛 40
大庭健 35
大濱信宏 69
大原由美子 75
大場理恵子 27, 54
大堀壽夫 7, 35
大村吉弘 41
大室剛志 51
大谷真徳 61
大矢俊明 10, 83

え

お

岡崎友子 12
岡澤孝雄 55
岡島昭浩 18
岡田昭人 26
岡隆 39
尾形亀之助 62
岡田袈裟男 14
尾形こづえ 18
岡田浩樹 16
岡田光弘 75
岡智之 73
岡ノ谷一夫 20
岡本かの子 62
岡本順治 83
岡本真一郎 38
岡本能里子 75, 76
岡本牧子 31
小川曉夫 40
小川一美 38
小木直美 56
沖裕子 22, 40
奥住桂 58
奥津敬一郎 3, 9
奥野忠徳 35, 48
奥村みさ 31
桶谷仁美 30
生越直樹 31
尾崎喜光 19
押尾和美 34
押野武志 62
小平麻衣子 60
小田涼 82
尾上圭介 18, 20
小野田美都江 72
小野尚之 5, 7, 10, 13, 35, 78
小野文生 19
小野正樹 35
小野正弘 23, 51
小原京子 78
甲斐雄一郎 28
加賀信広 10, 35
郭俊海 31
郭碧蘭 26
影浦峯 36, 51
影山太郎 2, 3, 5, 10, 13, 35, 77, 78
笠原順路 84
梶茂樹 78
柏本吉章 35
柏崎雅世 20, 26
加瀬佳代子 67
片岡邦好 19, 39
片桐恭弘 39, 40
加藤昌彦 16
加藤三三 10, 22, 78
加藤重広 16, 36, 53
加藤澄 21
加藤恒昭 78
加藤哲夫 69
加藤由香里 25
門倉正美 28
神奈川県自治総合研究センター 69
金川幸司 69
金澤裕之 21, 23
金杉高雄 74
金森康 69
金子明雄 60
金子俊之 59
かねこひさかず 5
金子尚一 50
金子弘 23
金子光晴 62
桶見孝 5, 14, 50
金田純平 40

か

金田房子 59
金庭久美子 31, 32
加納なおみ 54
加野まきみ 45
鎌田修 1, 29
神山孝夫 41
茅野佳子 63, 84, 85, 86
香山リカ 16
かりまたしげひさ 10
狩俣繁久 18
カレル・フィアラ 5, 18
川上泰 23
川口順二 82
川口義一 28
川島隆大 7
川田順造 18
川端朋広 13
川平芳夫 7
韓金柱 26
神崎高明 35
神作晋一 23
神辺靖光 84, 85
姜奉植 7
菊地敦子 7, 70
菊地滋夫 84, 85, 86
菊地康人 5
岸本千秋 75
岸本秀樹 5, 17, 35, 52, 78
北尾S.キャスリーン 55
北尾謙治 55
北川千里 9
北川千代 62
北川善久 9
北澤尚 23
喜多壮太郎 38
木谷直之 34
北野浩章 7, 40
北原博雄 13
木田真理 33
北山修 36
木内良行 82
木原恵美子 74
祁福鼎 23
木部暢子 10, 22
金銀珠 18
金銀美 26
金愛子 26
金情治 21
金廷琨 21
金孝卿 25, 34
金賢信 25
金庚秀 86
木村大治 39
木村拓 17
木村忠正 38
木山三佳 26
袁山山 68
許慧 16
清瀬義三郎即府 15
清田淳子 24
清塚邦彦 36
吉良文孝 35
金粟子 26
金水敏 1, 3
近代語研究会 23
久木田恵 22
釘貫亨 18
串田秀也 39, 40
久島茂 5, 35
齋藤知也 61, 62
齋藤ひろみ 31
工藤和也 78
齋藤嘉名子 26
工藤浩 5, 14, 18, 50
工藤真由美 2, 7, 10, 16, 27
国広哲弥 5, 35, 78
久野輝 3, 9
九里順子 62
久保進 36, 41
窪園晴夫 20, 78
久保田美子 33, 34
久保美織 43
熊谷由理 29
酒井智宏 58
倉持保男 5
栗山千香子 68
栗山直子 71
クリア マリ 9, 36
黒川桃子 59
黒木朋興 61
黒滝真理子 35
黒田航 10, 19, 22, 74
黒田成幸 3
黒田亨 83
桑原和生 48
小泉政利 43
小磯花絵 39, 40
洪郁如 85, 86
紅莉 68
黄慧 26
黄慶法 27
江田優子ベギー 31
合田陽祐 61
紅野謙介 59
小財陽平 59
小迫勝 12
小嶋秀樹 38
児玉一宏 11
児玉徳美 36
小玉安恵 33
小林一岳 84, 85, 86
小林賢次 4, 10, 50
小林隆 22, 39, 51
小林千草 23
小林孔 59
小林英博 6, 78
小林昌博 7
小林幸江 20, 26
小針透樹 18
児馬修 53
小森和子 78
小森淳子 16
子安増生 19
木屋多恵子 22
小柳晋一 18, 51
小矢野哲夫 5
小山哲春 11
小山巨 39, 57
是永諭 75
近藤安月子 31
近藤彰 24, 38, 57
近藤絵美 7
近藤直子 68
近藤雅恵 14
近藤泰弘 18, 35
近藤要司 51
今野真二 18
久木田恵 22
釘貫亨 18
串田秀也 39, 40
久島茂 5, 35
齋藤知也 61, 62
齋藤ひろみ 31

き

く

小泉政利 43
小磯花絵 39, 40
洪郁如 85, 86
紅莉 68
黄慧 26
黄慶法 27
江田優子ベギー 31
合田陽祐 61
紅野謙介 59
小財陽平 59
小迫勝 12
小嶋秀樹 38
児玉一宏 11
児玉徳美 36
小玉安恵 33
小林一岳 84, 85, 86
小林賢次 4, 10, 50
小林隆 22, 39, 51
小林千草 23
小林孔 59
小林英博 6, 78
小林昌博 7
小林幸江 20, 26
小針透樹 18
児馬修 53
小森和子 78
小森淳子 16
子安増生 19
木屋多恵子 22
小柳晋一 18, 51
小矢野哲夫 5
小山哲春 11
小山巨 39, 57
是永諭 75
近藤安月子 31
近藤彰 24, 38, 57
近藤絵美 7
近藤直子 68
近藤雅恵 14
近藤泰弘 18, 35
近藤要司 51
今野真二 18
久木田恵 22
釘貫亨 18
串田秀也 39, 40
久島茂 5, 35
齋藤知也 61, 62
齋藤ひろみ 31

さ

齋藤文俊 18
齋藤倫明 3, 6, 18, 51
齋美智子 14, 50
佐伯真一 61
佐伯晴子 39
早乙女民 53
境敦史 85, 86
酒井邦義 20
坂井孝一 61
酒井順一郎 21
酒井祥子 30
酒井信一郎 75
酒井智宏 74, 82
阪井恵 85, 86
榎原富士子 71
坂口安吾 62
阪倉篤義 3
阪田雪子 3
坂原茂 35, 82
坂本勉 19, 45
坂本哲平 23
坂本浩 78
坂本真樹 19, 73
坂本恵 26
崎田智子 74
崎山理 18
佐久間鼎 3
桜井隆 17
桜井政紀 69
佐倉由泰 61
佐々木冠 7
佐佐木隆 5, 64
佐々木孝浩 61
佐々木瑞枝 17
佐々木泰子 56
菅原宏之 38, 51
佐々祐子 7, 21
佐竹久仁子 51, 76
佐竹秀雄 38, 51, 76
定延利之 16, 40, 51
貞光宮城 74
佐藤彰 39, 75, 76
佐藤勝明 59
佐藤清隆 61
佐藤都衛 31
佐藤里美 10
佐藤滋 7
佐藤慎司 29
佐藤貴裕 23
佐藤裕美 17
佐渡島紗織 54
真田信治 31, 50
真田治子 23
実松克義 55
佐野哲也 43, 46
佐野正人 62
佐野正俊 62
澤田治 35
澤田和浩 5
澤田淳 35
澤田治美 1, 4, 5, 9, 35, 36, 53
澤村明 69
澤村美幸 22
残雪 68
山東功 16, 18
ジェイムズ・A・マティソフ 18
ジェームズ エセグベイ 38
ジェーン H. ヒル 38
ジェフ・ヴァーシューレン 41
塩田英子 41, 75
塩原朝子 16
塩原佳世乃 47
塩原良和 29
重光由加 38, 41

施淑恵 14
史鉄生 68
篠崎晃一 22, 51
篠崎稔子 33
篠原和子 19, 74
柴崎秀子 78
柴原智代 34
渋谷良方 19
嶋田和子 30
島谷浩 55
島田徳子 34
嶋田裕司 74
嶋津拓 30
島村輝 59
島村直己 23
清水淳 26
清水哲男 62
清水登 23
清水誠 83
清水道子 63
朱春羅 16
徐一平 31
昇地崇明 16
徐坤 68
徐則臣 68
鄭媽婷 21
鄭英淑 23
白井純子 39
白井恭弘 7
白川博之 40
白勢彩子 39
城田俊 2, 50
申亜敏 13, 78
進化する図書館の会 72
新川てるえ 71
進藤三佳 19, 74
陣内正敬 22
新屋映子 9
菅井三実 35, 74
須貝千里 62
須賀一好 3, 5
菅長理恵 26
菅谷明子 72
菅原剛 78
杉浦滋子 5, 6
杉浦まそみ子 24
杉岡洋子 78
杉崎弘司 46
杉藤美代子 20
杉村泰 12, 35
杉本つとむ 17, 66
助川幸逸郎 61, 62
スコット・サフト 75
鈴木晶子 19
鈴木綾乃 26
鈴木淳 61
鈴木泰 1, 5, 11, 14, 50
鈴木猛 43, 46
鈴木智映子 17
鈴木亨 10
鈴木敏明 5
鈴木利彦 46
鈴木智美 20, 26, 51
鈴木博 23
鈴木泰恵 38
鈴木泰恵 61
鈴木右文 9, 48
鈴木涉 21
鈴木洋一 50
須田義治 11, 14, 35
ズデンカ・シュヴァルツォヴァー 18
スネジヤナ ヤンコヴィッチ 14
須山名保子 10
蘇雅玲 21

す

世 関口久雄 70 関根和生 19 瀬田幸人 52 『接続』刊行会 84, 85, 86 薛鳴 38 瀬戸賢一 19 善如寺俊幸 26 千野拓政 84, 85 全勇先 68

そ 添田建治郎 20 曾我祐典 82 蘇童 68 染谷智幸 59

た ダイアン・ブレイクモア 41 大坊郁夫 38 平香織 7, 21 平知宏 19 平真木夫 19 高江洲頼子 10 高木智世 40 高木信 60, 61 高崎みどり 9, 51 高島美穂 84, 85, 86 高田博行 83 高梨光也 38, 40 高野照司 39 高橋圭子 75 高橋秀太郎 62 高橋大厚 7 高橋太郎 3, 5, 7, 50 高橋典幸 61 高橋英光 73 高橋美樹 67 高橋淑郎 54 高見健一 9, 35, 48 高本條治 36 高山倫明 15 高山道代 14 高山善行 35, 51 多ヶ谷有子 61 滝浦真人 20, 35 瀧本誓 38 田窪行則 3 竹内孔一 78 武内信一 13 武内道子 17, 41 竹下義人 59 竹野谷みゆき 75, 76 田子内健介 48 太宰治 62 田地野彰 55 田尻英三 28 田尻由美子 31, 32 立岡浩 69 立川和美 9, 51 立川武蔵 18 笠原道造 62 館岡洋子 31, 56 田中章夫 23 田中江扶 78 田中茂範 5 田中慎 83 田中伸一 52 田中真一 78 田中宏 28 田中寛 14, 24 田中穂積 50 田中雅敏 83 田中実 62

田中ゆかり 39 ダニエラ・カルヤヌ 7, 48 ダニエル・ヴァンダーヴェーケン 41 ダニエル・ロング 38 谷岡慎一 69 谷川俊太郎 62 谷口一美 7, 54, 74 谷口祥一 72 田野村忠温 5, 22, 35, 51 田畑智司 22 田原いずみ 82 玉井健 57 玉岡賢津雄 22, 44, 78 玉城司 59 玉村文郎 3 多村栄輝 70 多門靖容 19 田山のり子 26

ち 千金楽健 61 千明守 61 遅子建 68 千葉省三 62 中国現代文学翻訳会 68 張学東 68 張曉雨 68 張曉瑞 86 張小波 68 張悅然 68 張麗 68 池映任 78 陳染 68 陳丹燕 68 陳慧玲 23 陳力衛 23

塚本秀樹 7, 15 月本洋 19 つくば言語文化フォーラム 48 辻加代子 12 辻大介 75 津島知明 61 辻幸夫 22 都竹通年雄 17 津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ 42 筒井洋一 28, 55 都築雅子 10 堤正典 17 堤良一 29, 56 角田太作 5 椿実 62 坪田謙治 62 坪山由美子 34 津留崎由紀子 14 鶴橋俊宏 23

と 東京外国語大学留学生日本語教育センターグループKANAME 20

東京都立中央図書館 72 東郷寛 69 東郷雄二 82 東北大学言語認知総合科学COE 21 論文集刊行委員会 56 富眞正裕 56 富樫純一 36, 40 時崎久夫 46 土岐哲 26, 50 土岐留美江 13 徳井厚子 30 徳川宗賢 4 徳永健伸 19 土佐尚子 38 ドナ・エリクソン 16 外池滋生 9, 13 富岡奈緒子 13 友定賢治 22 豊島正之 23 鳥飼坎美子 38

な 内藤千珠子 60 永井忠孝 21 中井久夫 16 長岡千賀 38 長尾隆司 16 中尾俊夫 53 中川明子 40 中川千春 61 中川正宣 19 長坂水晶 33 中澤和夫 73 永澤清 14 中島和子 30 中島久朱 26 中嶋隆 59 中島平三 9, 48, 51, 52 中島泰貴 61 長嶋善郎 3, 5, 20 永瀬清子 62 永瀬治郎 38 園篤典 8 中園英理 59 中田清一 31 永田高志 23, 45 中谷健太郎 10, 78 中田賢之 26 中坪史典 85 仲見生 70 中東靖恵 16 長友俊一郎 35 長沼豊 69 野澤和典 55 長野泰彦 18 中浜優子 27 中林眞佐男 57 仲間恵子 10 中丸茂 38 中道知子 5 中村明 19 中村功 38 中村たか子 78 中村太戯留 19 中村秩祥子 76 中村ちどり 21 中村敏枝 38 中村則子 56 中村雅子 33, 34 中村捷 48 中村みどり 85 中村三春 62, 64, 65 中村桃子 75 中村芳久 63 中村良衛 61

中村涉 7, 74 中本敬子 19, 22, 36, 74 仲本康一郎 74 中森蒼之 46, 58 中森康之 59 橋元良明 60 中山昭彦 26 中山峰治 26 夏木好文 69 鍋島弘治朗 19, 73

新居田純野 14 新野直哉 15 新村朋美 31 二枝美津子 9, 73 西浦定継 85 西尾純二 22, 76 服部隆 3 西尾寅弥 18 西尾由里 26 西垣通 38 錦咲やか 62 西郡仁朗 38 西阪仰 39, 40 西田隆政 51 西田谷洋 65 仁科弘之 7 西納春雄 55 西原鈴子 28, 38 西部由佳 30 西村秀夫 12 西村史子 38 西村義樹 20 西山佑司 2, 5, 35 ニック・キャンベル 16 新田春夫 83 仁田義雄 1, 18, 35, 37, 50 日本語ジェンダー学会 17 二村健 84 任利 65

ぬ 布尾勝一郎 76 沼田善子 11, 48

ね 根岸雅史 38

の 野口哲也 62 野口実 61 野坂昭雄 62 野澤和典 55 野澤元 19, 74 野島久雄 38 野田春美 84 野田尚史 3, 36, 40, 54 野原康宏 7 野村剛史 3, 18 飛田良文 13, 45 野村眞木夫 2 野村雅昭 3 日野資成 73 野本和幸 36 野矢茂樹 20 野山広 29 野呂幾久子 39 野呂香代子 83 野呂健一 74

は バージニア・シャー 70 ハイコ・ナロック 7, 18, 35, 78

白晨 21 莫言 68 橋本修 8, 18, 48 橋本直幸 31, 32 橋本裕之 66 橋元良明 38 橋本和佳 14 長谷川信子 9, 17 長谷川典子 38 長谷川哲子 56 長谷部郁子 78 長谷部陽一郎 74 島山真一 78 畑佐由紀子 38 島弘巳 50 蜂谷清人 23 八田直美 34 服部四郎 3 服部隆 18 花蘭悟 26 羽野ゆつ子 19 馬場重行 61, 62 馬場千秋 86 濱川祐紀代 33 浜口稔 18 浜田秀 74 早川公 76 早川治子 17 早坂慶子 55 ハヤシザカズヒコ 32 林淳子 14 林四郎 3 林伸一郎 84, 85, 86 林徹 44 林博司 16, 40 林史典 50 林誠 40 林良子 16 林礼子 38 早瀬尚子 74 早津恵美子 3, 5, 14 原口庄輔 48 原田敦史 61 原田悦子 38 原田哲男 25 春木茂宏 41 春木仁孝 82 パルデシ・ブラジャント 21 春原憲一郎 29 半沢幹一 19, 22 半藤英明 35 板東美智子 78

ピーター・オースティン 18 東泉裕子 45 東森勲 36, 41 樋口辰雄 84 樋口昌幸 35 樋口万里子 74 日高水穂 8, 39 堀田良文 23 畢飛宇 68 肥爪周二 18 日野資成 50 日比谷潤子 20 姫野伴子 31 姫野昌子 3, 26, 56 白晨 21 兵藤裕己 64 平井剛 74 平賀正子 38, 52 平川真規子 43 平田一郎 48 平本毅 76 ヒルマン小根恭子 55

ふ 浮網茂信 12 黄美静 14 母育新 78 フィル・ベンソン 26 フェリス女学院大学附属図書館 72 深澤のぞみ 55 深田智 74 深田芳史 85 福島真人 66 福田嘉一郎 51 福永武彦 62 藤井明彦 83 藤井聖子 35 藤井洋子 38, 48 藤田篤 78 藤田隆則 66 藤長かおる 34 藤縄康弘 83 藤森弘子 26 札野寛子 27 洲上真由美 26 船城道雄 48 船越孝太郎 19 プライアン コバート 57 フランス・ドルヌ 48 古川嘉子 34 古田東朔 3 古橋信孝 18 古山宣洋 19, 39

ヘレン・フィッツジェラルド 41

ヘンリー・ワイドウソン 25

ほ 鮑十 68 法政大学大原社会問題研究所 70 坊農真弓 10, 40 方美麗 14 星井牧子 83 星野祐子 51 星山麻木 85 許舜真 56 細川裕史 83 細馬宏通 19, 40 細谷等 84, 85, 86 許哲 23 堀田秀吾 14, 21, 36 堀田隆一 46 許明子 24 ポリー・ザトラウスキー 40 堀井令以知 36 堀内仁 78 堀内夕子 57 堀田薫 7, 35, 73 堀川智也 5 堀口和吉 3, 17 堀啓子 61 堀正広 12, 22 本多啓 31, 35, 73 本田厚子 75 本田康雄 23

前川喜久雄 12 前田直子 5, 18 村上智美 85 前田豊 61, 62 牧野淳司 61 牧野信一 62 牧野由香里 27

孫崎玲 61 正高信男 39 ましこ・ひでのり 28 益岡隆志 35 増田博邦 39 フィル・ベンソン 26 フェリス女学院大学附属図書館 72 深澤のぞみ 55 深田智 74 深田芳史 85 福島真人 66 福田嘉一郎 51 福永武彦 62 藤井明彦 83 藤井聖子 35 藤井洋子 38, 48 藤田篤 78 藤田隆則 66 藤長かおる 34 藤縄康弘 83 藤森弘子 26 札野寛子 27 洲上真由美 26 船城道雄 48 船越孝太郎 19 プライアン コバート 57 フランス・ドルヌ 48 古川嘉子 34 古田東朔 3 古橋信孝 18 古山宣洋 19, 39

ヘレン・フィッツジェラルド 41

ヘンリー・ワイドウソン 25

ほ 鮑十 68 法政大学大原社会問題研究所 70 坊農真弓 10, 40 方美麗 14 星井牧子 83 星野祐子 51 星山麻木 85 許舜真 56 細川裕史 83 細馬宏通 19, 40 細谷等 84, 85, 86 許哲 23 堀田秀吾 14, 21, 36 堀田隆一 46 許明子 24 ポリー・ザトラウスキー 40 堀井令以知 36 堀内仁 78 堀内夕子 57 堀田薫 7, 35, 73 堀川智也 5 堀口和吉 3, 17 堀啓子 61 堀正広 12, 22 本多啓 31, 35, 73 本田厚子 75 本田康雄 23

明虫美喜 62 六川雅彦 47 村井則夫 84, 85, 86 村岡慈歩 85 村尾治彦 74 村上智美 10 村上史展 32 村上雄太郎 7 村木新次郎 50 村田和代 75 村田久美子 25

松井智子 17 松井夏津紀 18 松浦恵津子 14 松浦とも子 34 松尾葦江 61 松岡真理恵 32 松岡洋子 29 松木啓子 39 森岡卓司 18 松下大三郎 3 松田謙次郎 19, 76 松田陽子 29 松中完二 23 松中義夫 19 松村一登 44 松村宏美 78 松本功 70, 72 松本絵理子 16 松本和也 65 まつもとひろたけ 5 松本泰文 14, 17, 50 松本明子 42 松本曜 5, 22, 35, 74, 78 真野俊樹 69 マリアンヌ・ミスン 18 丸井一郎 83 丸田忠雄 5 丸山岳彦 40

ヘレン・フィッツジェラルド 41

ヘンリー・ワイドウソン 25

ほ 鮑十 68 法政大学大原社会問題研究所 70 坊農真弓 10, 40 方美麗 14 星井牧子 83 星野祐子 51 星山麻木 85 許舜真 56 細川裕史 83 細馬宏通 19, 40 細谷等 84, 85, 86 許哲 23 堀田秀吾 14, 21, 36 堀田隆一 46 許明子 24 ポリー・ザトラウスキー 40 堀井令以知 36 堀内仁 78 堀内夕子 57 堀田薫 7, 35, 73 堀川智也 5 堀口和吉 3, 17 堀啓子 61 堀正広 12, 22 本多啓 31, 35, 73 本田厚子 75 本田康雄 23

明虫美喜 62 六川雅彦 47 村井則夫 84, 85, 86 村岡慈歩 85 村尾治彦 74 村上智美 10 村上史展 32 村上雄太郎 7 村木新次郎 50 村田和代 75 村田久美子 25

も 毛利聡子 84, 85, 86 茂木健一郎 16 モクタリ明子 16 望月圭子 13 本居春庭 3 初山洋介 5, 73, 74 森篤嗣 30 森岡健二 3 森岡卓司 62 森香奈絵 82 森川正博 13, 44 森口絵 54 森幸一 16 森耕一 59 森田雅也 59 森田良行 4, 6, 16 森直久 39 森野崇 48 森野宗明 4 森本郁代 38, 40 森本順子 35 守屋哲治 7 森山新 25, 74 森山卓郎 36, 40, 50, 62 森山由紀子 75, 76 守屋三千代 31, 35 森雄一 19, 73

ヘレン・フィッツジェラルド 41

ヘンリー・ワイドウソン 25

ほ 鮑十 68 法政大学大原社会問題研究所 70 坊農真弓 10, 40 方美麗 14 星井牧子 83 星野祐子 51 星山麻木 85 許舜真 56 細川裕史 83 細馬宏通 19, 40 細谷等 84, 85, 86 許哲 23 堀田秀吾 14, 21, 36 堀田隆一 46 許明子 24 ポリー・ザトラウスキー 40 堀井令以知 36 堀内仁 78 堀内夕子 57 堀田薫 7, 35, 73 堀川智也 5 堀口和吉 3, 17 堀啓子 61 堀正広 12, 22 本多啓 31, 35, 73 本田厚子 75 本田康雄 23

明虫美喜 62 六川雅彦 47 村井則夫 84, 85, 86 村岡慈歩 85 村尾治彦 74 村上智美 10 村上史展 32 村上雄太郎 7 村木新次郎 50 村田和代 75 村田久美子 25

| | |
|-------|----|
| 山本多恵子 | 17 |
| 山本岳史 | 61 |
| 山本博子 | 14 |
| 山本富美子 | 26 |
| 山本芳明 | 64 |
| 楊金萍 | 14 |

ゆ

| | |
|----------|---------------|
| 由井紀久子 | 5 |
| 湯川恭敏 | 4, 15, 16, 54 |
| 遊佐典昭 | 7 |
| 油谷幸利 | 57 |
| ゆもとしょうなん | 3 |
| 由本陽子 | 7, 51, 78 |
| 尹亨仁 | 17 |

よ

| | |
|-------|------------|
| 楊凱栄 | 48 |
| 楊紅 | 26 |
| 横溝紳一郎 | 28, 38, 57 |
| 横光利一 | 62 |
| 横森大輔 | 74 |
| 横山悟 | 21, 22 |
| 横山詔一 | 51 |
| 横山紀子 | 25, 33, 34 |
| 吉井健 | 51 |
| 吉岡実 | 62 |
| 吉岡泰夫 | 36, 38 |
| 吉川武時 | 20 |
| 吉田恵以子 | 43 |
| 吉田研作 | 28 |
| 吉田忠彦 | 69 |
| 吉田達弘 | 57 |
| 吉田俊和 | 38 |
| 吉田朋彦 | 5 |
| 吉田永弘 | 61 |
| 吉田浩美 | 16 |
| 吉田光演 | 83 |
| 吉野亜矢子 | 54 |
| 吉野正 | 28 |
| 吉波弘 | 13 |
| 吉村公宏 | 35, 73 |
| 吉村紀子 | 26 |
| 吉本啓 | 3, 7 |
| 吉屋信子 | 62 |
| 米澤陽子 | 56 |
| 米勢治子 | 32 |
| 米田達郎 | 51 |
| 米田信子 | 16 |
| 米村みゆき | 62 |
| 萬美保 | 32 |

ら

| | |
|-----------------|----|
| ライブラリーマネジメント研究会 | 72 |
|-----------------|----|

り

| | |
|-------------|----------------|
| 李在鎬 | 10, 14, 22, 73 |
| 李徳泳 | 56 |
| 李馮 | 68 |
| 李勇華 | 61 |
| 劉慶邦 | 68 |
| リリアンテルミ ハタノ | 29, 36 |

る

| | |
|----------|----|
| ルカイヤ・ハサン | 41 |
|----------|----|

れ

| | |
|----------|----|
| レー・バン・クー | 48 |
|----------|----|

わ

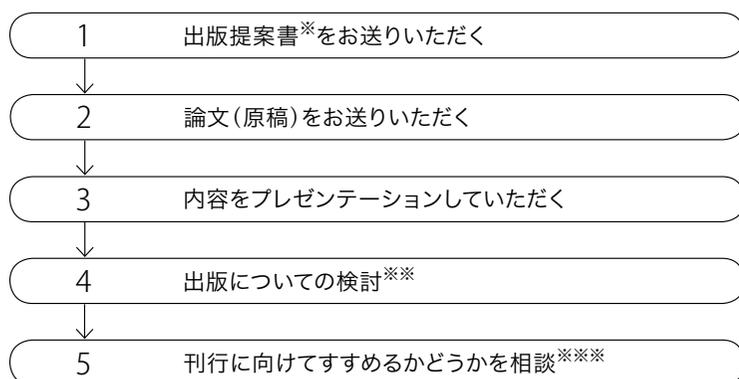
| | |
|----------|--------|
| 若狭基道 | 16 |
| ワカバヤシマサオ | 3 |
| 若生正和 | 7 |
| 和佐敦子 | 35 |
| 鷲尾龍一 | 13, 35 |
| 和田敦彦 | 61, 64 |
| 和田沙江香 | 26 |
| 和田茂俊 | 62 |
| 渡戸一郎 | 84, 85 |
| 渡辺昭太 | 18 |
| 渡辺伸治 | 36 |
| 渡部直己 | 62 |
| 渡部記安 | 69 |
| 渡辺秀樹 | 22 |
| 渡辺学 | 76, 83 |
| 渡辺美知子 | 47 |
| 渡辺義和 | 39 |
| 和田裕美 | 71 |
| 亘明志 | 36 |
| 王曉明 | 85 |
| 王鼎 | 23 |
| 王宏志 | 85 |
| 王路明 | 21 |

学術書の刊行についての相談

学術書を出すという気持ちをお持ちの方であれば、積極的に扉を開いていたいと考えています。ご自身の書籍を世に聞きたいというお気持ちがある方であれば、縁故も、紹介も必要はありません。入り口は開いています。どうぞ遠慮なく、ご相談下さい。これまでひつじ書房から本を出されたことのある方も、どうぞ遠慮なくご連絡下さい。

ご相談方法は2つあります。漠然としている段階で、具体的な相談ではない場合、これから博士論文を書くので一度話しを聞いてみたい、あるいは、ざっくばらんと話しを聞いてみたい。このような場合は、オープンオフィスにお越し下さい。2つ目の場合、博士論文を書き上げられた、具体的にこの内容で本にしたい、研究グループで研究成果を学術書にしたいなどなど、具体的な方向性や内容が出来ている場合は、出版提案書（プロポーザル）をお送り下さい。プロポーザルを拝見して、論文を送っていただいたり、お越し頂いたりして進めましょう。

- 研究の内容
 - 読者・市場
 - 製作コスト
- } 刊行を判断する際にポイントとなるテーマ



検討するプロセスで、2～3ヶ月はかかります。これらのプロセスは、はじめてご相談する場合ですので、以前から研究内容を存じ上げていたり、過去に研究発表を拝見している場合などには、プロセスを省くこともあります。また、順番も適宜変わることがあります。

詳しくは、下記のページをご覧ください。

<http://www.hituzi.co.jp/hituzi-ml/index.html>

※
出版提案書。wordファイルのひな形が以下にあります。
<http://www.hituzi.co.jp/hituzi-ml/proposal-index.html>

※※
検討のプロセスで、査読者に見てもらうことがあります。

※※※
条件や希望をご相談します。日本学術振興会の研究成果公開促進費の申請を行うかどうかなどについても相談します。